

商青連設立20周年記念誌

## 商工会議所青年部

**立ち止まるな!**  
**そして胸を張れ!**



日本商工会議所  
全国商工会議所青年部連合会

「伸びゆく大地」

作詞 石井 耕二  
作曲 石井 敏

一 伸びゆく大地 日本  
伸びゆく大地 青い空  
広がる街なみ 青い空  
集える仲間が それぞれに  
地域を支える 気概持つ  
願いをかたちに 変えるため  
商工会議所 青年部  
求めて我らは 立ち上がる

二 幾山河を 越えていく  
幾山河を 越えていく  
道は果てなく 遠いけど  
夢追う気持ちは 忘れない  
人と人が 語りあい  
心と心を 結ぶため  
商工会議所 青年部  
時代を我らは 先駆ける

三 自由の海の 渚には  
自由の海の 渚には  
世界の波が 打ち寄せる  
歴史の舵は 一つの世も  
熱ある者が 取ってきた  
豊かな郷土を 築くため  
商工会議所 青年部  
明日に我らは 船出する

綱 領

商工会議所青年部は  
地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い  
次代への先導者としての責任を自覚し  
地域の経済的発展の支えとなり  
新しい文化的創造をもって  
豊かで住みよい郷土づくりに貢献する

指 針

われわれ青年部は

- 一、地域を支える青年経済人として 先導者たる気概で研鑽に努めよう
- 一、国際社会の一員であるべき 国際人としての教養を高めよう
- 一、豊かな郷土を築くために 創意と工夫 勇気と情熱を傾けよう
- 一、文化を伝承しつつ 新しい文化の創造に向かって歩を進めよう
- 一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ 力を合わせ 国の  
礎となろう

# はじめに

商工会議所青年部は、平成14年10月末日現在、全国527商工会議所中447ヶ所に設置され、会員数は、1千名を超える女性会員を含め今まさに3万人に手が届こうとしております。そして本年度、全国商工会議所青年部連合会（商青連）は昭和58年4月に発足以来20年目を迎えました。

過去、商青連では5年ごとの節目の年に記念誌を作成し、商青連の成長の過程を綴ってきました。5周年記念誌『明日への挑戦』で「これからの青年部を考える」というテーマを取り上げ、10年記念誌『翔け YEG』で「今後の青年部のあり方」と「将来への提言・ビジョン」を、そして15年記念誌『YEG 新たなる出発（たびだち）』では、歴代会長による座談会や全国YEGからの提言を通じて、変革期の青年部のあり方をふまえた「中長期ビジョン」を掲載してきました。そして今回発刊する20周年記念誌は、新たなる10年に向かって「立ち止まらず、そして胸を張って」商青連が歩んでいけることを願い作成しました。

この冊子においては、まず、平成13年度に商青連が日本商工会議所の定款に位置付けられたことに合わせ、日本商工会議所の山口信夫会頭と商青連の大脇唯眞 平成14年度会長のお二方に、明日の日本、明日の青年部について対談の中で熱く語っていただきました。また、全国の単体会長の皆様を対象にアンケートを実施させていただき、現状をお聞きするとともに、商青連の組織や事業内容について貴重なご意見や提言をいただきました。そしてそれらをふまえ、「21世紀型の中長期ビジョン」として集約いたしました。

商青連は、設立以来、常に前向きに「青年部のあり方」を模索してきました。そして、20年を経て成熟期を迎えつつある商青連が、今一度「YEGとは何か」というテーマで考えてみる時だと思えます。この冊子に掲載したご意見や提言が、今後の青年部活動にとって貴重な資料となり、またこれからのYEG活動の指南役として、タイトルの「立ち止まるな！そして胸を張れ！」のごとく各地青年部が更に飛躍するためのお役に立てるよう願ってやみません。

最後に、本記念誌の作成に当たり、対談の際に貴重なお時間を頂戴いたしました山口信夫会頭をはじめ、ご寄稿、ご助言、ご協力を賜りました皆様方に、心より感謝申し上げます。

平成15年2月

日本商工会議所  
全国商工会議所青年部連合会

平成14年度 20周年記念事業委員会

# 目 次

「ごあいさつ」 日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会 会長 大脇 唯真 ……	1
「明日の商青連・青年部への期待」 日本商工会議所 会頭 山口 信夫 ……	2
<b>青年部活動への提言</b>	
商青連歴代会長メッセージ〈第15代～第19代〉 ……	3
初代～第14代商青連歴代会長紹介 ……	8
<hr/>	
Y E G宣言 ……	9
対談—日商会頭・商青連会長 ……	10
商工会議所青年部 会長アンケート ……	24
中長期ビジョンまとめ ……	36
<hr/>	
<b>商青連のあゆみ</b>	
設立趣旨 ……	41
設立からのあゆみ ……	42
年度別事業概要・歴代専務理事寄稿〈平成9年度～平成13年度〉 ……	46
全国大会のあゆみ ……	67
ブロック別商工会議所青年部運営研究会・ブロック大会のあゆみ ……	75
中央研修会・全国会長研修会のあゆみ ……	78
歴代役員名簿 ……	81
<hr/>	



日本商工会議所  
全国商工会議所青年部連合会  
第20代会長

## 大脇 唯真

# 「二十歳を迎えて！」

おどま薩洲  
おどま薩洲 薩摩の不二歳（ぶにせ）  
色～は黒くて 横ばいの小じっくい  
今～じゃ こげんしっせー 唐芋どん食うちよっが  
やが～ちゃ天下のご意見番よ  
そん時や わいどんも おいげー来んか おいげー来んか

おどま薩洲 薩摩のぼっけもん  
下駄を鳴らして 大道闊歩  
長～い だんびら すらりと抜いて  
髭を剃るにも かみそいやいらぬ  
ごしごし 剃～るは 面ん皮（か～わ）厚ちい 面ん皮（か～わ）厚ちい

おどま薩洲 薩摩のよこれ  
味噌～と素だっつきよで 鍛えた度胸  
今～じゃ こげんしっせー やんかぶっっちゃおっどんがー  
やが～ちゃ 天下を 股ばいに 引っぱすん  
そん時や わいどんも おいげー来んか おいげー来んか

※不二歳＝不細工、無精者等の意  
小じっくい＝豆弾丸のような、いわゆる山椒は小粒でピリリと辛いという意  
ぼっけもん＝お騒がせ者・肝っ玉の座った者等の意  
やんかぶる＝みっともない・放浪者・だらしないの意  
天下を股ばいに引っぱすん＝天下を股ぐらにぐいと引き込むという意

概要＝いつかきつとこの手に天下を取り、日本という國を我々薩摩が引っ張って行くんだという意気込みを唱ったもの

我ら薩摩の誇り高き獅子達が混沌とした幕末の世に声高らかに唱ったであろうこの詩を、今年度私は、全国の至る所でまず冒頭に唱わせていただきました。自分自身に、単会に、地域に、そして己自身を育んでくれた我が故郷に誇りと自信を持って！という意味と、自分らしさを大切にしよう！との意味合いを込めて、熱唱させて頂きました。まずは私のこの振る舞いを甘受して下さいました皆様に、この紙面をお借りしましてお詫びと感謝をさせていただきます。

20歳！人に例えると社会人となり、自分自身に責任と自覚を持ち、足下をしっかりと固めなくてはならない歳です。「日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会 設立20周年！」の響き、私が商青連会長を拝命した際に輝かしくも、重くのしかかって来たフレーズでした。一口で20周年、云うは易しですが、ここに辿り着くまでの道のりを考えますと感慨もひとしおです。日数に換算すると約7千3百日、時間にするると約17万5千2百時間もの時を経てきた訳です。そしてそこには歴代の会長並びに多くの諸先輩方の艱難辛苦の足跡がしっかりと標されているのです。奇しくも20周年という節目の年に私が拝命した商青連会長、商青連20年の歴史の中で単なる通過点になるのではなく、一つの起点として何らかの結果を残し、次代へとしっかりとバトンタッチしなくてはならないのだという使命感を冒頭のおどま薩洲の唄に込め、今年度3万人の会員そして、親会に対し青年部の代表として切り込んできたつもりです。

平成14年度は私一人の、また商青連の一步ではなく、3万人の確かな一步を踏みしめるんだという覚悟の下全国行脚をさせていただきました。その折りに全国の仲間に「どうせやるなら納得という二文字をしっかりと感じ取れる成功を納めましょう！」といった趣旨のお話をさせていただきました。我々青年部は、やらされているのではなく自発的に積極果敢に取り組む姿勢が大切なのです。人が一人で生きられないように、企業もまた一社では生きてゆけません。青年部の活動によりまず自分たちが生きる社会を創る。そうすることによって必ずや自企業の前向きで、かつ発展性のある考え方にシフトされるものであると確信します。その中で初めて我々青年部の根気・やる気・負けん気が必要とされるのではないのでしょうか。我々は進化を続ける経済団体でなくてはならないのです。各々の企業が発展を遂げることにより商工会議所も地域も成長し、そして豊かにならなくてはならないです。この先25周年、30周年と我々商青連は歴史を重ねてゆくことでしょう。その時に自らがその式典に花を添えられるそれぞれの地域に於いて、はたまた日本を代表する一番店・或いはトップ企業を目指して共に頑張っていこうではありませんか。そして商工会議所青年部であることを我々の手で胸を張って、実証していこうではありませんか。

最後になりますが、ここまでこの商青連をしっかりとご導き頂いた歴代会長並びに諸先輩方に心から感謝と御礼を述べさせていただきますと同時に、これから後に続く後輩の皆様方が、揺るぎない信念の下、商工会議所青年部を愛し互いに切磋琢磨しつつ、自企業との両立を遂げることが出来るよう心の底から祈念申し上げまして「二十歳を迎えて！」に言葉を添えさせていただきます。有り難う御座いました。



日本商工会議所 会頭

## 山口 信夫

# 「明日の商青連・青年部への期待」

全国商工会議所青年部連合会の設立 20 周年を心からお祝い申し上げます。また、全国各地の青年部の皆様方には、日頃より商工会議所の事業活動に積極的にご参加いただき、誠に心強く感じる次第です。

次代の地域経済社会の担い手である商工会議所青年部の皆様方は、青年経済人としての資質の向上と相互交流を通じて、自らの企業をはじめとする地域経済の健全な発展ならびに豊かな地域社会の構築に努め、商工会議所活動の活性化に大きな役割を担ってこられました。とりわけ、全国組織である商青連は、各地の特性を活かして地域に根ざした様々な事業を展開するとともに、地域の枠を越えた青年部相互の連携事業に積極的に取り組み、各方面から高い評価を得ています。これもひとえに、歴代会長をはじめ、役員ならびに全国の青年部会員の皆様方の永きにわたるご努力の賜物であり、深甚なる敬意を表する次第です。

この 20 年間は、わが国経済社会を取り巻く環境が大きく変化した激動の時代でありましたが、この間、商青連も時代とともに大きく変化いたしました。このたび、設立 20 周年を機に記念誌を取りまとめることは、全国の青年部会員 3 万人が次の新しい時代に向けた商青連のあり方を考えるうえで大変意義深いことであり、地域の更なる発展に大いに資するものと確信しております。

ご高承のとおり、21 世紀の初頭、世界が不安や摩擦をはらみながらも、新たな秩序の構築に向けて模索をしている中で、わが国経済社会は大きな変革期に差し掛かっています。経済構造改革、税制・財政構造改革、社会保険・医療制度改革、街づくりの推進、少子高齢化社会の到来等、わが国の将来を左右する極めて重要な課題への対応を迫られており、今が正念場であります。この大きな変革期に際し、私ども商工会議所に対する期待と役割はますます大きくなってきております。商工会議所は、地域に根ざした総合経済団体として、中小企業の持つダイナミズムとバイタリティが存分に発揮される新しい日本経済と、潤いのある地域コミュニティの中で豊かで安全な暮らしを実現する道を追求め、「健康な経済」、「健康な地域」、ひいては『健康な日本』を築いていかなければなりません。

このような時にこそ、柔軟な発想力とエネルギーな行動力を持つ青年部の皆様方が英知を結集され、商工会議所活動の新たな展開と豊かな地域社会の実現に向けて、地域経済活性化の起爆剤となるべく積極的にリーダーシップを発揮していただくことが求められております。全国各地の青年部の皆様方には、日本商工会議所並びに各地商工会議所と一体となって、柔軟かつスピーディーな行動力で、日本経済再生のため一層活発な活動を展開し、新しい時代を切り開くために力を尽くしていただきたいと存じます。

商青連の皆様には今後とも、青年部の全国ネットワークを活かして、全国各地の青年部相互の連携を一層強めるとともに、豊かで活力ある地域経済社会の創造に向けて、従来にも増して活発な事業活動を展開されますよう心からご期待申し上げます。

## 「時代を先駆ける先導者としての行動に期待する」



第15代 平成9年度会長

大村 晴利 (大宮YEG)

平成9年度、第15代会長を務めさせて頂いてから早いもので5年もの時間が過ぎ去りました。『「直接交流」「直接実感」連携そして共生へ・YEG新たなる出発(たびだち)』と言う歴代の中で一番文字数の多いスローガンを掲げ、熱い熱い商青連スピリットを、そして広い全国と言うフィールドの面白さを実感して頂きたくて…、全国各地の単会の一人でも多いメンバーの方々と顔と顔を向かい合わせ、体温を感じながら商青連の、そして平成9年度の思いを直接感じとって頂きたいと言う一念で、いま顧みますと無我夢中で、がむしゃらに走り続けていたように思います。

創生期から充実期へ、ステップアップしていく商青連の中であってどうしたら全国三万人のメンバーの期待に沿うことができるのかと言う永遠のテーマのもと、毎年県連から一人の出向者しか出られないというシステムから、志のある者や熱のある者に対して商青連の門戸を大きく開放させる事により、商青連と単会をダイレクトに結びつけ、商青連を身近に感じて頂きたいと言う思いと、自企業の発展と自己研鑽につながる目的を持った「ヤングリーダー研修」の設立、プロフェッショナルな集団になり得る「同業種の小委員会」の設置やその運営の中から生まれた所轄省庁とのパイプの構築、自民党商工部会との懇談会を持ったこと等の実績の裏には、執行部内で激論を交わしあう日々の連続で涙ぐましい調整や努力のあったことなども今となれば楽しい思い出となっています。

またアジア商工会議所連合会(CICCI)の要請により韓国・濟州島での第56回理事会に商青連として初めて出席させて頂き、世界への大きな扉を開けられたことなど実績を積み重ねられたことも平成9年度の副会長、専務理事を始めとした出向役員の全てが真剣に考え、本気で取り組んでくれた証であったと思いますし、今でも大変誇りに思えるほど充実した年でありました。

10年から15年へと繋がる不連続の連続の中であって組織変革が行われ、事業の推進もあり、商青連の認知度も高まりつつあったとはいえ、まだまだ本当に理解して頂ける様になるまでにはかなりの時間が必要であろうと思っていました。しかし、そんな中でさえも全国のYEGから歓迎され、温かくむかえられる下地が整いつつあったことは、それまでの神谷、櫻井、佐藤、辻、松田の諸先輩会長のご努力とその会員に対する気配りや手腕に感謝するばかりでありました。まして平成7年度辻会長の年には『連携』事業の提唱がされ、8年度の松田会長と9年度の私の年までの3年計画で『連携』事業を継続し推進しようとの約束があり、その最終年度である15年目の平成9年度で集大成としての実績を残すことの申し送りを受けバトンを渡されたことが、強い思い入れや緊張感と共に、張り切りざるを得なかった最大の理由であったことは言うまでもないことであります。

商青連・10周年記念誌、「<sup>はばた</sup>け YEG」と共に、平成9年度の15周年記念誌「<sup>たびだち</sup>新たなる出発」がYEGを、商青連を、理解する上で全国の単会において入門書として使用され、若いメンバーの方々にも読まれていると言うことを耳にするたび大変うれしく思うと共に、あらためて会長という役職を経験させて頂いた者としての責任の重さを痛切に感じている次第であります。

YEGの本質は、自らの企業を通じて社会・地域に貢献することであり、各地商工会議所の一翼を担うべき下部組織としての位置付けであります。親会への提言・協力を通して同一の認識を持つ組織体であり、若さという特権があるにせよ、決して民の官僚化傾向を有してはならないはずであります。本年20周年という記念すべき年を迎えたその責任として、行政改革時代のYEGの在り方、商青連の本質についても、いまここで再興すべき時であろうと思います。常に時代を先駆ける感性と俊敏な行動力を発揮できる先導者としての意識と誇りを持った組織であり続けることを強く強く望みます。

大変難しい時代ではありますが、存続価値を失わず、万人に認知され必要とされる有意義な商青連として、ご発展されることをお祈り致しております。

個々の力を活かし、積極的なチャレンジを



第16代 平成10年度会長

吉本 博次 (奈良YEG)

商青連設立20年の年を迎え、心よりお祝い申し上げます。

また、昨年度には日商の定款にも位置付けられ、益々、商青連そして全国のYEGの活躍が期待されています。

経済の低迷が続くなか、企業間の二極化、消費の二極化が進み、日本産業の底辺にある中小企業には、大変厳しい状況にあります。

期待を持って迎えた21世紀、世界の流れに、日本の流れに、大企業の流れに期待、それは、人まかせ、人だより、そんな甘えがまだ我々の心のすみにあるのではないのでしょうか。

連鎖倒産、よく耳にする言葉ですが、今までの粹・しがらみを断ち切り、勇気を持って、アントレプレナーズ精神を発揮し、チャレンジしなければならない、それが、企業を代表する我々の責任ではないのでしょうか。

平成8年度、奈良で全国大会を開催するよ、したがって、平成10年度の全国の会長は奈良から出さなくてはならない、先輩の言葉に我が耳を疑い、まさか自分が全国の会長を受けるとは思ってもいませんでした。

「チームワーク」この言葉が奈良の全国大会を無事済ませ、微力ながら、第16代会長として、全国を廻らせていただいた、最大の力だった様に思います。

商青連に出向し、歴代会長や役員、理事の皆さんの話を見聞きし、それは、愚痴だったかも知れませんが、商青連を思い、地域のYEGを思う諸先輩に感心させられました。

商青連、そのベースは地域のYEG活動です。地域を支える青年経済人として、個々の力を集大成し、2倍にも3倍にもできるのがYEG活動ではないのでしょうか。また、そんな地域のYEGエネルギーを集め、全国に発信する、それが商青連の最大の役目ではないのでしょうか。

20年の歴史を刻み、新たな一步を踏み出す商青連、全国のYEGネットワークを活かし、すばらしいYEGチームワークを築いてください。

最後に、歴史を築いてこられた諸先輩方、関係各位の皆様にご感謝申し上げ、後輩達の益々のご活躍を祈念申し上げます。





第17代 平成11年度会長

北島 重利 (徳島YEG)

商青連の20年に当たりお祝い申し上げます。

20年の成人式を迎え、今迄の組織作りや内部体制強化を重視した時代から外向きにアピールする時が来たのかも知れません。

さて、私が会長の平成11年は、日本は不景気の真っ最中、そしてアメリカは好景気でした。「翔生塾INアメリカ」としてサンノゼのシリコンバレーを視察研修しました。そして3年、アメリカ発の不景気が日本を尚一層の苦境に陥れつつある事を考えると感慨深いものがあります。

今後、益々混沌とした経済情勢の中で商青連若手経済人は、今こそアントレプレナーズスピリッツ（起業家精神）で次の日本の経済復興を計り、経済維新の風を起こして下さい。

最後に商青連メンバーに詩を贈り激励の言葉にします。

### 燃える目を失ったら

僕達に熱い心がなければ

経営をする資格がない

僕達に夢がなければ

夢のある企業が作れない

僕達が傷の痛さを知らなければ

パーフェクトな組織ができない

僕達が心ゆたかでなければ

やすらぎの社会を与えられない

ものの時代からハートの時代へ

より高度の技術が要求される21世紀

感情豊かなアントレプレナーをめざして

よちよち歩きの商青連から世界No.1をめざして

今この時を大切に新鮮な心で進んでいこう

地域に、時代に必要とされる組織であれ



第18代 平成12年度会長

倉橋 純造 (青森YEG)

商青連設立20年の記念すべき年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

平成12年度第18代会長を務めさせていただき2年が過ぎましたが、商青連に出向した4年間に全国の多くの仲間との出会いや、貴重な体験をすることができましたことに、商青連関係者・各地YEG・親会をはじめ多くの方々にお礼申し上げます。

振り返ってみますといろいろな事がありましたが、その中でも2つのことが印象に残っております。一つは、親会であります日本商工会議所の定款上に正式に認定されたことと、地域で頑張っている単会を全国のメンバーに紹介すべくYEG大賞を提案させていただいたことです。定款の認定については、より一層青年部活動の充実が図られますが、その分責任も重大になると思います。また、YEG大賞は、思いつきの非難もありましたが、各地域で一生懸命知恵を出し、汗をかきながら活動している単会を全国で紹介することで、青年部活動の様々な取り組みをPRできたと思っております。

「青年」の名を冠した私たちの組織は、個である一人一人が、夢を持ちつづけ、未知なるものへの憧れや、若者らしいチャレンジ精神が不可欠であるはずですが、そこには、恐怖心や挫折感も背中合わせになりますが、それを乗り越えてこそ夢が実現するのではないのでしょうか。個の幸せが家族の幸せへ、企業の発展が地域の発展へ、国の貢献が人類への貢献へ、個の幸せが人類への貢献へと同心円的に広がっていくものと考えております。企業人である個の集合体の商青連は、経済人という立場から常に上昇思考を持ち、新しい発想や新しい行動を求めて、人的情報ネットワークに裏付けされた決断・方策・戦略を武器に前に進むべきです。

商青連に必要なことは、全国3万人の有機的なネットワーク化を図り、シンクタンク的な機能を持たせ、風土や環境の違う各単会の意見を集約し、同一提言できるシステムを構築することだと思います。それもデータ集計等に頼ることなく、多種多様なジャンルにわたる一般経済人の経営現場の声を、集約、反映した形でいいインパクトのある有意義な提言をしていただきたいと思います。

そのためには、自らの役割と責務を真剣に考え、目標を決めて行動することが必要ではないでしょうか。

最後に20才の商青連がますます各地YEGと連携を密にし「熱」をもって、地域を引っ張り、国を動かす原動力にならんことをご期待申し上げます。

新しい時代への出発  
自信と実践でできる組織へ

第19代 平成13年度会長

古泉 幸一 (亀田YEG)

商青連創立20周年を大変うれしく思います。昨年度会長職と言う大任をさせて頂き、大変な名誉であったと同時に、その責任の大きさを改めて思い出しています。

昨年は商青連が日本商工会議所の定款に記載され、その存在を公式に認めていただいた年度でした。多くの諸先輩方が夢を見、希望した事でありました。その夢を昨年に果たす事ができ、またその場に自分自身が居合わせた事を本当にうれしく思います。ひとえに商青連に関わりをいただいた歴代の役員の皆様と、全国で数々の事業を展開して頂いているYEGメンバーの努力の賜物と思い感謝致します。青年部の綱領の中に、「商工会議所の一翼を担い…」とありますが、これからは一翼といわず各地商工会議所の中心となり、会員皆様には活動をお願いしたいと思います。

商青連も20年前発足当時とは、かなりその存在意義も変わったのではないかと思います。現在の私たちが包む経済環境も最悪としか言いようがありません。今までと同じことをしていても、同じ売上も利益もあげることができません。商青連のネットワークを活かした情報の活用も、今こそ実行に移してはじめて結果になるのではと思います。会員メンバーの事業の成功、そして地域の発展こそが商青連の一番の存在意義だといえるような気がします。

「ヤングアントレプレナーズグループ」と青年部は自らをそう呼んで活動してきたわけですが、これまでずっと使われてきた中で、今の時代こそがまさしくその呼び名に考えさせられる時ではないかと思います。15年前に私自身が青年部に入会をし、アントレプレナーという言葉は初めて知りました。小さな会社の2代目として、ただ親のやってきたとおりの仕事の繰り返しの中では、あまり心に響く言葉ではありませんでした。今、時代が急速に変わり、前例踏襲型のやり方では立ち行かなくなってきました。同じ仕事を行うにしても、起業家精神が必要なのではないでしょうか。アントレプレナーという言葉が、今本当に大きく心に響いています。

これからまたどんな十年を送っていくのでしょうか？時代がどんどん変わっていくのですから、日本商工会議所が新しい時代にあった組織になっていかなければならないと生意気ながら思います。やはりその変革の中心は青年部であると思いますし、またそうあって欲しいと願います。日本商工会議所の幾つかの委員会には代表者を送り、意見を述べる機会も頂いています。商青連が必要とされていることを感じますし、期待も感じます。ぜひその期待にこたえられる商青連であって欲しいと思います。もちろん、全国3万人の会員メンバーのご協力なくしてはできません。今後とも変わらぬご理解をお願いいたします。

初代～第14代  
商青連歴代会長



初代 昭和58年度代表幹事  
**曾我隆一**  
(前橋YEG)



第2代 昭和59年度代表幹事  
**竹中勝治**  
(高岡YEG)



第3代 昭和60年度代表幹事  
**安部谷次郎**  
(豊後高田YEG)



第4代 昭和61年度代表幹事  
**中山昌男**  
(土浦YEG)



第5代 昭和62年度会長  
**古川伸二**  
(福井YEG)



第6代 昭和63年度会長  
**萩原幸昭**  
(原町YEG)



第7代 平成元年度会長  
**石川正一**  
(那覇YEG)



第8代 平成2年度会長  
**小林幹生**  
(岩国YEG)



第9代 平成3年度会長  
**和田均**  
(高知YEG)



第10代 平成4年度会長  
**神谷竹彦**  
(浜松YEG)



第11代 平成5年度会長  
**櫻井誠己**  
(松江YEG)



第12代 平成6年度会長  
**佐藤善三郎**  
(山形YEG)



第13代 平成7年度会長  
**辻正敏**  
(津YEG)



第14代 平成8年度会長  
**松田祥吾**  
(長崎YEG)

# Y E G 宣言

私はY E Gとして、夢に挑む。

私たちはY E Gとして、地域を愛する。

すべてのY E Gは、連帯の証となる。

## 宣言趣旨

商工会議所青年部会員は、Y E G精神の下に、研鑽と交流を通じて、企業家精神をより一層高め、大きく成長していかねばならない。一人一人のY E Gは、自らの企業の発展を原点として、さらに地域社会への貢献を考え、それぞれの夢に若さと情熱をもって積極果敢にチャレンジし、経済人としての自己実現を図っていかねばならない。

商工会議所青年部は、地域を愛している。活動の基盤を地域に置き、独自の歴史と文化、その地域の特性を十分活かして、豊かな住みよい地域を創造していく。一人一人のY E Gが、そして若き企業家集団であるY E Gが、次代の地域の担い手として、今後とも商工会議所活動の一翼を担い、より活力ある地域経済社会の実現に向けて全力で取り組んでいく。

全国商工会議所青年部連合会（商青連）は、すべてのY E Gの連合体として、日本商工会議所の方針を踏まえ、Y E G（若き企業家集団）のビジョンを内外に示し、各地青年部の活動支援・調整、組織強化を行い、そのネットワークを最大限に活かして、地域の枠を超え、青年部の活性化と機能強化を図っていく。そして、私は、また私たちは、全国的な交流を促進し、Y E G精神の一層の高揚を図り、連帯の証となる。



日本商工会議所  
山口 信夫 会頭

# 対談



日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会  
大脇 唯真 会長

平成14年7月25日、日本商工会議所において、山口信夫 日本商工会議所会頭と我らが大脇唯真会長との対談が行われました。

大脇会長の熱き思いを日本丸のリーダーでもある山口会頭がしっかり受けとめて頂くとともに、青年部活動にも大きな期待を感じさせる対談でした。

また、教育問題、合併問題、空洞化問題などにも触れ、会頭の見識に富んだ一言一言が地域の先導者たるべき我々にとって貴重な指針になると思われまます。

- 出席者／山口 信夫 日本商工会議所会頭  
大脇 唯真 商青連会長（鹿児島YEG）
- 同席者／古泉 幸一 直前会長（亀田YEG）  
鈴木 悌介 副会長（小田原YEG）  
永桶 裕明 副会長（美唄YEG）  
中塚 総一郎 副会長（児島YEG）  
宗野 和博 専務理事（久留米YEG） ●記録／20周年記念事業委員会  
土橋 和則 顧問（日本商工会議所中小企業振興部 部長） 広報委員会

## 立ち止まるな！胸を張れ！ 青年部は負けじ魂、何くそ精神だ！！

大脇会長 始まります前に、本年度、恒例の…。  
それでは、いかせていただきます。（「おどま薩洲」  
歌う）

どうも失礼しました。（拍手）

山口会頭 いやいや、たいしたものだ。迫力があ  
ります。去年、小田原でも元気だったねえ。

大脇会長 はい。それだけが取り柄で、今年はや  
らせていただきます。

山口会頭 元気が一番ですよ。

大脇会長 全国3万人の会員がいるので、やはり  
トップとして恥ずかしくない、そして何より青年  
部なので、若者らしく、はつらつと元気よく、と  
いうことをモットーに、元気印を旗印にしながら  
先頭を走っていく気構えで頑張っております。

山口会頭 負けじ魂、何くそ精神が大事ですよ。  
日本人はそれが大事なんですよ。それでずうっ  
と日本は発展してきたんですよ。ちょっと最近緩  
んでますからね。

大脇会長 ぜひそこに、ぐぐっと…。  
商青連は全国に9つのブロックがありますが、私  
も、春、全ブロックの会長会議に出席させていた  
だき、そしてこの7月13、14日には鹿児島の枕崎

で、その先頭を切って今年一回目の九州ブロック大会がありました。その挨拶の中でも言わせていただいたんですが、我々は、自企業の発展がないことにはYEG、YEGとやっても本末転倒なので、自分の会社の企業の歯車とYEGという歯車、この両輪をうまく走らせなきゃならない。そこには、「やる気・根気・負けん気」という気概に裏づけされたしっかりとした車軸が必要であり、しっかりした信念のもとにある車軸を大切に突っ走りましょう！と。YEGのタイヤだけが大きいと、そこをぐるぐるYEGのみが回ってしまうということにもなりかねませんので、同じにタイヤを廻して、同じように信念をしっかり持って頑張ってください、ということでは言わせていただいています。

今、会頭が言われるように、まさに“負けじ魂”というのを、どこかでちょっと忘れかけているのかなというところに、今年、元気な私が皆さんにそういうものをちょっとでも与えられればいいな、という気持ちで頑張っています。

**山口会頭** さっきの歌は鹿児島弁が入っていて、西郷隆盛の感じですね。

**大協会長** そうですね。「やが〜ちゃ天下を股ばいに、引っぱすん」というのは、天下を股ぐらに引っ張り込むという、それぐらいの意気込みで、自分の懐に天下をガッと呼び寄せるんだという意気込みの歌です。これは、式典ですとか、何か事あるごとに、まずこれを歌わせていただいています。そこには自分らしさというのも大事にしないで、自分自身に、自分の地域に、自分のふるさとに、自分の企業に誇りを持ってということで、まず一発パーンと歌わせていただいています。

私が今年掲げているスローガンが「立ちどまるな！そして胸を張れ！YEGs, be ambitious！」です。こういう疲弊した状況だからこそ胸を張って走り続けなきゃいけないんじゃないか。「be ambitious」はクラーク博士の言葉を引用させていただいたんですが、「大志を持って大なる夢に挑め」というような気持ちも込めています。私はラグビーをやっていた影響

も少しあるものですから、何事にもチャレンジしていこうではないか、という気持ちの表れでもあります。

**山口会頭** そんな体格ですね。

**大協会長** ちょっと、今、要らん脂肪がつき過ぎなんですけど。(笑い) それではこの辺で、我々青年部の全体概要を、ちょっとご説明させていただきます。先ほど言いましたように、メンバーは約3万人おります。527商工会議所がある中で、今、447単会に青年部が設置されていて、397単会が商青連に加入しているという状態なんです。(注：10月末日現在) 今度、盛岡商工会議所と仙台商工会議所が青年部を設置していただきまして、どんどん増えてきています。市町村合併が実施されることによって増減はあるかも知れませんが、我々もそういう仲間をどんどん増やしていかなければなりません。

先ほども紹介がありましたように、今年が設立しまして20周年になりました。我々もここでもう一皮むけて、さらにステップアップするような団体になっていかなければならないと思います。私、常々言わせていただいておりますが、地域における原動力、活力源として経済の活性化を推進していく、そういったものを担う団体でなくてはならないと思いますし、使命感を持って、自分に誇りを持って突き進んで欲しいと考えております。ですから我々商青連は「Young Entrepreneurs Group (若き企業家集団)」、略称YEGと呼ばせて頂いています。

委員会としましては、総務、広報、研修、企画、そして、今年20周年特別委員会、それに加えてコミュニティビジネス委員会の6つの委員会があります。商青連のメンバーの志向理事というのは63名ほどいます。それとは別枠に公募で、意識の高い、何かを求めて、ビジネスチャンスを求めて、そして何か高いところ

ろを目指した人間が集まるアントレプレナーズ委員会という委員会が去年まであったんですが、余りにも膨れ上がったものですから、今年は精鋭部隊で委員会を別個に作ることにしました。最近よくお耳にされると思うのですが、コミュニティビ



ビジネス委員会というものを新たに組み込むことに致しました。それにNPOも絡め、石原さんという方に今年度、委員長をお願いしているのですが、その方がブロック大会の中でコミュニティビジネスについての講演をしております。更に具体的に、その地域で、「じゃあ、NPOを立ち上げよう！或いはコミュニティビジネスを何か興そう！」等の気運が高まり、今、いいムードになりつつあります。

TMO（※）ですとか、NPOですとか、昨年までのアントレプレナーズ委員会の中でやっていたものも、今年コミュニティビジネス委員会の中で、総括した中からいろいろなものを築き、舵を取りながら、それと関連する事業を何かやっというということを学びながら伝えています。

(※) 中心市街地活性化法に基づき、商工会議所、商工会、又は第3セクターが市町村により認定され、中心市街地における商業集積の一体的かつ計画的な整備を企画・調整・実施する機関

また、ブロック大会主管地は、本当に自分の単会を、もっと底上げしよう、もっと活性化を図ろうということで招致するんですね。そして今回の枕崎での九州ブロック大会にしましてもそうですが、ブロック大会をやった後に、これで火を消してはいけないのだという意識の下、まとまりをもって頑張っております。枕崎の実行委員長と話をした際に、彼が「この後どうするかが我々の課題なんです！」と力強く言っておりました。一過性のものでなくて、この後には、我々のこの一致団結したまとまりをコミュニティビジネス、NPOを立ち上げることによって、この地域をもっと活性化していかなければならないというふうに、今、枕崎にもいい空気が流れ始めています。

私が今年度会長で、次年度の会長予定者が小田原の鈴木さんなんですね。鈴木さんは、今の考えを更にレベルアップさせるような考え方でいらっしゃるし、毎年毎年、我々青年部は成長し続けていかなければならない団体であると認識しております。是非とも、会頭にも我々を陰ながら援護射撃といいますか、お支えいただくことをお願い出



ればと思っております。

**山口会頭** いや、力強いです。組織の活性化には、若い人のそういう行動力が必要ですね。そこに火をつけて動き出すと、全体の組織も動きますからね。

**大協会長** そうですね。昨年、定款に位置づけていただきまして、我々も「日本商工会議所」という看板を持ちながら意地や、プライドを、メンバー全員が持って活動しなくてはと考えています。

**山口会頭** まだその一角ですけどね。常議員会に出ていただいて、あと小委員会も…。教育問題と中小企業政策でしたか、出ていただいていますね。

**大協会長** はい。二人出させてもらっております。

**山口会頭** 一角だから、これからもっと意見がどんどん出せるような場をつくって、そして、それがまた、青年部にとってプラスになるようにしなければいけませんね。

**大協会長** はい。私もよく言うのですが、古泉前年度会長の前が、青森の倉橋会長、現相談役なのですが、その方が言われた中に、「我々青年部は、若さと、スピードと、情熱があるんだ。それをもって果敢に取り組んでくれ。」と。私は今年それにひとつプラスして言っているのが、「継続性を持ってやって欲しい」と。継続してやることによって愛着が沸く。愛着が沸くことによって何が生まれるかということ、固い結束という絆がそれぞれに生まれるんだ。だから、継続性を持ってやるのが、そこの一つのカラーにもなるだろうし、その地域の良さを、もっともっと膨らましていく一つの起点にしていこうと、今年、言わせてもらっています。

ぜひこれからも親会である日商の中にも、今、教育問題と中小企業政策ですが、他のいろいろな委員会にもどんどんお呼びかけいただきまして、青年部が、ガンガン参入出来る、そして意見を言わしていただいて、それがまた何かいいきっかけになればというような感じを持っております。

**青年部が火種になれ。今やらなければ、日本はだめになる。**

**山口会頭** 一つの動き、一つの点から大きな力になるんですね。一人の力、あるいは一つの力と



いうのは影響が大きいんですよ。それが複数になればもっと相乗効果がありますから。

**大脇会長** そうですね。一昨年、鹿児島が全国大会だったんですね。私、こういう感じなので、よく話がずれるんですけども、(笑い)うちの女房が山形なんです。鹿児島の大会会長としての挨拶の中で、山形の米沢藩の上杉鷹山公、あの方が言った言葉の中に、「やる気の火種を興せ」と。あっ、会頭ともゆかりがあるんですね。

**山口会頭** そうそう。私が会社の会長になったときは、上杉鷹山のあれを社員に言ったんです。宮崎県の…。

**大脇会長** 火種水鳥(ヒダネスイチョウ)ですね。その名前のついたお酒は、商青連に出向されている宮崎の先輩の会社で作られている焼酎です。

**山口会頭** あの辺ですね、鷹山が行った。

**大脇会長** 婿養子で、米沢藩へ行かれた方ですよ。話しは戻りますが、その挨拶で、「やる気の火種を燃やせ。その火種を近場の者にどんどん移していけ」という鷹山公の言葉を使わせていただいて、先ほど会頭がおっしゃいました、火になる部分というか、火種がありさえすれば、そこからどんどん、どんどん火種は移っていくと思うんですよ。そういうことをやっていくのが我々の仕事だと心から思っております。

**山口会頭** 火種を探すこと。火種は青年部ですよ。私は会社では、責任者の机の上に火吹き竹を置いていますよ。火種を吹けと。商工会議所でもやらなければいかな。

**大脇会長** そうですか。じゃあ、私も……。 (笑い)

**山口会頭** 最近は案外、火吹き竹が高いでしょう。熊本県に行って、そういうのをつくってくれるところがあるというので、何百本か頼んできて、責任者の机の上に火吹き竹を置きました。まず、若い火種を探すこと。あるいは古い人の火種を持ってくること。火吹き竹で吹くのは管理者の仕事だということですね。

**大脇会長** いいお話ですねえ、書いておいて… (委員会へ指図; 笑い)

**山口会頭** 火種は日本にはありますよね。そして各商工会議所にありますよ。それを探して吹いていくこと。やっぱり火種そのものになることも青年部の人にもあるでしょうけれども、吹いて、それを大きくしていくこと。上杉鷹山は、それで米沢藩を救ったわけですね。

**大脇会長** 財政再建を米沢藩の為に真剣にされた方ですものね。



**山口会頭** 途中、随分苦労してますね、あの小説を読むと。

**大脇会長** そうですね。ある意味、こうやって全国を行脚させてもらっている中で、地方、地域の歴史を紐解くと、その中に本当にその地域を愛して一生懸命、それこそ火種になった方々がいると感じます。勉強させていただいています。

**山口会頭** 日本は今、高度成長とバブルで痛みましたけれども、その間に戦後、それを盛り上げてきた人たちの気持ちが火種ですから、それは皆さんにも受け継がれているし、そのときやった人たちが、まだおられますから、そういう人から火種を受け取って、それを火吹き竹で吹いて、もっと大きな火にしていかなければいけませんよ。今やらなかったら、日本はだめになりますからね。それが青年部に対する我々の非常に大きな期待なんです。それは若い人でなければできないから。

**大脇会長** 鹿児島には知覧の特攻基地があるということで、私のDNAの中にも特攻魂も持ち合わせておりますので、ぜひともそういう、駄目で元々で特攻していく、そういう気持ちを持っているのも、我々若者の使命かなと思っております。

**山口会頭** 特攻隊は死んだけど、死んじゃいけないですよ。

**大協会長** はい。(頭をかきながら…；笑い)

**山口会頭** 自爆はいけません。しかし、本当に火の玉になったつもりでやっていかないと、日本はよくならない。今、一番大事な時だと思うんですね。

**大協会長** そうですね、全くその通りだと、私も思います。

**「健康な日本の創造」。そのための行動の中核は若者が担う。**

**大協会長** また話が少しずれるかもしれませんが、(笑い)今年度立ち上げるときに日本商工会議所の篠原常務からお呼びがかかりまして、広域市町村合併の推進・法人事業税の外形標準課税化反対・国内製造業の空洞化への対策・新規創業者支援、この4つを、親会は真剣に取り組んでいると聞かされており、メンバーにも伝えていますが、その中の空洞化に関連してですが、4日ぐらい前ですか、台湾新幹線を三菱重工等7社がとりましたですね。あれも、今のこの時代にすごくいい話が、また日本に来たなというような感じでおります。

今、中国へ中国へとWTO加盟からどんどん持っていかれている中…。もともと高度成長の原動力になったのは、やはり日本人の勤勉さと技術の高さです。もう一回原点を見直すような、日本人のすぐれた部分を見直すことが本当に必要なという気がいたします。

**山口会頭** そうなんです。原点を見直さなければいかんですね。特に若者が大事なんです。若者がそうしてもらわないといけない。幹部の人たちは、今からといっても、そんなにはないわけですから、若者がそのいいところの火種をとって、若者がそういう気持ちになってもらうということが大事です。だから、青年部の活動が非常に大きなキーファクターになるでしょうね。大事なんですよね。

**大協会長** はい。昨年、古泉年度のときに、世界大会の2回目が青年部の無い韓国で開催されました、そのときに大韓商工会議所の会頭が「君たちの熱い思いを私達に話しても、私達は先がないの

です。青年部を作り、そのジェネレーションの中で夢を語って、そして何年か後にまた会って、お互いに頑張ったと言えるような、そういう青年部を作らなくてはいけない、私達も」と言われた時には、ほんとに大挙して押し寄せてよかったなという感じがしました。

今、全国を廻ってみると、それぞれの地域で青年部が独自の活動もしながら、本当に熱い思いで、単会会長を先頭に頑張っているのがよく伝わりますので、ぜひ、このスクラムを解くことなく、韓国の手本になるよう我々も頑張っていきたいと思っております。

**山口会頭** 自分たちが思っている以上に大きな効果があるんですね。それを見ている人に刺激を与える、感動を与えますから、そこが一つの火の玉になって、それから火がおきてくるんですね。種火になってくる。



日本は、今、非常に難しい局面にあります。特に製造業の空洞化の問題。大手製造業が海外へ行きますと、中小企業の協力関係の会社がついていかなければならない。非常に大きな問題です。

企業の海外進出というのは雇用を伴いませんからね。経営の方は行きますけれども、雇用を現地の安い賃金を使うのが目的で行くんですから、雇用は行かないわけでしょう。そうすると、消費が落ちますから、ですから、日本の景気は悪くなる。

日本というのは資源がない国ですから、食料も原料もエネルギーも全部輸入しているわけです。ですから、外貨が要るんですよ。日本の経済を改善するためには、外貨というのは、現場では製造業の輸出でしか稼げないです。

金融とか、観光とか、要するにサービス業での稼ぎでは日本は赤字です、製造業がプラスですから、その差額の外貨で、今の加工貿易ができるわけです。それで日本を養っているわけですから、

製造業はある程度日本に残ってやってもらわなければいけない。そういう条件をつくっていかなければいけませんね。

もちろん、グローバルな時代ですから、グローバルというのは国際分業ですから、海外に行かなければならぬ事業もあるでしょう。日本ではやっていけない事業があるでしょう。日本でやれるものが、わざわざ外国に行かなくても済むように、日本にある企業が頑張っていくというのが、日本にとって、国民が幸せになるのに大事ですから、今、一番問題だと思いますね。

**大脇会長** そうですね。

**山口会頭** 外国の企業が日本に来れるような条件をつくらなければ、日本の企業は外国へ行くということですから、そのために日本人はどういうことをすればいいのかというのは、非常にハードルが高いんです。高度成長とバブルで、少し日本は豊かになり過ぎましたから、ここで踏ん張らなければならぬことがたくさんあるわけですね。

土地と株は一応ある程度下がって、バブルの以前の状態に戻りました。ところが、人間の気持ちとか、生活水準とか、いろいろなことが全部まだバブルのときと余り変わっていないわけです。その辺を引き締めて、さっき言われたように、何くそということで、勤勉さとか、技術の習得とか、学問、そういうことをもう一回頑張って、日本がやり直さなければ、日本は外国に負けてしまいます。韓国にも勝てないでしょうから。

今、経営とか、いろいろなことは先輩は上手ですよ。しかし、今言ったようなことをやるのは、若い人たちのバイタリティにしか期待できないわけです。若い人の力でしかそこは直せないですから、頑張ってくださいたい。

**大脇会長** はい。先日、今年の事業のひとつでもあります翔生塾という研修会を比叡山延暦寺居士林でさせて頂きました。全国から大体50名ぐらいのメンバーに来ていただいて、一泊二日の「研修」というよりはむしろ「修行」をさせて頂きました、その中で居士林の所長に講話を頂いたのですが、余りにもグローバル化された中で、日本人としての誇りとか、歴史や文化的なものを忘れかけてはいませんか。所長はいわゆる日本男児的な方で、胸を張って言われた中に、「フォークとナイフを使うのは当たり前じゃないだろう。我々にはきちとした箸という文化があるんだ。何も恥ずかしがることはない。箸で食べばい

いんだ。」というお話がありました。

自分たちにはそういう文化が、ちゃんとしたものがあるんだということ、もう一回しっかりと自分たちの胸に持ちながら、日々の生活を送って欲しいということを強く言われました。俺達は日本人なんだということ、更に日本人としての誇り、伝統、意気込みを伝えていくことが、明治維新から築いてきた人たちに対しての敬意でもあるし、それを引き継ぐのが我々の仕事、使命なんだとも言われました。

**山口会頭** 教育というのは根気強くやらなければならぬものですから、根気強くやって、引き続きてまたやってください。

**大脇会長** はい。

**山口会頭** 日本のために、子供や孫たちのために、私、商工会議所の会頭になるに当たって「健康な日本の創造」というスローガンを掲げたんだけれども、そこに書いてあることを一年たってみて読んでみまして、これはほんとに間違っていないことをいっぱい言っている。これを継続して実行していくことが大事だということを感じました。

それは皆さんに期待することでもあります。若い人たちがやっていただくことが大事なので、そういう意味で青年部があって、それが親会に対して影響力を持って、そして実際の行動をそれを土台としてやっていただかなければいけないんじゃないか、というような感じがいたしますね。先輩たちに、経験に基づいたいろいろな決定や指導はしてもらっても、実際の行動はやはり若い人たちでなければ間に合わないんじゃないかと感じますね。

商店街の空洞化の問題というのもありますよね。大型店との関係があったりして。やっぱりシャッターが何店かおりにときに、すぐ行動を起こさなければ、それが相当の数になった街の街づくりというのは、なかなかできなくなっちゃいますね。早く行動せないかん。どうやって変えていけばいいのか、その変わるものをどうやって創っていくかというのは、若者が先頭に立って行動しなければ、なかなかできないと思います。もちろん、いろいろなお膳立ては親会の方たちがやられるでしょうけれども、行動の中核は若い人たちです。

**定款に載り、青年部と親会との新たな関係に期待すること。**

**大協会長** そうですね。一つ、これからのお願いではありますが、定款に載りまして常議員会に出席出来るようになりました。そのほかにおいて、意見具申という部分も勿論そうなのですが、私も、次に会長になる人間も、3万人のリーダーとして、月に一回の常議員会に出席させていただく。その中において、今、青年部はこういうことをやっているんだとか、こういう思いで私は会長をさせていただいていますとか、是非、青年部にも発言の場を盛り込んで頂きたいと思っています。

私も鹿児島から飛行機を使ってここに来る。全国の会長の皆さんは都内だけじゃなくて地方からも来る。来ることによって、自分で成果を何か挙げられたという確かな手応えが欲しい！という気持ちがありますので、是非とも、我々の青年部の意見も吸い上げていただく場面もあればと思っています。

**山口会頭** わかりました。検討して…。いや、検討するんじゃなくて、具体案として…。(事務局を振り向き、意見を求める。)

**土橋顧問** 常議員会で議長の指名により発言していただけることになっています。

**山口会頭** 常議員会の発言というのは、あの場で、なかなか… (笑い)。今の会長さんなら出来るかもわからんけれども、やっぱり議題の中で発表する方がいいのかもわからないですね。そういうことも含めて、なかなか発言しにくいですよ、あの雰囲気の中でね。小委員会だったらできますけれども、常議員会というのは、なかなか重い感じですよのね。

**大協会長** そうですね。逆に言いますと、重たいがゆえに発表したい。(笑い)

**山口会頭** あそこで「はい」と言って手を挙げて発言するよりも、議題の中に入って、そこで青年部の今の意見について発表するとか、議題に入ったりすると、かえっていいかもしれない。

**土橋顧問** 日商の委員会などで青年部の活動事例を発表していただくことも考えています。

**大協会長** ありがとうございます。そういう場合

に、例えばコミュニティビジネス委員長等の同席はよろしいのでしょうか。

**土橋顧問** 基本的にはオブザーバー出席出来ると思います。

**大協会長** そうですか。ありがとうございます。

**土橋顧問** いずれにしろ、いろいろな形で青年部の仕事がまとまったと見る時点で、委員会で発表したり、場合によったら、小委員会で会長が発言されたりということは出来ると思います。



**大協会長** どうもありがとうございます。それと肝心な事ですが、昨年親会の定款に載ったということで、我々青年部に対して思うことですか期待することとかを、会頭の方からお聞きかせいただければと思います。

**山口会頭** 今、あなた方がお互いに切磋琢磨して、啓蒙してやっていただいている。大体そういう地ならし基盤ができましたから、具体的なお互いの創業支援とか、そういうことについては、やはり具体的な実行とか、よそのそういう例を学んで、実際、自分のところでやってみるとかというように、積極的にやっていただくような時期も来るんじゃないでしょうかね。

何か皆さんの書類に書いてあったのかな、結局、青年部会員の皆さんの事業そのものが、まず健全でなくちゃいけませんね。自らを、まず健全にして、それからそれを他に及ぼしていくということが大事なんじゃないかな。一年間これだけ活動されるというのは、物すごく自分の時間も犠牲にされて、皆さんに対する影響も大きいけれども、貢献も大きいでしょう。大変でしょう？一年間は。

**大協会長** はい。やはり、会社の基盤整備もしっかりしながら出てこない、なかなか、厳しいも

のがあるのも事実です。

**山口会頭** そうでしょう。やっぱり自分の企業がいかにかかりとしているか、そうでなくては行動力も出てきませんからね。だから、自分の会社をしっかりとさせることがまず大切です。

**大協会長** 私も全国を廻り好きな事を言わせて頂いておりますが、やはりこの大役を受けたからには、会長としてふさわしい人間になりたいと。また、自分の会社ももっとステップアップさせなければならぬだろう、と考えるようになりました。出て来ている人間は皆さんそれぞれに、そういう意気込みで出向されていると思います。

**山口会頭** 将来のためには物すごく大きな財産になりますね。経験しておく、いろいろな意味でお互いに助け合うし、何かのとき、すぐに会っていろいろ聞けるしね。いろいろな意味で広がりが増えますからいいんですが、やっぱり将来というのではなく、今、この数年間が大事なんです。そこをどうやって強くするかということを考えないといけません。

そのために、親商工会議所を含めて、どういうことを青年部の人たちにも手伝ってあげられるのかということも大事なんです。若い人たちに期待するんじゃなくて、親会が青年部を助ける力が、それぞれの会議所であつたらいいですね。

### 大会が終わった瞬間から何が始まるかということが大切。

**大協会長** そうですね。古泉直前会長は新潟で、私は鹿児島で、次に神奈川県という、それぞれ全国大会をさせて頂いて来た中で、親会の大きい支援があつてこそ成功だと思っています。まして市や県や、行政の方もそうなんです、青年部という団体を大会を開催することによって認知していただいている…。親会に支援され、行政に認知される大会等は、いい意味の活力を地元と与えていることだと信じています。

**山口会頭** 去年、小田原で、全国大会に初めて参加しました。あれは大変だったでしょう。

**鈴木副会長** そうですね。

**山口会頭** 準備が、当日は、もう終わってるんですからね。

**鈴木副会長** やろうと自分たちで決めてから、多分6、7年ぐらいはかかると思います。

**山口会頭** しかし、その間、それを盛り上げていくところが非常に大きな意味があるんですよね。

**鈴木副会長** 先ほど、大協会長が申し上げたように、私どもも大会をやらせていただくことも、もちろんすごく大切なことですし、すごい経験をさせていただくんですけれども、でも、大会をやることだけが目的じゃないだろうと。大会が終わった瞬間から何が始まるかということが大切じゃないかということを、ずうっと言いながらやってきて、それを終わってみて実感しています。



**大協会長** ああいう大会をやりますと、主催は商青連ですが、主管が県連なものですから、もし、この大会をやっていなかったら……。例えば鹿児島県でいいますと、11単会あるんですね。その中には鶴が渡来する鹿児島県でも最北の出水<sup>いずみ</sup>という所があります。そして南には奄美大島があります。その大会がなかったら絶対出会うなかったと思うんですよ。一つの目的を達成するために、みんなが一つになってやれたという体験。鹿児島ですと550名もの県連会員がいるわけですが、その人間が一つのものに向かって同じ価値観の中で、同じ汗をかけたという、何物にも代えがたい体験が、先々の何かやっていく上にとってのいい布石になったのではないかと考えています。

**山口会頭** そうそう。一体感とか、同志愛が出るんですよ。それが大会を盛り上げていく過程で出てくるんですよ。

**大協会長** 本当のいい結束が生まれたと実感として感じております。

**山口會頭** 大変だったと思いますよ。盛り上がってましたね。

**鈴木副会長** うちの元気印の会長が挨拶で頑張りましたので。タイムスケジュール的には困りましたけれども。(笑い)

**大脇会長** その節はご迷惑をおかけしました。

**山口會頭** 横浜の會頭も出ておられて、「いやあ、神奈川県もちゃんとやりますねえ」なんて、自分で感心しておられた。(笑い)

### 豊かでも闘争心を失ってはいけない。

**大脇会長** 今回、ワールドカップもありまして、鹿児島はフランスのキャンプ地だったんですよ。

**山口會頭** フランスがあそこで練習しましたか。

**大脇会長** はい。ジダンも来ました。

**山口會頭** あれを観てよくわかるんですけども、日本人というのは心が豊かで優しいですよ。外国の試合でも満席でしょう。ましてチームが合宿したところなんか大変なものね。日本は一生懸命応援して、日本人の心の優しさとか広さというのが、あれでわかりますね。

ただ、もう一つ問題は、韓国は選手の当たりが強かったですね。日本人はそういう意味では当たりが弱かった。非常にフェアプレーではあったけれども、韓国とやったら負けるかもわかりませんね。ファールはいかんけれども、真正面にバーンとぶつかるのはファールではないんですよ。その当たりが韓国とやったら当たり負けしたんじゃないかなという思いがするんですよ。それが日本に足りないと思うんですよ。それがこれから大事なんじゃないかと思うんですよ。心の温かさとか、広さとか、外国人に対するいたわりとかというのは、日本は抜群によかったから、あとは競争する以上は、当たり負けしないようにするという強さが、これからは必要なんじゃないか。

**大脇会長** どこかハングリーさが、もう一つ欠けているのかなというような気がしますね。

**山口會頭** ハングリーじゃないからね。豊かでしたからね。豊かなことは悪いことじゃないんだけど、

豊かでも闘争心というのを失っちゃいかんですね。

フランスのジダンが出れなくて非常に残念だったですね。ジダンが出れば、また違ったんでしょうけど。ジダンはアルジェリアの出身でしょう。子供のときから非常に貧しいところで育ったジダンが、なぜ、あれだけ立派な世界的な選手になれたかという話を読んでいたら、「強烈なる闘争心の人」だということですよ。子供のときから、何くそと。とにかくサッカーを通して、自分は一流な人間にならなければいかんということで、人間的にもあれだけ立派な人になったわけですね。スポーツを離れたときは物すごく立派な人ですよ。しかし、サッカーをやるときの闘争心というのはすごいわけです。日本人も、心の優しさとか、外国人に対するいたわりとか、心の広さも大事だけど、やっぱり戦うときの闘争心は、韓国にもフランスにも負けちゃいかんのですよ。若者がそれを頑張っていたきたいと思う。皆さんが先頭に立ってね。

**大脇会長** はい。頑張ります!! (元気良く)

### 教育は時間がかかるが、絶対に手を抜くべきではない。

**山口會頭** やっぱり教育は大事なような気がしますね。教育問題小委員会に出ていますけど、これからは教育ですよ。少子高齢化の問題は、高齢化はいいとして少子化の問題と、教育問題が日本で一番大きな問題で、しかも、時間のかかる問題ですからね。

これは余談になりますけれども、アメリカと日本が戦争をしまして、資源や製造力の差があるにもかかわらず、我々日本人は負けると思っていた。そういうような教育を受けていましたからね。アメリカは占領した後で日本の教育をどういうふうにしたらいいか、日本を占領した後で日本の教育を直さなければいかんということで、日本の教育制度をハーバード大学に研究させたんだそうですよ。ハーバード大学は昭和16年ぐらいから、ずっと研究していたんだけど、最後の一年で研究した結果、日本の教育はすばらしい、教育制度は全くアメリカに比べても、むしろいいぐらいだという結論になった。ただ、天皇制のところで、天皇は神だと、いつの間にか神様にしちゃったわけです。天皇は神様だということが教育の中に入ってきて、そして、それが軍の統帥権という形でいろいろな面で弊害を起こしてきた。そうい

う教育は悪いけど、それ以外のところで日本の教育は直すところはないというアメリカのハーバード大学の結論だったんですよ。

その教育を、マッカーサーが占領したときに、そこにいた民政官なんかで来た人たちが、別の方に曲げちゃった。ドイツも同じようなことを要求されたらしいんですが、頑として変えなかったんですね。日本人はそういう意味では、何か心の広さというのか、弱さというのか、アメリカのそういう要求をのんで、教育制度を変えちゃったわけです。

日本の教育基本法には「国」という言葉が全くないんですよ。だけど、よくここまで日本は経済的には復興してきました。あとは、もっと教育をよくしていきながら、人間、日本人が強い立派な国民になるように、世界に貢献できるように、繁栄するような、そういう教育にしていくというのが大事なんじゃないかな。

国旗も国歌も問題になるのは、そこが原点なんですよ。たけど、今、国旗を掲げ、国歌を歌い、「君が代」というのを「天皇の代」という解釈であったりするんじゃないかと思いますが、「君が代」というのは、もとは「君たち、我々の代」ということなんだそうです。それが、いつの間にか「天皇の代」というふうには、できたころにはそういう解釈だったんじゃないかな。

我々も努力しますが、皆さんの手で努力して、教育をしっかりと、そして強い人をつくっていかないとダメですね。今のうちに、教育の機会は均等で、あとは競争社会だということ、やっぱりやらなければいけませんよ。日本の教育は、結果平等にしましたからね。東京なんかの特定の学校は運動会でも、昔は年齢順に徒競走をやりましたね。それでは差が付き過ぎるから、全部一斉に走らせて、速い順番で組をつくらせて走らせる。だから、あんまり徒競走でも差ができないようにするというようなことをやっていた。あるいは、ゴールの前で一度みんなとまって一斉にテープを切るとか……。

**大脇会長** それもおかしい話ですね。

**山口会頭** 教育現場で、昔は、我々の子供のころは、勉強できないから、せめて運動会で一番になるとかって頑張って、勉強で負けたからわんぱく小僧になって、それで自分を持って頑張るとか……。会長はそっちだね。

**大脇会長** はい、その口です。(大笑い)

**山口会頭** 勉強も出来たんでしょうけども、そちらの方でも頑張ったでしょう。そして、力のある人はある人、腕力のある人はある人、自分はそれなりに世間に通用するような人間になるということ、を努力して工夫してやってきたということ、日本は成長してきたわけですよね。そういうものが壊れてきちゃったんですね。

**大脇会長** 私は高校、大学とラグビーをやってきました、体育会系といえますか、スポーツをやってきた人間が何が一番成果だったかということ、勝ったことより、負けた挫折感を味わったことで、次への、這い上がっていかないとダメな意地みたいなものですね。それを味わったことが、その都度、勉強になってきたのかなという感じがします。どうしても常勝していると、痛みが分からずに、変に慢性化してしまうという現象がよくあるんですが、その中で負けを知るとことは本当に大事なことです。

**山口会頭** それで、終わった後に、ラグビーならノーサイドというでしょう。あの精神が大事ですね。試合が終わったら、もうサイドはない。終わったとたんに友人だ。こういう感じがいいですよ。そのかわり戦うときは、物すごく強く戦っていく。あれは大事です。仕事でも一緒ですね。

**大脇会長** そうですね。冒頭で言わせていただきました、「やる気・根気・負けん気」を持って突き進むべしという点は、一番大事な基本の部分だと思いますね。

**山口会頭** とにかく一生、競争社会ですから、一生、自分の責任で生きていかないとダメ。自分の責任で事業をつくり、守り、家族も守っていかないとダメですから、競争を一生し続けるとき、精神的に弱い人は負けますよ。負けじ魂ですよ。豊かであっても精神はハングリーだということを失わないようにしないと。それが日本全体に、今は弱い。豊かであり過ぎた。教育とかいろいろな面で、あらゆる人の責任だと思うんです。国を挙げての責任だと思います。だから、これから、そこを直していかないとダメ。その一番中核になるのは地域ですから、地域ごと強くなる。青年部は非常に大事だと思いますよ。

昔は各村に青年部とか婦人部がありまして、それが村を支えたんですよ。昔の日本は貧乏でしたから、青年部・婦人部というのは豊かではなかったけれども、精神の1つよりどころでした。

小学校の運動会なんか、昔の農村というのは小学生の運動会じゃないんです。青年部・婦人部が出て一緒に運動会をやったんですから。

**大協会長** そういう活気が本当に無くなってきていますね。私も会頭の言われる、強い精神から吹き出てくる教育に賛同致します。教育係として、本年度は日商の教育問題小委員会へも古泉直前会長が出席しておりますので、親会からの情報を青年部にしっかりとフィードバックして頂ければと思っております。

**山口会頭** 教育は時間がかかりますけれども、絶対に手を抜いたらいかんですね。時間がかかるだけに早く始めなければいけない。

**古泉直前会長** 私は子供が3人いるんですが、小学校教育で妙に感じたのが、一つは徒競走なんです。速いの、普通の、遅いのと分けてしますし、二つ目は教壇がなくなっています。他にも、ほんとに我々の想像のつかないことが事実起こってきているものですから。とにかくこの子らもいずれは成長し競争社会へ巣立って行くわけですから、ぜひ今後子供たちがまた企業を興したくなるような土台づくりをやっていきたいなと思っております。



**山口会頭** 石原慎太郎都知事はおもしろいですよ。思い切ったことをやられますからね。教育問題は、丸紅の会長をやられた鳥海さんを委員に起用しまして、民間から教育委員でどんどん発言させている。東京都の場合、公立だからということで、英才教育はやっていなかったわけですね。都立のうち何校だったか指定しまして、昔の成績の競争教育に戻したわけですよ。昔の日比谷高校は学校の成績を壁に張り出して、その順番に並ばせて、1学期ごとに成績順番が変わるでしょう、そして競わせてますね。そのかわり、東大に何人入るの

がいいというわけではないんですけれども、相当進学率がよくて、しかも、物すごい競争になってきたわけですね。若者には競争させなかったら勉強しませんからね。勉強だけが目的じゃないですよ、運動もやらなければいかんけれども、都知事は都立のうちから指定しまして、そこには昔流の英才教育というか、そういうものを導入してやってみようというのでやりましたら、ほかの都立高校が全部、我も我もですよ。父兄が承知しないんです。あの高校だけやって、うちはなぜやらないのかと。どんどん、今、そういう方向へ行っている。

子供は卒業したら競争にさらされるんですから、競争に耐える子供にしておかないといけないですね。しかも、できない子はできなくてもいいんです。全力を尽くして勉強したかどうか、汗をかいたかどうかということで値打ちが出るんですよ。成績がいい人が、必ず社会に出て成功するわけではないから。結果を見たら、成績が悪い人の方が事業に成功していますよ。それは成績の悪い人は気持ちがわかるから。いろいろな底辺の人の気持ちがわかりますから、事業に成功しますよ。自分がよくなくても、頭のいい人を使えばいいんですから。それは別なんですけど、しかし、そういうことをやらせる、その中で汗をかいて一生懸命やっていくというのが子供の教育なんです。そういうことを石原さんはやるから、いいところがあるんですよ。東京都の教育はこれで少しよくなってくれるんじゃないかと思ってます。

### 市町村合併は、商工会議所としては、ぜひ進めて行って欲しい。

**大協会長** ところで話がちょっと元に戻るような形になりますが、広域市町村合併についてお聞きしたいと思います。1953年の町村合併促進法を契機とする、いわゆる昭和の大合併。あのあたりから地方自治体の行政体制というか、それが変わらぬまま、ここに来ているというのも事実なわけですね。そこについて、どういう形でこれらを推進して行って欲しいか、会頭からの一言がいただければと思います。

**山口会頭** 市町村合併は、商工会議所としては、ぜひ進めて行って欲しい。その側面から、それを応援していきたくていいですか、促進していきたくて思っているんです。それは、ある程度大きな組織で地方分権になりますから、国の権限の委譲を受けて市町村がやってくるようになるわけですね。都道府県、市町村に相当な権限を持ってやり



ますから、やはりある程度、効率的に運営できるような規模というのが大事になってくると思うんです。そして強力な指導力を持ってやってもらわなければ、地方のためにはよくないと思っております。

ですから、商工会議所としても、ぜひ、そういう地方の合併論議については、むしろ率先してやるような形にさせていただきたいということで、皆さんにお願いしております。商工会議所、商工会もそれに合わせて、地域のためには結集して施政との連携を密にしてやっていくというようなことが必要じゃないかと思えます。市町村には合併するための道具立ての法律ができていますね。ところが、商工会議所の合併とか、あるいは商工会議所と商工会の合併とかというのは、そこまで法が整備されていないですね。そういうことも、これから我々の仕事になってきます。

さいたま市の例がありましたね。将来の埼玉のためには、新さいたま市のある地域のためには合併しなければいかんというので、一遍断念したものを若い人たちが動きまして、そしてもう一遍話を盛り返して、説得して合併に至った。合併後には、いろいろ問題も一時的にありますから、それを乗り越えてやっていただくということだと思えますけれども、そういうふう若い人たちが、商工会議所の親会じゃなくて、若い人たちがそういうことをやったということは、我々にとって非常に教訓にもなりますし、誇りだと思うんです。一遍、断念したけれども、皆さんの年代の人たちがやられた。これからも、そういう意味では地方の合併などについて、努力していただくのが必要じゃないかと思えます。そうしないと、日本はよくなるんじゃないかと思うんです。

3,300の市町村には、大きいところも小さいところもありまして、国から権限を委譲されても処理ができない場合もあると思うんですよ。それは地域の商工業にとっても不幸だと思います。受け止められるだけの規模と、それだけの能力を持った地方都市になってもらわなければいけないです。商工会議所は共同で地域の発展を図らなければいけないだろうと思っています。

**大協会長** 分かりました。市町村合併もそうですし、TMOにしてもそうですが、官民一体としての取り組みの姿勢というんですか…。どうしても市町村合併ですと、行政側からの地方分権による自治能力の向上ですとか、行政主体のサービス、それが一方的に来てしまう場合が多い。

だから、そこに住む人たち、その地名の響き

に慣れ親しみ、その地域の歴史や文化で育まれて来た、こういう人達との話し合いの場を、我々青年部が取り仕切るような形で、三位一体となり、話し合いの場を、もっともっと持ってくださいというようなことを言わせてもらっているんです。やはり啓蒙にしましても、行政からの一方的な資料だけが送りつけられて来るそのような状況は、現場に居る人間からすると、それは違うぞとか、いろいろあるわけです。納得感を持ちながら、お互いにうまくかみ合ったところで話がなされていけばと思っています。

### 大きい都市の商工会議所に青年部がない。

**大協会長** それと、これは、前々から私も知りたいというか、気になっていることですが、商工会議所青年部というのは、生い立ちから何から青年会議所とはまた違うのに、どうしても大きい都市の商工会議所に青年部がないですよ。

**山口会頭** 東京にないですね。

**大協会長** はい。支部は今、足立、台東、江戸川、豊島にあります。会頭としては、それを統合するお考えがあるのか、あるいはそれぞれに青年部はあるべきなのかという点をお聞き出来ればと思います。

**山口会頭** 東京にも青年部がないのはおかしいなと思ってね。女性会も東京はちょっと小さいんですよ。どうしてだろうか。

**土橋顧問** 都市機能が大きいと、地縁血縁関係が薄い。そういう土地柄ということで、要するにまとまりにくいというのが1つあると思うんです。そのあたりでは例外的に京都には青年部があります。

**大協会長** そうですね。九州へ行くと福岡がまずないんです。新潟もないんですよ。横浜もないんです。青年会議所があるからいいだろうという安易な雰囲気がある、それは違うと思います。親会の方々が、商工会議所青年部という括りと、青年会議所のボランティアの団体というのを、ごちゃ混ぜにしているような感じがあるので、これから更に商工会議所青年部が飛躍していくためにも、大都市にもしっかりと根を張った青年部というのをも求められるのではないのでしょうか。

**山口会頭** ちょっと調べると、大阪にもないです。

**大協会長** そうですね。そのあたりのバックアップもよろしくお願ひしたいと思います。また、今日は副会長も同席しておりますので、代表して中塚副会長の方から発言願ひます。

**空洞化は非常に大きな問題。早急に手を打たなければならない。**

**中塚副会長** 中塚と申します。私は、さっき大協会長が言われた、海外へ物づくりがどんどん出て行くという、このことを本当に心配しております。



**山口会頭** そうですね。

**中塚副会長** やはり日本は、物を作っていく技術力あるいは創造力ということで生きていかなければいけないと思います。しかし、物づくりの現場がないところで創造力を発揮しろというのはちょっと難しい世界です。だんだんと、知らないうちに物を作っていく力がなくなってしまうと、気づいたときにはもとに戻るのが大変です。

先ほどからの教育の問題と同じで、50年かけてここまで国という意識が薄くなってきたように、物づくりの技術、技能あるいは精神というのが薄くなってしまふと、本当にどうなることかと心配です。早い時期に海外で生産すべきものと、そうではないものと、ある程度仕分けはしても、国内、日本で作っていくんだという考え方にしなければいけないと思います。私も、下請けで加工をしていますけれども、物作りについては、早く大企業の皆さんとの間のいい関係を取り戻したいと思っています。そうしないと、いざ、何か新しいものを作ろうと思ったときに、実際には理屈はあっても力がない、そういう状態に陥るのではないのでしょうか。

**山口会頭** そうですね。空洞化は大問題なんですよ。トヨタさんは、日本で使うものはできるだけ日本でやりたいという意向を言っておられますけれども、これは非常にありがたいんです。ただ、トヨタさんが日本で使う自動車は日本で作りたい、それが日本のためだということをおられる間に、日本がそういう状況を整えてあげないと、中小の協力会社を含めて、政府の施策も含めて、それは余りにもコストが上がれば、どうしても出て行かざるを得ませんね。だから、国を挙げて空洞化問題に対応していかないといけないんじゃないかと思っています。

そうしないと、先ほど言いましたが、全部海外に行きますと、日本の経済というのは回転しないわけです。外貨の蓄積がある間はいいですけども、これはいつか無くなるものですから、少なくとも蓄積は置いておいて、今、回転をしながら、外貨でちゃんとやっていけるようなことにしないと、国民が幸せでなくなっちゃうわけですね。そのためには勤勉さとか、あるいは生産効率を上げる、賃金のベースの問題、インフラの問題、すべて努力していかなければいけないんじゃないかと思っています。非常に大きな問題ですね。

**中塚副会長** グローバル化という言葉の響きはいいですけども、考えようによっては日本が、海外からむしり取られている、そういう感じを受けていますので、日本は日本としてどうしていくのかというポリシーが必要ですね。

**山口会頭** 日本で守るべき産業、日本で国際収支を、少なくとも必要なものを入れる程度の黒字はちゃんと確保できるような産業構造といいますか、コスト競争力を持つような国にしていかないといけない。そのために何をすべきかということ、これからは決めていかないといけないですね。私の会社なんかでも、工場を建てるときに、国内で増設すべきか、中国へ持っていった方がいいかということをもとで考える、そんな時代になっていますから、それが困るわけですね。

空洞化の問題は非常に大きな問題ですね。早急に1つでも解決しながらいかなければいけない。そのためにもいろいろな手を打たなければいけませんし、またトヨタさんのような、ああいう考え方も大企業は持っていく必要がありますね。

**大協会長** 今、親会の委員会に二人出させてもらっておりますが、まだ永桶・中塚両副会長もおりますので、ぜひとも親会に参入させていただいて、

青年部の力をお引き出し頂きたいと思います。

**山口会頭** わかりました。それはよく言うておきますから。また具体的にいろいろな意見が反映するように。

**大協会長** それと、最後になりますけれども、ブロック大会用にビデオにコメントいただきまして本当にありがとうございました。

**山口会頭** いいえ。

**大協会長** YEGメンバー全員拍手喝采で、全国各地でしっかりと聞いております。また、本日は青年部のために貴重なお時間を割いていただき、本当にありがとうございました。

本日、会頭から頂きました熱きエールをガッチリと受け止め、我々青年部活動のこれからの糧とし、地域にしっかりと根ざした青年部活動に、勿論自社繁栄を掲げつつ心血を注ぎ、地域或いは、この日本を、我々青年部が立て直して行くんだという気概を持って突き進んで行く所存でございます。本日は、誠に有り難うございました！

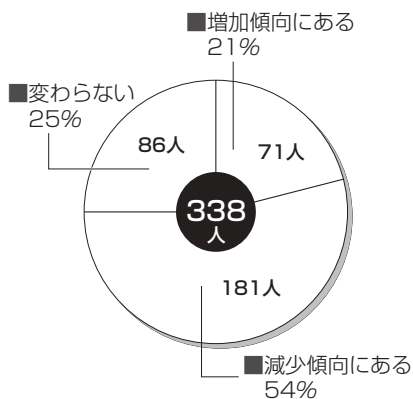


# 商工会議所青年部 会長アンケート

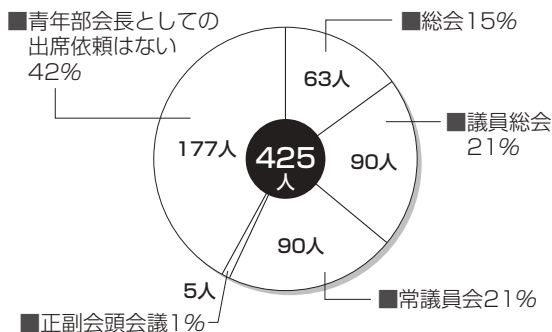
商青連は、時代とともに大きく成長し、今年度設立20年目の年を迎えました。20周年記念事業委員会では記念誌を発刊するにあたり、商青連が新たなる10年に向かって確かな一歩を踏み出すために、全国の単会会長の皆様から直接ご意見や提言をいただくことにしました。そして85.8%という非常に高い回答率を得られたことは、皆様方のご協力の賜と感謝申し上げますとともに、今後の商青連を思う愛情そして友情の証であると確信いたします。

## 1. 単会について

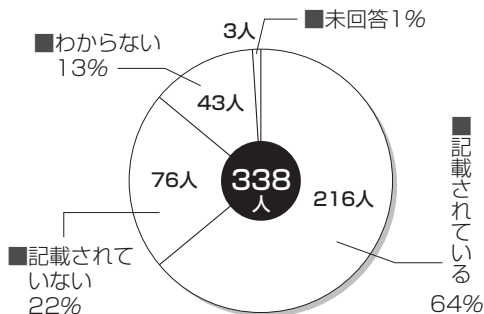
① 貴会の会員数の増減状況はいかがですか。



② 貴会では青年部会長として親会議所への出席がどこまで認められていますか。〈複数回答可〉



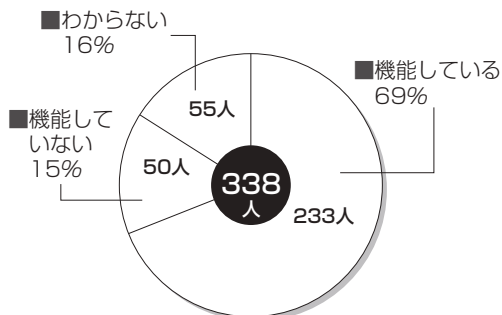
③ 貴会は親会の定款に記載されていますか。



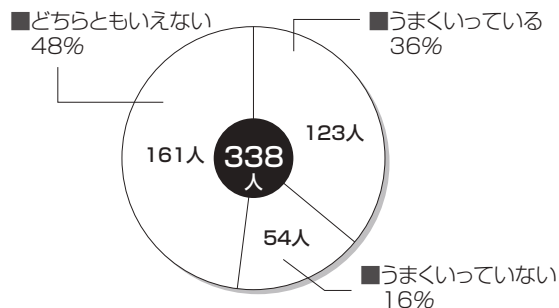
減少傾向にある単会が過半数を占めている。  
過半数の単会が親会の会議に出席している。  
6割以上の単会が親会の定款に記載されている。

## 2. 道府県連について

① 貴道府県連はうまく機能していると思いますか。



② 貴道府県連では助成金の申請・獲得も含め、「若手後継者等育成事業」はうまくいっているとお考えですか。



②のアンケートに対するコメント

●うまくいっている

- 年度当初に、年間事業と助成金の予算配分を県連にて各単会の会長が意見を多く発言するようになり次の世代への事業後継がよりよく、また青年経済人としての資質の向上に反映していると思うから。
- 県連として助成金の活用を検討する委員会を作っている。しかしながらまだまだ助成金を増やしていく必要がある。
- 前年度に関しては4回の育成事業を行っており、毎回参加者も多く、非常に役に立つ中身のある事業が実施できた。また、今年度にあたっては、県内10会議所青年部が広域連携のもと6回の育成事業を予定しており、いずれも計画内容を見ると、素晴らしい事業内容となっている。予算の執行方法に関しても、無駄のない有意義な使い方と思える。

●うまくいっていない

- 一部の周年事業か、ブロック・県大会の講演会等で、予算を消化している。本来は各単会にて、研鑽事業を行うべきではないと思う。大会では如何にしても講演会になりがちで、身になる研修等は難しい。
- 幹事会議所(会長所在地、持ち回り)が中心に取り組んでいるが、補助金の利用制限が厳しく思うように事業展開ができていないと思う。
- 予算使途の内容解釈が、県の単年度担当者によって変わるため決済が下りたり、下りなかったりする。非常に理解に苦しむ。運用しづらい。

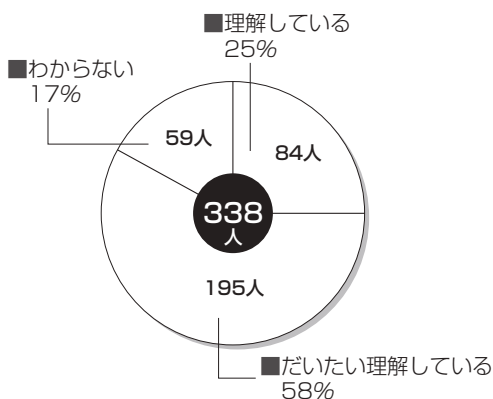
●どちらともいえない

- 当県では、各単会が規模の大小にかかわらず一年任期で県連を担当し運営しているのが実態である。昨年度より助成金が県連に付き単会以上の予算規模となり、それに応じた事業も実施しなければならなくなった。また、この助成金を必要とする単会やブロックもあるので、県連自身が困惑している状況である。
- 助成金の申請獲得については問題ないと思うが、中身が真に若手後継者の育成に役立っているかどうかは疑問である。
- 各県の助成金の格差が有り過ぎる様に思われる。
- 事業申請条件、金額面の制約があり、また当該事業の趣旨に合致した事業であるか、ないかの判断基準が曖昧であるように思う。

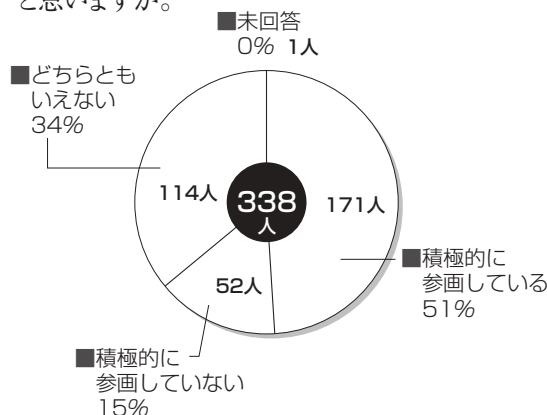
道府県連がうまく機能していると答えた単会が約7割であったのに対し、「若手後継者等育成事業」に関してはうまくいっていると答えた単会が3割強にとどまっている。補助金に関しては“規制が多い”、“準備期間が短い”、“県により金額の格差がある”などの意見が多く寄せられた。

3. ブロックについて

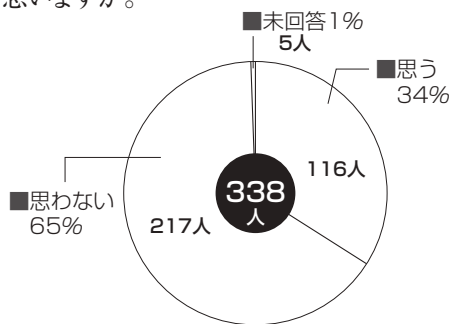
①ブロック代表理事の役割を理解していますか。



②貴単会はブロックの事業に積極的に参画していると思いますか。



③ あなたは貴単会でブロック大会を主管したいと思いますか。



ブロック大会を主管したいと思わないという単会が65%を占めているが、これは輪番制のため近年に既に開催した単会が多かったためと思われる。また、会場や宿泊施設などインフラ面の問題を挙げる単会も多かった。

### ③のアンケートに対するコメント

#### ●思う

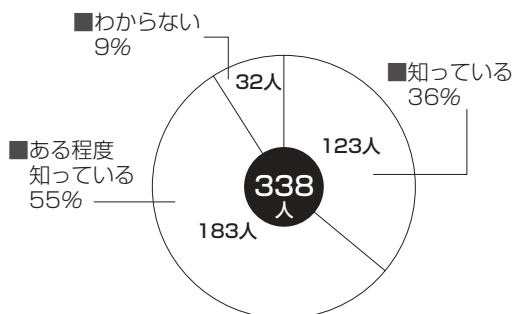
- 小さい単会でも部員がみんな熱くなって大会を主催しているのを見て、当単会も熱くなってやってみよう!
- 私共の単会では「面倒なことはやらない」という風潮があるが、ここ2年ぐらいの間で青年部活動に関しての意識の変化が芽生えてきている。こういった中で、メンバーに対して明確な目標の一つとしてブロック大会を主催し、青年部活動を活性化したい。
- 我が町、この地域を全国へPRできる絶好のチャンスであり、また、YEGを地域へPRしさらに、メンバーの拡大・結束強化・地域再発見の機会と考える。
- 実際にブロック大会を主管してみて、青年部内の団結、パワーを上げるにはこの上ない事業だと感じているから。ただし、お金をかければ良いという近頃の状況には疑問を感じている。

#### ●思わない

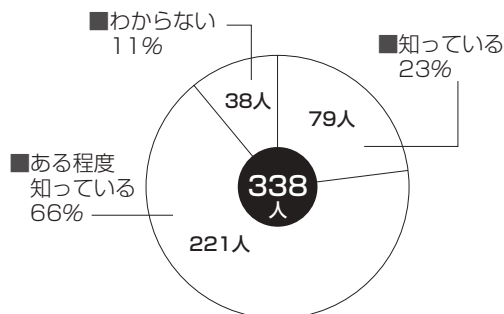
- 会員減少化と高齢化により、ブロック大会を開催できる程のスタッフを擁しない。ブロック大会を主管すると、翌年ブロック長を単会から出さなければならず弱小単会にとっては負担が大きすぎる。
- ブロック大会といっても、実際には、飲むために集まっているようで、あまり意味が感じられない。(全国もしかり) 主催するには、それなりの規模の単会であれば、無理であろう。
- ブロック大会を行うだけの、宿泊施設等設備面が、整っていない。事務局を含め、ブロック大会を主催するだけの人員が、揃わない。
- 過去に主管させてもらったことがあるから。

## 4. 全国商工会議所青年部連合会（商青連）について

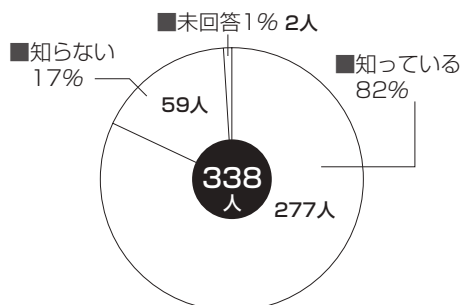
① 商青連の組織構成をご存知ですか。



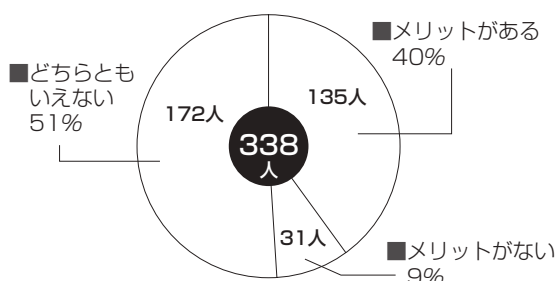
② 商青連の事業内容をご存知ですか。



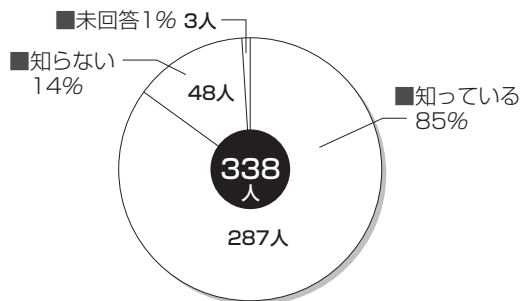
③ 今年度の商青連のスローガンをご存知ですか。



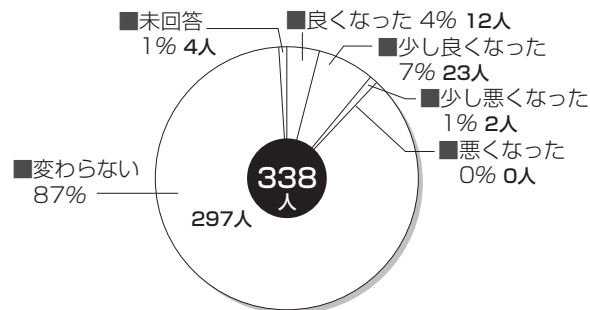
④ 貴会が商青連に加盟していることにメリットがあるとお考えですか。



⑤ 平成13年度に、商青連が日本商工会議所の定款に謳われたことをご存知ですか。



⑥ 商青連が日商の定款に謳われたことにより、それ前と比べて貴単会を取り巻く環境が変わりましたか。



#### ④のアンケートに対するコメント

##### ●メリットがある

- 同じYEG会員として、若手経営者として知り合える機会がある。単会ではどうしても用意できないプログラムを経験できる。
- 商青連への加盟によって、全国各地の青年経済人との交流、情報交換などネットワークを広げることができる。
- 地域の単会や県の連合会も大切だが、大きな視野を持つという点からも全国規模での情報や交流は明日につながると思う。井の中の蛙、…とならないためにも。

##### ●メリットがない

- 商青連として考え方を一元化し、今日の様な社会変革時に具体的にどう対処する必要があるのか、ビジョンが見えてこない。
- 商工会議所に限らず、どの団体も「全国的規模の日本…」というものがあるが、私の知る限り単に規模が大きくなるだけで、内容的には得るものは殆どないと思っている。
- 商青連だけでなく県青連も含めて、費用面の負担が大きい。(全国大会・会長研修会・ブロック大会などへの旅費や登録料など)

##### ●どちらともいえない

- (1)YEGの取り組みひとつをとっても地域間、単会間の温度差があることを体感できる(2)地域に限定されない知己を得られる(3)わが単会を客観的に見られる。
- 単会があつての県連であり、ブロックであり、商青連であると思っている。では、商青連が出向者等を輩出していない単会の為に、何ができていないのが不鮮明であり、年度の活動報告や資料等は一方的に送付されているだけだと思う。又、果たしてそれは単会が望んでいる事柄なのかという疑問も持っている。
- 他単会との交流はできるが、出て行くお金も多い。

#### ⑥のアンケートに対するコメント

##### ●良くなった

- 当青年部では先日、議員総会・懇親会並びに常議員会にまで出席が認められオブザーバー参加させていただいた。常議員会にまで参加を要求したことの重大さを感じ、今まで心の片隅にあった楽しいだけの集まりでは済まされない立場と、会議所の皆様、また市民の皆様の期待と対外的な肩書に恥じないよう、今一度ふんどしを締めなおす良い機会になった。
- 議員総会等に出席できるようになった。委員会活動を協力していこうという動きがでてきた。

##### ●少し良くなった

- 単会の地位・評価が向上し、意見が言いやすくなった。

##### ●少し悪くなった

- 独立性がやや弱まった。思い切った事業をやりたいと提案した時に、それをやりたくない側に「親会の承認を取らない」という引き伸ばしの口実を与えてしまった。(あ、これは自分のリーダーシップの弱さでもあるが。)

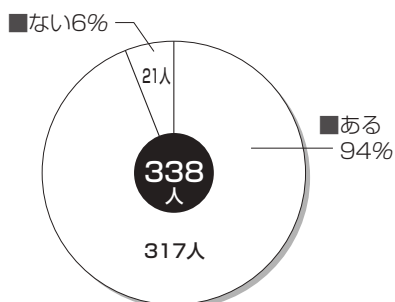
##### ●変わらない

- まだまだこれからのことだと思うし、我々の意識の向上・変化もこれからだと思う。1年2年でいいとか悪いとかという問題ではないのでは。
- 当会では、青年部に対する親会の考え方・接し方は以前と変わらず理解があるため。
- 親会でも特にその点については意識している訳ではなく、特に変わらない。親会はその事をまだ知らないのかも知れない。

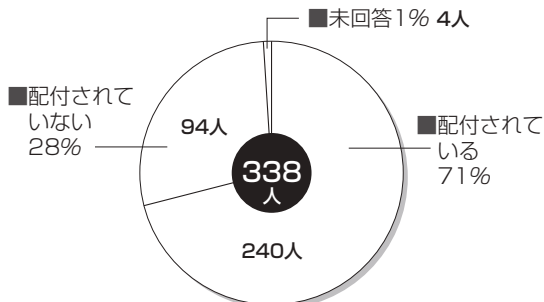
商青連の組織構成・事業内容について、約9割の単会に認知されていることは非常に心強い。また、商青連が日商の定款に謳われたことを85%の単会が認識しておられることも、単会会長の意識の高さを示していると思う。親会との関係は“定款に謳われる前と変わらない”と答えた単会が多い中で、この短期間で“良くなった”とする単会も1割あり、今後ますます青年部と親会との関係は密接なものになっていくものと思われる。

## 5. 広報関係について

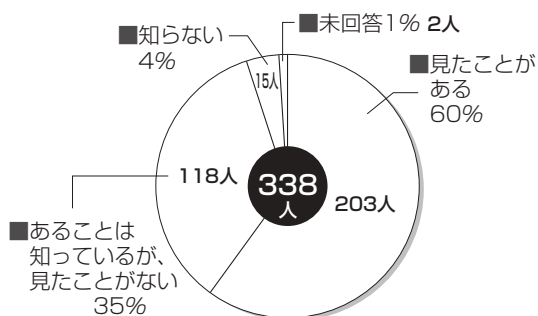
① 「翔生」という商青連の広報誌を読んだことがありますか。



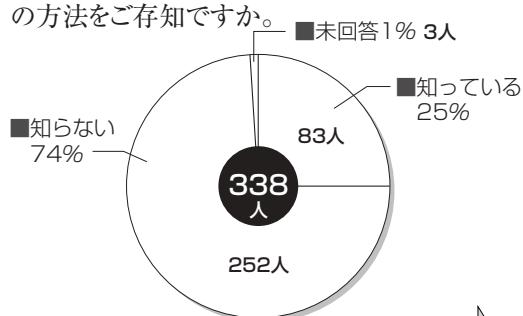
② 貴会では「翔生」は会員全員に配付されていますか。



③ 商青連のホームページをご存知ですか。



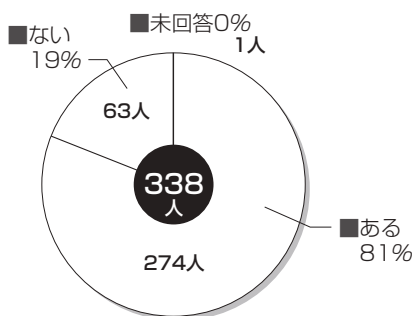
④ 「翔生」および商青連ホームページへの情報掲載の方法をご存知ですか。



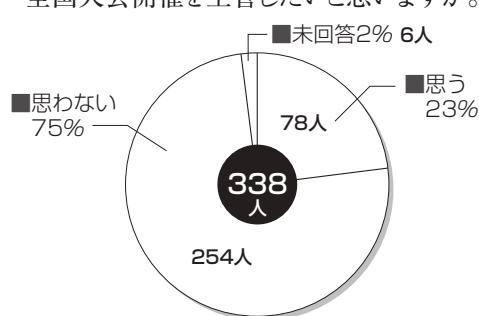
「翔生」に関しては、かなりの知名度はあるものの全会員に広く行き渡っているとは言いがたい。商青連ホームページに関しては、まだアクセスしたことがない方も多く、情報掲載の方法も含めてより一層のPRが必要であると思われる。

## 6. 全国大会について

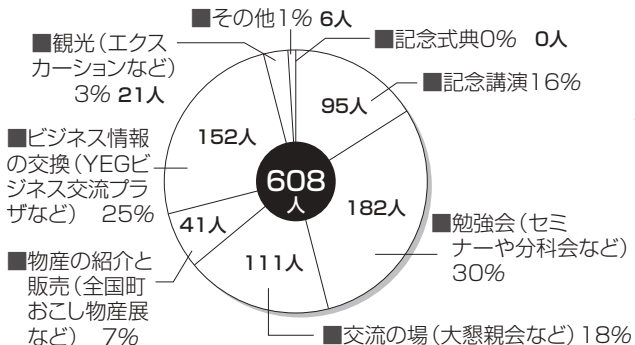
① あなたは全国大会に参加したことがありますか。



② あなたは、貴会が開催地となり、貴道府県連で全国大会開催を主管したいと思いますか。



③ 今後、全国大会ではどの部分をより強化してべきだと思いますか。〈2つまで選択可〉



全国大会に求められているものは、①勉強会、②ビジネス情報の交換、③交流の場、の順であった。言い換えれば、大局的な事柄よりも、自分の商売に即役立つような情報や、より実践的な事柄が求められているのではないか。



②のアンケートに対するコメント

●思う

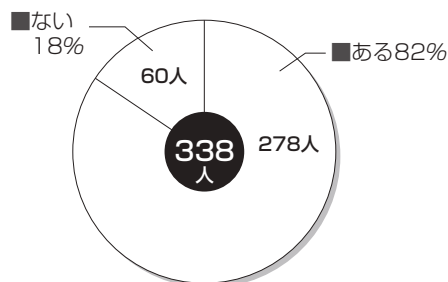
- それぞれ大小係わらず各単会にて大きな大会を主催できるような体制が望ましいと思う。が、主催したい気持ちはあるが、やはり地域の大小はこれに密接に係わっており、単会の組織力や会員数が大きな課題となってくるため、当地域では現状では難しいと思われる。会場や宿泊施設等が当地域には少ないことも理由のひとつとして挙げられる。
- 全国大会を主管する事で、単会の成長と共に、ブロック内のみならず広く全国のYEG活動を理解できると考えるから。
- 単会のさらなる結束強化のため、地域における青年部の認知度向上の為にも是非開催したい!

●思わない

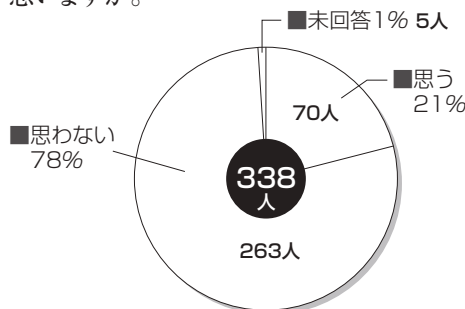
- 現在の規模での毎年の開催が本当に必要であるのか。何のための全国大会なのか。商青連のための事業ではなく、各単会同士のコミュニケーションをはかる場の提供であれば、それに見合った規模・開催間隔があるのではないか。
- 人員・金銭等の大きな負担をかけてまで開催するメリットを感じない。また、そこまで大きな町ではない。参加者の宿泊場所も確保できない。
- 現在の経済環境に即した内容にしてほしいと思う。お祭的色彩の強い、全国大会は不要と考える。

7. 全国会長研修会について

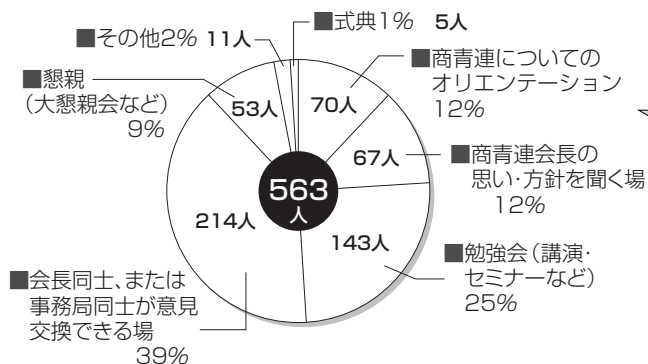
① あなた、あるいは貴会の会長経験者は、今までに全国会長研修会に参加したことがありますか。



② あなたは、貴会で全国会長研修会を主管したいと思いますか。



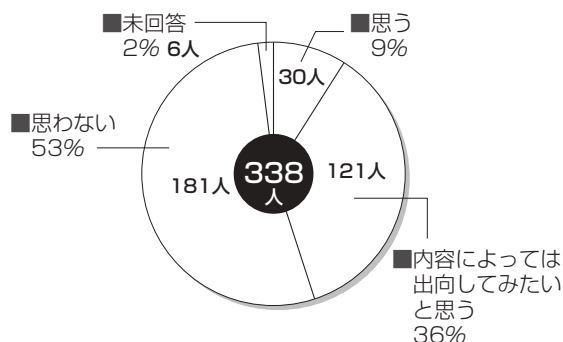
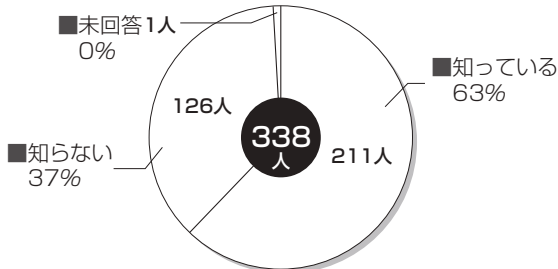
③ 今後、全国会長研修会ではどの部分をより強化していくべきだと思いますか。(2つまで選択可)



全国会長研修会に求められているものは、①会長同士、または事務局同士が意見交換できる場、②勉強会(講演・セミナーなど)。この二つが他を圧倒していた。年に一度の会長研修会では、同じ立場にある者同士のより深い交流、そして仲間作りの機会が求められている。

## 8. 公募委員について

- ① 平成8年度に、公募委員による“連携”をテーマとした「特別委員会」が設置されました。平成9年度には、“地域連携”、“商業”、“製造業”、“建設・不動産”、“情報・サービス”の5つの小委員会が盛り込まれ、翌々年度、これらは「アントレpreneurs委員会」と名称を変え、以降成長してきました。今年度は、公募委員による「コミュニティビジネス委員会」が設置され積極的に活動しております。このように、商青連では公募による委員会が設置され、意欲ある会員を広く募集していることを知っていますか。
- ② 今後、機会があったら公募委員として商青連に出向してみたいと思いますか？



### ②のアンケートに対するコメント

#### ●思う

- 全国からの自分の意志で積極参加しているメンバーとの交流は自分自身も前向きな行動が取れると信じ、自己鍛錬の場と思い、自分自身の成長につながると思うから。
- 他の地域の方と触れ合う事で意識の向上や知識を得る事が出来るから。
- 身近でなかった商青連をより身近に感じ、勉強し、人脈を作り、単会に持ちかえり、単会の活動を活性化させたい。

#### ●内容によっては出向してみたいと思う

- 出向となると時間、費用面で制約もあるので、よほどメリットがある内容でないと行けない。
- 現実には、不景気を打開する話ばかりを考えているが、もっと大きく夢を語る場となればと考える。
- 徐々に内容が充実しているし、もっと刺激のあるものとなってくれば参加したいと考えているため。

#### ●思わない

- 活動内容が見えない。
- 確かに魅力はあると思う。しかし、意欲はあっても出向するための時間と費用をつくるのは容易ではない。そういう方も多いのでは。
- 活動の中心は単会と考えているため。

## 9. これからの商青連に望むもの

### ①組織について改善すべきこと

- 全国を対象に多くの事業を行うのは無理がある。毎年違った強化目標を定めて1点集中型の事業を行った方がよい。他に各単会の持つ資源・情報（研修会の講師や祭りの情報なども）を全国にアピールできる環境を整備すべき。せっかくWEBページがあるのだから、ただ単会ページにリンクをはるだけでなく、こういった情報をピックアップしてもらいたい。
- 以前、商青連会長が全国3万人Y E Gのための商青連と言っていたような気がするが、各単会の規模の大小に関わらずY E Gメンバー全員が商青連・ブロック・県連の組織・活動内容を知らないと出向者を出したくても難しいと思う。出来るだけ簡素化した資料などを作って欲しい。またホームページもあることだから、大変でもリアルタイムな情報発信をしていただきたい。
- 全国大会、会長研修会を毎年開催するには、良

く出来た組織だと思うが、それをより活発な組織に変えていくにはいろいろな問題があり難しい。事業をいろいろ展開するには、向いていない組織構成だと思う。

- 商青連やブロック、道府県連の活動も大切だとは思いますが、もっと地元である、各単会の活動を支援するようなシステムや援助を望む。例えば、研修用の講師の選出や情報、価格の優遇など。現在は単会の活動に加え、商青連やブロック、道府県連の会合等の出席が負担に感じている。集まりの度に懇親会費と言っては出費を強制されることに不満を感じている。仲間作りも必要だが、仲間が無意味に増えても事業は成立しないと思うし、キズの舐めあいをするような組織であってはダメだと思う。酒が嫌いな人間もいる。事業あつての青年部活動ではないか。
- 政治でも地方分権が叫ばれている今日、全国的な組織運営は縮小されるべきではないだろうか。事業も 全国大会のみに絞りその他は各ブロック単位で運営されるべきで、ブロックの組織を

- 強化する方が現実的のように感じる。
- 定年の統一（せめて45歳まで）。各単会の事情もあるだろうが、定年を統一することにより、青年部らしい組織へ向かうのではないだろうか。
  - 組織が全国規模で展開することに何かメリットがあるのか疑問。各単会がそれぞれの意志で自由にやればよいと思う。やたら組織を肥大化させるのは無意味で苦労が多くなるだけだと思う。
  - 青年会議所と体質が同じになってきているのではないか。
  - 毎年、その時の会長等役員の違いや主旨などが活動の中に少しずつ見ることが出来、組織や委員会についても言う事は特にない。
  - 全国527会議所青年部の組織化の促進。特に大都市圏における組織化と加盟。
  - 商青連、及び全国大会、会長研修会の規模を縮小してはどうだろうか。特にブロック大会を含めた大きな大会は、今の時代にそぐわない気がする。元気があるところを見せようとする事を、派手にやる事だとはき違えている気がする。
  - 商青連会長は是非とも公選制にしてもらいたい。望ましい卒業年齢を商青連から明示してもらいたい。商青連出向者には、全員に出向期限を与えてもらいたい。（1～2年）
  - 形式にとらわれず、ビジネス展開が生まれやすい自由さが欲しい
  - ある程度継続性ある組織体制。単年度制の短所をカバーできる体制。
  - 運営組織や役員構成は現状のままでも良いと思う。ただ、全国30,000人のY E G部員がもっとビジネス情報の検索や交換が出来る環境が整えられたら良いと思う。
  - 組織としてはうまく機能していると思う。加入させて頂いたばかりなので、今の段階では改善するような点があるかは分からない。また、商青連・ブロック・県連他、従来からの流れを理解できるような説明資料があれば組織の一員として早く順応できると思う。
  - やはり組織の構成が大きな課題と思われる。今現在、各県連から全国への出向者はいるが、出向している本人しか詳しい内容が分からなかったり、他の会員がそれほど関心がないのが実情であると思われる。また、会員のみでなく、事務局にしても関係する単会のみが熱心であり、小さな単会にとっては全国いわゆる商青連は雲の上の存在的な部分が多々ある。もっときめ細かな流れを作り、情報の流通にしても単なるメール、機関紙だけでは理解でき得ない部分が多すぎると思われる。以上の点をもう少し工夫してほしい。
  - 商青連と事務局をもっと密にすべきである。それがきちんとなされないと組織構成・組織運営・情報の流通などはどうにも形にならないと思う。商青連のスケジュールが非常に過密であるのは知っているが、全て商青連で決定して、ブロック、県連、単会の意向がすべて反映されてはいないという感じがしている。（決定事項のみ連絡が来るような状況）そんなことは無いことはわかってはいるのだが、連絡等何とかなら
- ないのだろうか。
  - 全国大会大会会長＝商青連会長という流れは、組織がここまで成長を遂げた現在では、見直す必要があるのではないだろうか。
  - 一般会員には商青連に接する機会が少ないと思う。もっと情報を受発信する機会を多く持って、商青連の活動PRや各地域・各単会の活動の様子を伝える場を多く持つことによって、商青連が身近な組織となると思う。
  - 単会を頂点とした組織に変えていくべき。意味の無い形式的な会議はやめてもらいたい、交流会一本にしてほしい。
  - 日商が定款の中で青年部の役割を明確化した事は評価できるが、今は組織論を論じる時ではなく、サバイバル（生き残り）時代。もっと足もとの家業（企業）の実態を直視し、時代に即応した委員会や組織構成を行うべき。
  - 当単会は、県青連への係わりをいかに「会員全体に意識してもらえるか」という段階である。その後ブロック、そして商青連へ、というような状態である。こうした単会も決して少なくないと思う。こうした状態の単会に対して手をさしのべるような運営方法等検討していただければ有難い。
  - 一般会員にとっては、商青連は遠い世界だと思われるし、役員や出向者は特別な人たちであるという認識も根強く残っているように思うので、時間や経済的負担等の軽減を図るような措置を講じる必要があるのではないか。
  - 商青連情報をダイレクトにメール等で各単会に流してほしい。
  - 世間に青年会議所との区別がされていない。もっと組織をあげてPRを。親会（日本商工会議所）との連携を強化すべき。
  - 全国規模において、同じ業種の人が集い、意見・情報の交換が出来、かつ、親睦を深められる場があっても良いと思う。
  - JCのメンバーまたは卒業生が、JCのいい所と一緒に悪い所も、知らず知らず持ち込んでしまっているのではないかと感じる今日のごろ。自分の事業の発展を通じて地域の振興を図る、という主軸にもっと重点を置く事が大事だと思う。
  - 商青連に対してと言うより、むしろ単会のメンバーの視線を商青連に向ける事が必要と思う。そのための支援策があればお願いしたい。
  - 全体の組織（商青連）は、やはりあった方が良いと思うが、何か敷居が高くて、参加しづらい。今までは、トップだけが走っていたような気がする。この様なアンケートなどは、非常に良いのでは…。
  - 組織・運営等については問題ないと思うが、情報の流通に関しては各単会が積極的に流さなければ（特に出向者を出していない単会にとっては）情報が会員に流れていかないので、各事務局と商青連事務局の連携を強化すべきと思う。事務局連絡会議等を催しては？
  - 私は、「組織の改善」というより「目的の本質」、今一度原点をみつめなおす事が大切ではないか

と思う。やはり、会員相互の親睦と連携のもとに、青年経済人としての社会的責任の自覚に基づき、社会的連帯感を養い、その経営能力の向上と体質改善による企業の近代化をはかり、もって地域商工業の振興発展に寄与することを忘れていてのではないだろうか。

- 情報が来ない。・商青連関係者の自己満足で終わらないように！・末端会員に何が届けられたか？の検証。
- 単会—県連—ブロック—地区—商青連という構成をもっと簡略化して、商青連から単会に対して直接的な運営をしてほしい。せっかく商青連のホームページができてきているのに、情報をもっと新鮮なものにしてほしい。県連会議とブロック会長会議は、同日に実施して、負担を軽減したり、商青連役員会時にブロック役員会を同日に実施するとかを積極的に指導して欲しい。商青連役員会の別枠委員長、代表理事は、商青連理事経験者とするべきと思う。
- ①全国から集まるので、その地方により時間と金がかかるところもある。組織はブロック内を充実させて意見を集約し、役員会はブロック代表理事がブロックの意見を持って参加するようにする。②インターネット等を活用した委員会や役員会を開催する。(出向理事に金のかからない商青連)
- それぞれの単会の活動が大事だと思う。それを支援できるものであれば歓迎だが、多くの協力を求めるものは難しいかもしれない。
- 単年度ではなく複数年度での組織構成、また会長研修会をもっと次期役員の育成的な要素を取り込むこと。
- ブロックごとに、組織の有りがたが違いすぎる。基本的な有り方を統一すべきと思う。
- 出向者の出向にあたり、事前のオリエンテーションを強化し、組織、事業内容をもっと理解すべきだと思う。また、出向者一人一人がある意味、商青連の広報部隊だと思うので、それをうまく機能させるにはどうすれば良いか考えて欲しい。
- 組織の改善も必要だが、組織の上の人たちの熱い心をどのように単会に伝えられるのかを考えて欲しい。
- 何をしているのかよく分からないので、各単会まで情報を下ろしてほしい。また、わかりやすい効果的な結果を出してほしい。
- 大会等の場で交流、情報交換ができる時間をもう少しとって頂きたい。
- 全国組織のため運営が大変だと思うが、より充実した組織構成になればと思う。
- 末端の単会に商青連の情報がスムーズかつ正確に流通できるようにしてほしい。
- インターネット等間接的な交流や意見交換の場とは違う、実際にひざとひざを突き合わせての意見交換ができる機会を増やしてほしい。(本音での意見交換ができる設営を望む)
- 同業種のネットワークをもっと活かしていくべき。(ホームページ等で)
- インターネット上での会議、意見交換を！直接

会って話をするのも必要だがネット上で意見を交換した上で会うと何倍ものコミュニケーションが出来ると思う。

- 商青連に加盟していることのメリットをもっとアピールできる場があるべきと思う。
- 全国組織としての基盤整備、大都市の青年部設置。
- 全国三万人の組織の末端までのケアとは言わないが、もう少し意識の上で商青連、県青連、単会との間の温度差を少なくしたらどうか。
- ホームページを充実させて欲しい。例えば役員会の内容等をホームページに掲載して欲しい。
- 周年事業、会員大会は現在のやり方で本当に意味があるのか？式典では参加した単会の紹介と次回開催のキャラバンや地元挨拶などのパターンだが、参加するたびに意味の無さを感じる。別のやり方を考えるべきだ。
- 全国組織、ブロック単位での活動を考えると、メリット、デメリットがあり、今後は検討すべき内容もあると思う。地方の単会では、まずは県連単位での充実を最優先したいと考える所も多いのではないか。
- 商青連から提供される情報が、会員まで届かなかったり届くのが遅かったりする。正確にスピーディになるよう改善してほしい。

## ②今後の事業展開

- 街おこし、広域合併等、今後もY E Gの果たす役割は大きくなることはあっても、小さくなることは決してないと思う。今後は、商青連の全国ネットを通じて各単会の取り組みあるいは成功事例(出来れば失敗事例も)の情報を単会にフィードバックしていただければ有難い。
- 事業展開も結構であるが、これ以上の増加は望まぬ。それよりも単会単位では不可能な、補助金の申請に対するモデルケースの作成や所轄官庁との折衝等、単会運営が円滑に進むような行動をとっていただきたい。
- アントレプレナーズ委員会の再スタート。
- 行政(政府)、銀行等(金融機関)に対する強力な政策提言。
- 全国Y E Gの大商談会・新製品の各県自慢大会・コンクール(酒、物産、民芸品他)
- 単会ごとの交流に発展できるような事業。各役員がビジネスに生かせるネットワーク作り。自己研鑽や自己改造などのセミナー。各単会独自では設定が難しい事業。(規模や内容など)
- 商青連にインターネットビジネスの窓口となってもらい、参加メンバーを募り全国的な販売網を作ってはどうか。
- もっと他団体との交流を推進してはどうかと考える。例えば、J Cとか同年代のまちづくり団体との交流や共同事業を行うことは、地域おこしの有効な事業となるのではないかと考える。
- 例えば、ネットワークによるビジネスチャンスの中継的な役割。例えば、各単会に所属している会員の商品・サービス・技術情報の掲載等、

- 会員企業同士が結びつく場として『情報掲示板』的な提供を行う場。
- 全国会長研修会は、全国大会のようにYEG会員等多数の参加要請を必要とせずに、参加対象者のみに限定すべきだと思う。
  - ビジネスネットワークづくりを柱（中心）とした中での、親睦・交流事業に重点をおくべきだと考える。
  - 商社機能を持つ組合を作る。YEGブランドを作る。いま、世の中の機能をまともに維持していくには、職業倫理の確立と普及推進しかないと思われるので、その研究を行う機関を同世代超党派の議員なども巻き込んで設立する。
  - 研修やネットワークづくりは勿論、地域に根差した活動（単会の）を全国的に外部にPRして行く広報活動も青年部の存在をアピールするには必要かと思う。認知度をもっと上げたい。
  - コミュニティビジネス委員会が担当かは分からないが、NPO法人等の勉強会若しくは情報を流して欲しい。また、YEGの良いところは異業種交流だとは思いますが、交流だけではなくそこから発展したビジネス等の成功事例を各単会から発掘していただきたい。
  - 会員の数を利用して、安く購入できるシステムの構築。ex、高速チケット、イオカード、etc。
  - 例年、翔生塾やヤングリーダーなどを消化しているだけのように見える。そして毎年出席率の低さが問題となる（ある特定の単会や県連が出席を増やさなければならぬ無理も出てくる）。本当に必要なものは何かを検討すべき。また、商青連は単年度で終わるので「不連続の連続」とよく言われるが、本当の意味での継続も考えなければいけないのではないか？
  - 新しいビジネスシステムや、新技術などの具体的な研修や、リーダーシップの向上をはかるもの。
  - 研修の充実と政策提言。
  - 3万人もの会員がいるので、そこから情報収集をして会員にフィードバックしてくれるシステムを作ってほしい。
  - 青年会議所の活動は高く評価されているが、青年部の評価は低い。年齢構成の高い青年部では、忙しく時間が無い人が多いが、知識見識においては青年会議所メンバーより上。青年部メンバーとしての役割の見直しが必要ではないか。青年部の力を親会へ反映する活動が、本来求められているのではないか。
  - 市町村合併に関する情報交換の場が必要と考える。
  - インターネットによるビジネスネットワーク
  - 経営の糧となるような研修内容の充実。
  - コミュニティビジネス委員会（旧アントレプレナーズ委員会）など、直接事業に結びつくような、すばらしい取り組みがあまり知られていないと思われるので、YEG内の情報伝達を徹底してほしい。
  - 個々の単会では出来ない（予算規模の大きい）研修会の開催。現状の経済社会の中でどう生き残るかを考え、またそれをどう行動に移すかという研修会の開催。
  - 他のブロック大会等へも参加しやすい環境を作ってほしい。
  - 各ブロック・都道府県連において、会員が参加しやすい委員会活動を行い、会員親睦交流をし、会員のための情報提供が必要。
  - ビジネスネットワークづくりで、実際に会員が企業を成功させた事例を作りたい。
  - 各単会の地場の特産品や観光資源を紹介し合うネットワークづくり。全体的な研修は全国大会、会長研修会で開催するしか難しいと思うので、研修プログラム、講師紹介等の情報発信をしてほしい。
  - 今日のような情報化時代にあって、全国のメンバー間で情報をやりとりでき、新しいビジネスチャンスに結びつくようなビジネスネットワークづくりをお願いしたい。
  - 全国でいろいろなビジネスで成功している仲間が多くいると思うので、そういった例を勉強してビジネスネットワークをつくるべきだと思う。
  - 翔生塾のような、長期であったり遠隔地であったりする研修会に参加出来ない人向けに、単会単位でも取り組める研修等に利用できるプログラム(教材等)の開発をして頂けると有難い。
  - 今年度のコミュニティビジネス委員会の事業は、現役のYEGメンバーが実際に経験したことが活かされていると思う。このように、全国各地でYEGが展開している活動の成功や、苦戦してきた経験をもっと情報として提供していただきたいと思う。（全国には同じことで悩んでいる単会もあるでしょう、聞きたいこともあるでしょう。答えやヒントがどこにあるのか解れば自分から取りに行くと思います。）
  - 商青連の事業活動の一部を、全国県連統一の事業としてできないだろうか。
  - 全国大会・会長研修会・ブロック大会など、出ても出なくても変わりがなく出席の必要のないものは、単会負担も大きいため勇気を持って撤退すべき。
  - 全国の会員相互の連携と交流を進める。単に全国大会だけでなく、よりオープンなメールBOX開設など、そこから自由に様々な情報を得たり、交流を深める事も可能。
  - 県連、ブロック、全国大会などすべてにおいて研修会等行っているが、商青連についてはビジネスネットワークづくり・政策提言などを中心に行っていたらよいのでは。
  - 全国区の講師による研修、遠方同士の交流会、全国の会員を前面に押し出した政策提言など、組織を活かした事業展開を期待している。
  - ビジネスチャンスを掴む有効手段を示して頂きたい。国に対しても中小企業の代表として提言してほしい。
  - 全国組織を利用したネットワーク作り。関係省庁に対し、商工業の発展に寄与すべき政策提言。
  - アジアの中での交流、研修。WTOに加盟した中国、隣国韓国との会員企業レベルの交流をバックアップできる研修や交流会。
  - 提言等も必要だとは思いますが、実際にアクション

を起こす時だと思う。行動をおこすY E Gでありたい。

- Y E Gとして政府・経済団体への提言活動や、次代を担う者の主張を。
- ①コミュニティビジネス②青年部独自の事業立ち上げ支援
- 何を取り組むにしても、担当リーダーの人選で結果は容易に想像できると思う。多くを望まず限定した取組みの中に、今後3年間くらい真剣に取り組むべきテーマが決まってくるのではないか。単会内の組織は同一地域なのでまだテーマ設定や運営が容易である。だが全国は都市部と郡部では緊急に着手すべきテーマに差異があるように、場合によってはテーマ（委員会）への参加資格を限定してみるのも一つの手段なのではないか。
- マスコミを上手に使って欲しい。そのためには、意見活動を戦略的に行うべき。全国には、多くの若手経営者がいるのだから、組織力を使わない手はないと思う。
- 最近では全体がベンチャービジネスの方に目が向いているので、もっと地域に根付いた、昔からやっているビジネスにも応用出来るもの等の分野・事業があった方がよいのではないだろうか？
- 全国の各単会の活動状況、内容など、参考になる情報を、適宜流して欲しい。会員自社事業の全国への展開を気軽に簡便に行えるシステムを開発して欲しい。地元の新規事業、成功事例などを、適宜流して欲しい。
- ホームページの充実。
- 各単会がそれぞれの地域の中で、特色のある事業を展開すべきで、商青連が行う事業は限定されるべきである。
- 各地域が抱える身近なことについて。(TMO・広域合併問題など)
- 市町村合併が進む今日、商工会議所も統合拡大が進む可能性がある。今一度、団体としての活動や意義を徹底させるために商青連会長が三役の県連訪問や日商青年部担当事務局の単会まわりなどを行ってはどうか。
- こうした組織は政策提言などができなければ本当は意味がないのだろうと思うが、専門性ある研究体制を継続することも困難が著しいと思うし、事業展開のイメージがつかまえていく状況だと思う。
- 遠方の青年部の負担を軽くするために、役員会、会長会議のインターネットでの開催。
- ネットワークの部分が少し弱く感じる。アンケートや地域密着型のイベントを考えてみてはどうか。
- 全国から会員を一堂に集めて研修をすることには無理がある。親睦・交流の場とするならば、受益者負担とし、現在の会費を大幅値下げすべき。ビジネスネットワークについても、各企業により、必要性の濃淡がある。
- 活発に活動している青年部を積極的に紹介すると併せて、その詳しい内容を代表者本人から聞ける機会を定期的に作ってほしい。他青年部

の情報が瞬時に欲しい。

- メンバー一人一人の意識の持ち方だと思うが、他地域の会議所・青年部活動を多く知る事。そこから交流・親睦を経てネットワークの構築ができ、活性化の方向に進むのでは。
- 研修会・講演会等のビデオ配布。

### ③その他なんでも

- 記念式典・大会等の会場のP R・宣伝をもう少し省力化できないものかと思う。
- 会員数が減少傾向になっているため、会費の見直しをしてほしい。
- 商青連事業への参加はあくまでも任意であり、参加したい人が参加すべきと考える。商青連は、各単会への情報提供にもっと力を入れるべきである。各単会があって商青連が存在することを再確認すべきである。親会のことを商青連幹部が式典等において中傷的な発言は控えるべきである。
- よく出向者の負担のことを耳にする。経済的余裕のある人、単会は問題はないと思われるが、大多数はかなり負担が強いられているのではないかな。
- まず地域に活力があつての各企業であり、各企業があつてこそそのY E G活動であると考え。地域に根ざしたY E G活動を今後とも展開していきたいと思う。商青連には、是非そのサポートとなる支援活動をお願いしたいと思う。
- 単会のレベルで考えた場合、会員の多くは地元型商売であり、商売に直結した関係を望んで青年部に入会してくる。そのため、県連・商青連等については、参加する人間にとっては大変勉強になるが、現実的には会員の理解は得られない。また出向費・渉外費が大きくなるため、単会の活動を縮小せざるを得ない状況となり、末端の会員にとってはメリットを感じない気持ち大きい。参加する人にとって、商売以外での人間性の向上（自己鍛錬）には良い場と思う。
- 私のような中小企業経営者にとって、商工会議所青年部はいろいろな人と出会う機会になっている。しかし、全国的レベルの会では、どうしても皆で『ワイワイ、ガヤガヤ』的なものになりがち。全国大会や全国会長研修会など、時間と費用を掛けてまで行く必要が、又はそれだけの有益性があるのか疑問である。不況といわれている中、我々の企業を継続・発展させて行かなければならない立場としている以上、単会としてはもっと個別のレベルアップをしていき、青年部に出れば何かを得られる、メンバーが参加したくなるような青年部にしたいと考えている。
- 当単会では、商青連に対する知識がほとんどないのが現状である。商青連を知るには、どうしたらいいのか？
- やはり年齢制限の事だと思う。全国統一は難しいかもしれないが、せめて40代で終りにするべきだと思う。

- 商青連、各ブロック連、県連、それぞれの単会の関わり方が難しい。あくまでも、単会が、基本ではあるが、各連合会への単会・会員の関わり方が、非常に薄いように思われる。(特に、広域になればなるほど傾向が強い。)
  - 最近、当地域においても、地域からの青年部への諸会議への参加要請が増えてきている。これは、地域経済基盤の建て直しや新産業創造に向けて、若手経営者のグループとしてYEGと言う組織が広く認知され、大きく期待されているのではないかと感じている。商青連においても、日本と言う視点に立った数々の提言を関係各所にしていただき、より良い社会が作っていきけるよう期待したい。
  - 全国大会・会長会議など商青連の事業に出席しようと思うと、時間・登録費・交通費・宿泊費等負担が多すぎてなかなか出席出来ない。会員から、「県連・単会の事業に参加するだけで精一杯で、ブロック・商青連の事業までは」と言う意見をよく聞く。結局、役員の負担が増える。
  - マスコミを利用するなど、「YEG」の名をもう少しメジャーにしていかなければならないと思う。
  - YEGは、そもそも地方都市から派生し今日に至っている。今後は大都市にも青年部ができ全国組織としての基盤ができると思う。その事はおのずと大都市YEGと地方都市YEGの役割が違ったものになるという事を意味すると思う。地方都市のYEGは地域経済の発展を図るべきであろうし、大都市YEGに於いては、グローバルな視点に立って、国際化を進めていかなければならないと思う。そうした中での商青連、県連の在り方を考えていかなければならない時期に差し掛かっているのではないかとと思う。
  - 商工会議所と商工会の母体の統一の推進。広域合併での各単会・単所の協力交流体制のスムーズな移行。
  - 商青連は、一般会員にとっては非常に遠い存在だと思う。地方の時代と言われて久しい中、県連、ブロック単位で講演やセミナー等を開催してほしい。(巡回講演とか)
  - 商青連が商青連のために事業を行い、各単会がそれを支えるために参加するのでは各単会へ負担ばかりを強いる事になりはしないか。各単会は各々独自に活動しているので、その活動の手助けになるネットワーク作りこそが商青連の仕事だと考える。
  - 商青連と単会とでは温度差が大きすぎる。当単会のメンバー構成はパパママストアに近い小規模事業者が大半を占めているため、メンバーは家業の主力を担っており、商青連関係の事業に参加しにくい。ネットを上手く利用した事業を望む。今回の全国会員名簿のCD-ROM作成においても高い費用をかけて作成しても無意味に思う。なぜなら特徴的な商品を取扱い、製造している者はごく僅かであることが想定でき、活用されることもほとんどないと思う。同じ作成するならwebに会員名簿を閲覧できるようにした方が良くはないかと考える。全体的に
- 商青連の事業は規模の小さい単会とは全てにおいてかけ離れているように思う。
  - 全国単会ごとに意思統一がなく、定年やOB会、入会審査が違う等、全国組織としては矛盾しているのではないか。例にあげれば、当単会ではずっと変わらないYEGビジョンをつくり、JC等の他の会との違いを明確化している。また、メンバー全員がそのことについて説明ができるようにしている。OB会はマスターズと命名している。
  - 各ブロック大会開催にあたり、商青連のマニュアルでの開催は各地区のカラーが出にくい。中央のカラーが出すぎているのではないか。
  - 商青連出向について、毎年問題になるのが人選と費用の問題。やはり出向すれば、仕事を犠牲にして時間を捻出できる人でなければならないし、費用も県連、単会、親会などの補助でまかなうが、それでも費用の捻出は大変である。

# 中長期 ビジョン まとめ

## I. はじめに

希望に満ちて、華々しく幕をあけた21世紀。しかし、期待とは裏腹に、混迷の中のスタートとなった。アメリカでの同時多発テロ以降、世界各地で続発するテロ、民族・宗教紛争など、心が痛む事柄が全世界で引きも切らずに起きている。

日本経済はバブル崩壊後、いまだに先が見えない長いトンネルから抜け出せないままである。デフレ基調の中で、多くの企業での収益悪化によるリストラの加速、アメリカ経済の減速に反応し続落する株価、など明るい材料が見つからない。政府が繰り出す経済政策も効果が見えにくく、不良債権処理問題から金融システムへの不安が広がる中、特に我々中小企業を取り巻く環境は益々厳しいものがある。加えて、BSE問題や虚偽表示問題など、責任感の欠如による不祥事が続出する状況の中で「企業倫理」が問われている。まさに、戦後、経験したことの無い高い壁が我々企業家の前に立ちはだかっているようである。

一方、希望を抱かせる動きとしては、NPO等に代表される利益最優先だけではないビジネスの思想・在り様も、着実に具現化し始めていることを挙げる事ができる。

こんな変革の時代だからこそ我々青年部が先輩達が残してくれた精神「若き起業家集団(\*)」を思い起こし、力を合わせリーダーシップをとり、何事にも勇気を以ってチャレンジし、未来の創造に向かって歩まなければならないと思う。今、まさにYEG (Young Entrepreneurs Group、若き企業家集団) の真価が問われているのではないだろうか。若さというエンジンを全開にして、時代をリードし、次代への夢を創る。我々YEGの使命だと思う。

YEGの全国組織として、また、日本商工会議所の青年部として、商青連の役割は益々重要になっていくであろう。設立20年を経て、これからの商青連の進むべき道を真剣に考えていくにあたって、本章の各事項がその有効な示唆になれば幸いである。

\*本来のYEGの定義は、YEG宣言趣旨からすると「若き企業家集団」であるが、ここではアントレプレナーズスピリッツを強調するために、あえて「若き起業家集団」と表記した。

## II. 商青連5年間の経過報告と現状

### 1. 組織について

#### (1)現状

平成9年度末においては517商工会議所に422青年部が設置(81.6%) 商青連加入が374青年部(88.6%)であったものが、平成14年10月末現在では527商工会議所に447青年部が設置(84.8%) 商青連加入が397青年部(88.8%)と設置率、加入率ともに伸びている。加入単体会員総数は2万7千名を超えており、女性会員も1千名を超えた。

#### (2)運営

ブロック代表理事、委員長を各県理事の別枠とすることにより、より県連からの意見を多くいただける役員会に改革をした。

また、正副会長会議の他、ブロック代表理事、委員長を含めた会議を行い執行部の意見統一を図り、役員会でのスムーズな運営ができるよう改善をした。



委員会では、総務、企画、研修、広報委員会の4つの常設の委員会に加え、「特別委員会」、「アントレプレナーズ委員会」、「コミュニティビジネス委員会」と名称・活動内容は変えながらも一貫して全国の会員からの公募による委員会が設置され、意欲のある会員が参加できるようになった。

## 2. 事業について

### (1) 主催事業

全国大会、全国会長研修会、各ブロック大会については、平成12年度に、開催地の企画運営の一助となるべき開催要綱の解説書としての「手引書」を作成し、企画委員会を中心に円滑な開催準備のための決定、指導、助言等を行ってきた。

また、「翔生塾」や「ヤングリーダー研修会」の開催を通じて、人材の育成に力を注いでいる。海外での研修、精神修行に重きおいた寺院での研修、各ブロック大会と全国大会と連動した計10回のシリーズ化した講演会など、各年度特色ある研修を開催している。

### (2) 広報活動と情報の発信

総務委員会および広報委員会においてITを活用した会議等の案内、議事録その他の情報の発信を行い、この5年間で飛躍的に整備されてきた。

ホームページに関しては、内容を充実させ機能性にも工夫、改良を加え、会員相互の情報交換に努めてきた。

会報誌「翔生」についても、内容の充実等を図り年2回の発行を続けている。

### (3) 各地Y E Gへのサポート

「Y E G大賞」や「Y E G連携大賞」などの表彰事業を通して、各単会の活動、あるいはY E Gを中心とした連携事業についての事例発表、事例紹介などを行ってきた。

また、若手後継者等育成事業への補助金についての情報提供なども併せて行っている。

### (4) ビジネスチャンスの提供

平成8年度に公募委員による「連携」をテーマとした「特別委員会」が設置され、平成9年度には地域連携、商業、製造業、建設・不動産、情報・サービスの5つの業種別小委員会が盛り込まれた。それを受けて、平成10年度には「特別委員会」に7つの小委員会を設置、平成11・12・13年度には「アントレプレナーズ委員会」、平成14年度には「コミュニティビジネス委員会」と成長しつつ、精力的に活動を続け、大きな成果を挙げている。

また平成13年度には「Y E Gセレクション」を設け、会員企業の中から頑張っている企業、アイデアあふれる企業、ユーモアいっぱいの企業などを広く公募し表彰を行った。

### (5) 日本商工会議所との連携

平成13年度から日本商工会議所の定款に青年部が位置付けられたことに伴って、商青連の代表者が常議員会への出席や発言ができるようになった。また、小委員会への出向や会頭との懇談会を通して、日商への意見具申や提言ができる環境が整ってきた。

また各商工会議所においては、269会議所が青年部を定款に載せている(60.2%)。今後とも、青年部を設置している全ての商工会議所の定款で、青年部が位置づけられるよう活動を進めていきたい。

### (6) 他団体との連携

商工会青年部等との交流を進めてきた。

また、中央官庁の若手官僚との懇談会を開催し、Y E Gの存在・活動のアピールと意見交換の場として実をあげている。

## (7)国際交流

平成12年度に開催された商工会議所世界大会（韓国）に青年部として参加した。  
また、海外で開催した「翔生塾」での研修を通して、国際交流を行ってきた。

## Ⅲ. 中長期ビジョン

設立20年を経て、日本商工会議所の青年部としての位置付けも明確になった今、各大会（全国大会、ブロック大会等）を通じての「交流・連携」と、研修会（全国会長研修会、翔生塾、ヤングリーダー研修等）を通じての「研修・研鑽」を主体とする従来からの事業展開に加え、公募委員によるアントレプレナーズ委員会の活動、コミュニティビジネス委員会による各地でのNPOの立ち上げ等、連携事業の促進や新しいビジネスチャンスの創出に繋がる事業展開が実績を挙げつつある。そして、それらに加えて、今求められているのは、「会員へのより具体的なビジネスチャンスの提供」と「組織としての影響力の発揮」という新しい役割である。

同時に、ますます、社会的なニーズが多様化、複雑化する中で、NPOの台頭を一例に、「民間」とか「行政」とか「住民」とかいった従来の社会の構成要素の区分が意味を失い始め、今後、その傾向はさらに顕著になっていくであろう。

21世紀の社会では、地域の中でのYEGの在り様もまた、変わることが求められるはずである。地域（民間企業であったり、行政であったり、住民であったり）とYEGがそれぞれの責任を果たしながら、お互いに支え合う関係、そんな「これからのYEGと地域との連携の仕方」も大きな研究課題である。

商青連は、それぞれの地域で地域に根を張りながら頑張る各地YEGの、ある時はサポーターとして、ある時はパートナーとして、ある時はメンターとして、お互いの生成発展のために、推進役としての新たな役割を積極的に担っていくべきである。

また、各地青年部、道府県連、ブロックの組織と活動が充実していく中、商青連としても、より高度な、より複雑な時代の要請に応えるべく、「21世紀の組織のあり方」についても、一旦ゼロベースで研究、再構築を試みたい。

21世紀の商青連は、商青連→ブロック→道府県連→単会といういわゆるピラミッド型ではもちろんなく、単純な逆ピラミッド型でもなく、それぞれに自由意思を持つそれらの組織が、ちょうど惑星のように同心円上を互いに有機的に関わりながら廻っている、それ自体に「いのち」がある宇宙のような共生体であるべきではないだろうか。

さらに言えば、これからの組織の在るべき姿は、「細胞」（単会）がそれぞれに自立した「いのち」を持ちつつ、有機的につながることで、「体の内臓や各部位」（道府県連、ブロック）を作り、それらが有機的に機能して「体」（商青連）を創り出す。お互いの「いのち」を持ちつつ、相互の関係性の中で初めて全体としての「いのち」が成り立つシステム（共生体）であるのではないだろうか。

商青連は、閉塞しているいわば20世紀型の組織に代わるべき、今まで無かった新しい組織の在り様を、実際の組織体として自らの身を以って示していくことによって、これからの日本の社会の中で先駆者的な役割を果たすことができると考えられる。

以上をうけ、従来から継続の活動も含め、今後商青連として推進すべき事業展開について以下のように提言する。

## 1. 21世紀のあるべき姿に向けての組織改革

単会、道府県連、ブロックとのより有機的な連携を可能にする未来型組織としての商青連組織のあり方を研究し、改革を進めることが、21世紀に必要とされる商青連となるために求められるであろう。

## 2. 会員間の交流・連携のさらなる促進

全国大会・ブロック大会等の主催事業の充実を図ることはもとより、それら大会の開催そのもので完結するのではなく、大会の開催を機に、その地域のYEG単会同士、道府県連、ブロックの更なる連携、活性化に繋がる支援も必要とされるであろう。

## 3. 研修・研鑽を通じての人材育成のための事業の充実

主催する研修会（翔生塾、ヤングリーダー研修、会長研修会等）の充実とともに、YEGならではの、日本商工会議所の青年部ならではの研修の機会に関する情報の提供もさらに必要である。

## 4. 各地YEG（単会、道府県連、ブロック）の活動のサポート強化

各地の活動に役立つ情報の提供とともに、各地YEGの事業のヒントになるような事例に関する情報の共有が必要である。

また、各地YEGがそれぞれの地域とのよりいっそうの連携を進められるような支援活動も求められるであろう。

商青連が触媒となり、単会同士、道府県連同士、ブロック同士のネットワークを活かす事業をサポートすることも視野にいれたい。

また、各種大会の開催を機に意識と結束が高まった開催地YEGのよりいっそうの活性化に繋がるような支援も必要とされるであろう。

## 5. 会員企業へのより具体的なビジネスチャンスの提供

「YEGとしての活発な事業展開」をひとつの車輪とすれば、もうひとつの車輪は「自社、自店の商売繁盛」である。3万人の会員を持つ全国組織として、より具体的、直接的なメリットにつながるビジネスチャンスの提供の場を増やしていくことが求められている。

- 1) 3万人のビジネスネットワーク構築
- 2) コミュニティビジネスへの取り組み
- 3) 製造業の空洞化への対応
- 4) 産学官協働の促進
- 5) 創業者支援事業の推進
- 6) 時代の要請による新規課題への取り組み

## 6. 組織として外への影響力拡大の推進

提言活動を通じての地域を支える中小企業の最前線にいる3万人の青年経済人の組織として、同時に、日本商工会議所の青年部として、その発言力を高めることが求められている。

## 7. 組織強化と継続的な組織運営の改善

組織強化と同時に、組織のあり方の検討も不可避である。ピラミッド型に代表される従来型の組織に代わって、21世紀型の新しい連合会としての組織のあるべき姿が求められている。

- 1) 青年部未設置会議所への青年部設置促進
- 2) 商青連への未加入青年部の商青連加入促進
- 3) 会長の選出方法も含め商青連役員人事のあり方の見直し
- 4) 「不連続の連続」と言われる態勢での単年度制のデメリットを克服するための具体策の研究
- 5) 「必要な情報を必要な人へ必要な時に」を実現する情報流通の改善
- 6) 広く商青連事業理解者・実践者を増やすための道府県連出向理事に加えての一般公募委員による活動の促進。

## 8. PR・広報の強化

Y E G 内部の情報流通をリアルタイムなものにしていくこと、また、相互通行なものにすることを図りつつ、日本商工会議所の青年部として、外部に向け、その存在をアピールし、Y E G というブランドの認知度を高めていくことが必要である。

## 9. 日本商工会議所とのよりいっそうの連携の推進

日本商工会議所の青年部として、そのメリットを最大限に享受すべく、日本商工会議所の事業への積極的な参画や意見具申が求められる。

## 10. 他団体との連携の促進

より広い世界での視野や視点を得るため、また、影響力を行使するために、他団体とのよりいっそうの交流と連携が必要となる。中でも、市町村合併が問題になっている現況では、商工会青年部との交流・連携は特に求められるであろう。また、組織としての影響力の発揮という観点では、国会議員や官僚とのコミュニケーションも必要である。

## 11. 国際交流への貢献

C A C C I (アジア商工会議所連合会) との連携、世界大会や A P E C (アジア太平洋経済協力会議) 等への参加を通じて世界の中の日本という認識を持つことと、併せ、世界のリーダーたる国の若手経済人としてとるべきアクションについて研究・提言をする。

## 12. 環境問題への貢献

地域のリーダーとして地域に根ざした環境への貢献を果すべき各地 Y E G への支援を実践する。

## 13. 教育問題の研究と提言

地域の次代を創る次世代との関わりを積極的に求め、次世代が経済活動の場で夢を語ることができるような経済の在り様を模索し、実現に努力する。

# 商・青・連・の・あ・ゆ・み

## 設立趣旨

### —— 商青連はいつ、なぜ設立されたのか ——

商工会議所青年部は、次代の地域経済を担う後継者の相互研鑽の場として、また青年経済人として資質の向上と会員相互の交流を通じ、己の企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的として、各地の商工会議所に設置されている。

しかし、商工会議所のある都市部には青年会議所や他団体の青年部が存在し、中でも青年会議所の場合は商工会議所が面倒をみているところも多いなどの背景もあり、青年部をつくることに消極的な商工会議所もみられる。こうした一方で、商工会議所青年部の活動の中心は、あくまで企業経営の勉強の場であり、交流を通じて企業の発展を図ることや商工会議所の強化にあるという理念、青年会議所等との相違点についての理解、認識が深まるにつれて、青年部を設置する商工会議所が急速に増えてきた。

このような中で、先進青年部の中から日商に対して「青年部の全国組織化を図ってほしい」「全国大会を開催してほしい」という要請が昭和54年頃から出てきた。そこで日商では、全国組織化や全国大会を開催する前に、商工会議所青年部の目的、あり方を確認し合う必要があるとの観点から、地域ブロックごとに青年部の運営研究会を開催してきた。

こうした経緯を踏まえ、「行動する商工会議所に若い力を」のスローガンのもと、商工会議所青年部の初めての全国大会が56年11月に群馬県前橋市で開催された。この大会で「全国組織化を図れ」との提案があり、参加者全員の総意で採択された。

これを受けて日商では、全国9ブロックの青年部の代表25人から成る「全国組織化推進委員会」を設け、全国組織化の必要性について再確認するとともに、全国連合会が行うべき事業とその収支予算等について検討を重ねてきた。57年10月に富山県高岡市で「若い力を結集し、商工会議所に新たな飛躍を」のスローガンのもとに第2回の全国大会が開催されたが、その際、全国商工会議所青年部連合会の結成大会も併せて開催され、全国組織化推進委員会が検討してきた連合会の規約、事業計画、収支予算等が同大会で諮られ、その結果、全国商工会議所青年部連合会が58年4月1日に発足することとなった。

**設立からのあゆみ**

56.11.11	第1回全国大会（群馬県前橋市）	2.9~10	第4回中央研修会（東京都千代田区）
57.10.29	第2回全国大会（富山県高岡市）	10	第6回会員総会（東京都千代田区）
<b>●昭和58年度</b>		<b>●昭和62年度</b>	
4.1	全国商工会議所青年部連合会（商青連）発足	5.24	九州ブロック運営研究会（宮崎県日向市）
7.22	九州ブロック運営研究会（長崎県大村市）	6.4~15	アメリカ・カナダへ研修視察団を派遣（参加者：60人）
9.9	関東ブロック運営研究会（静岡県沼津市）	8.22	関東ブロック運営研究会（栃木県足利市）
17	東北・北海道ブロック運営研究会（山形県鶴岡市）	9.6	中国ブロック運営研究会（山口県長門市）
10.17	近畿・東海ブロック運営研究会（福井県武生市）	13	四国ブロック運営研究会（徳島県池田町）
18	中国・四国ブロック運営研究会（山口県山口市）	14	近畿・東海ブロック運営研究会（大阪府枚方市）
25	北陸信越ブロック運営研究会（富山県新湊市）	19	北海道・東北ブロック運営研究会（北海道登別市）
11.11	第3回全国大会、第1回会員総会（大分県大分市）	23	北陸信越ブロック運営研究会（新潟県村上市）
2.6~7	第1回中央研修会（東京都港区）	10.1	機関紙「翔生」（第3号）発行
<b>●昭和59年度</b>		10.6~7	青年部広報担当者研修会（静岡県熱海市、参加者：32人）
9.15	東北・北海道ブロック運営研究会（宮城県塩釜市）	11.7	第7回全国大会、第7回会員総会（沖縄県沖縄市）
18	東海・近畿ブロック運営研究会（岐阜県関市）	2.8~9	第5回中央研修会（東京都千代田区）
28	中国ブロック運営研究会（岡山県津山市）	9	第8回会員総会（東京都千代田区）
10.12	九州ブロック運営研究会（福岡県甘木市）	3.1	機関紙「翔生」（第4号）発行
20	北陸信越ブロック運営研究会（新潟県五泉市）	<b>●昭和63年度</b>	
27	関東ブロック運営研究会（千葉県柏市）	6.4	四国ブロック運営研究会（香川県坂出市）
11.11	四国ブロック運営研究会（愛媛県八幡浜市）	8.21~22	優良企業・トレンド企業視察セミナー（大阪府、参加者：46人）
25	第2回会員総会（東京都文京区）	8.26	九州ブロック運営研究会（長崎県平戸市）
25~26	第2回中央研修会（東京都文京区）	9.2	近畿ブロック運営研究会（奈良県奈良市）
3.18	第4回全国大会（茨城県水戸市）	4	中国ブロック運営研究会（鳥取県鳥取市）
<b>●昭和60年度</b>		10	東北ブロック運営研究会（山形県長井市）
8.23	九州ブロック運営研究会（鹿児島県指宿市）	13	東海ブロック運営研究会（三重県津市）
9.8	四国ブロック運営研究会（香川県高松市）	16	関東ブロック運営研究会（静岡県浜松市）
14	東北・北海道ブロック運営研究会（岩手県一関市）	17	北陸信越ブロック運営研究会（長野県中野市）
29	中国ブロック運営研究会（鳥取県米子市）	24	北海道ブロック運営研究会（北海道浦河町）
10.2	関東ブロック運営研究会（神奈川県鎌倉市）	11.1	機関紙「翔生」（第5号）発行
5	北陸信越ブロック運営研究会（富山県富山市）	17	第9回会員総会（山口県山口市）
8	近畿・東海ブロック運営研究会（和歌山県有田市）	17~18	第8回全国大会（山口県山口市）
11.9	第5回全国大会、第3回会員総会（福井県福井市）	2.9~10	第6回中央研修会（東京都新宿区）
2.25	機関紙「商青連だより」発行	10	第10回会員総会（東京都新宿区）
25~26	第3回中央研修会（東京都千代田区）	<b>●平成元年度</b>	
26	第4回会員総会（東京都千代田区）	7.27	日商会頭・商青連役員懇談会（東京都千代田区）
<b>●昭和61年度</b>		8.2	近畿ブロック運営研究会（兵庫県洲本市）
5.22	九州ブロック運営研究会（佐賀県鹿島市）	11	北海道ブロック運営研究会（北海道美唄市）
8.23	四国ブロック運営研究会（高知県高知市）	27	九州ブロック運営研究会（大分県別府市）
26	東海・近畿ブロック運営研究会（愛知県春日井市）	9.3	四国ブロック運営研究会（愛媛県西条市）
9.10	機関紙「翔生」創刊		
19	関東ブロック運営研究会（埼玉県上尾市）		
21	中国ブロック運営研究会（鳥根県松江市）		
27	東北・北海道ブロック運営研究会（秋田県大館市）		
28	北陸信越ブロック運営研究会（石川県輪島市）		
10.18	第6回全国大会、第5回会員総会（福島県福島市）		

9.8	関東ブロック運営研究会 (群馬県桐生市)	15~16	第11回全国大会 (島根県松江市)
11	中国ブロック運営研究会 (島根県益田市)	15	第15回通常会員総会 (島根県松江市)
13	東海ブロック運営研究会 (岐阜県関市)	2.6~7	第9回中央研修会 (東京都千代田区)
22	北陸信越ブロック運営研究会 (富山県高岡市)	7	第16回通常会員総会 (東京都千代田区)
10.1	東北ブロック運営研究会 (青森県青森市)	3.1	機関紙「翔生」(第12号) 発行
5~6	企業視察研修セミナー (神奈川県横浜市及び東京都大田区 参加者:51人)	<b>●平成4年度</b>	
11.1	機関紙「翔生」(第7号) 発行	6.21~28	商青連設立10年記念欧州視察研修団派遣 (参加者:21名)
16~17	第9回全国大会 (高知県高知市)	7.18	東北ブロック運営研究会 (岩手県花巻市)
16	第11回通常会員総会 (高知県高知市)	8.23	東海ブロック運営研究会 (愛知県岡崎市)
2.6~7	第7回中央研修会 (東京都千代田区)	9.4~5	近畿ブロック運営研究会 (福井県福井市)
7	第12回通常会員総会 (東京都千代田区)	9	北海道ブロック運営研究会 (北海道帯広市)
3.1	機関紙「翔生」(第8号) 発行	12	四国ブロック運営研究会 (香川県多度津町)
<b>●平成2年度</b>		19	九州ブロック運営研究会 (福岡県行橋市)
6.22	九州ブロック運営研究会 (沖縄県平良市)	25~26	中国ブロック運営研究会 (鳥取県米子市)
7.4~12	東南アジア経済視察団派遣 (参加者:43人)	10.3~4	北陸信越ブロック運営研究会 (長野県松代町)
8.23	東海ブロック運営研究会 (愛知県春日井市)	9	関東ブロック運営研究会 (千葉県千葉市)
9.1	東北ブロック運営研究会 (福島県郡山市)	16	日商会頭・商青連役員懇談会 (東京都千代田区)
5	北海道ブロック運営研究会 (北海道遠軽町)	11.1	機関紙「翔生」(第13号) 発行
7	関東ブロック運営研究会 (埼玉県大宮市)	6~7	第12回全国大会 (山形県山形市)
8~9	中国ブロック運営研究会 (岡山県津山市)	6	第17回通常会員総会 (山形県山形市)
12	近畿ブロック運営研究会 (滋賀県彦根市)	2.9~10	第10回中央研修会 (富山県富山市)
15~16	四国ブロック運営研究会 (高知県中村市)	9	商青連設立10年記念誌発行
23	北陸信越ブロック運営研究会 (新潟県燕市)	10	第18回通常会員総会 (富山県富山市)
10.4	日商会頭・商青連役員懇談会 (東京都千代田区)	3.1	機関紙「翔生」(第14号) 発行
11.1	機関紙「翔生」(第9号) 発行	<b>●平成5年度</b>	
16~17	第10回全国大会 (静岡市浜松市)	7.10	九州ブロック運営研究会 (鹿児島県名瀬市)
16	第13回通常会員総会 (静岡県浜松市)	20	Y E G セミナー (東京都中央区)
2.7~8	第8回中央研修会 (東京都千代田区)	8.28	近畿ブロック運営研究会 (京都府山城町)
8	第14回通常会員総会 (東京都千代田区)	9.4	東北ブロック運営研究会 (秋田県秋田市)
3.1	機関紙「翔生」(第10号) 発行	10~11	四国ブロック運営研究会 (愛媛県今治市)
<b>●平成3年度</b>		18~19	北陸信越ブロック運営研究会 (富山県黒部市)
8.5~6	優良企業・トレンド企業視察セミナー (京都府及び滋賀県一円 参加者:53人)	25	中国ブロック運営研究会 (岡山県倉敷市)
23~24	四国ブロック運営研究会 (徳島県徳島市)	10.3~4	関東ブロック運営研究会 (神奈川県横須賀市)
27	東海ブロック運営研究会 (三重県鈴鹿市)	7	北海道ブロック運営研究会 (北海道恵庭市)
9.3	近畿ブロック運営研究会 (兵庫県高砂市)	8	東海ブロック運営研究会 (岐阜県恵那市)
7~8	北陸信越ブロック運営研究会 (長野県下諏訪町)	11.1	機関紙「翔生」(第15号) 発行
11	北海道ブロック運営研究会 (北海道岩見沢市)	12~13	第13回全国大会 (三重県津市)
14~15	東北ブロック運営研究会 (宮城県石巻市)	12	第19回通常会員総会 (三重県津市)
28	中国ブロック運営研究会 (山口県下関市)	2.8~9	第11回中央研修会 (神奈川県小田原市)
10.2	九州ブロック運営研究会 (熊本県山鹿市)	9	第20回通常会員総会 (神奈川県小田原市)
11~12	関東ブロック運営研究会 (茨城県勝田市)	3.1	機関紙「翔生」(第16号) 発行
16	日商会頭・商青連役員懇談会 (東京都千代田区)	<b>●平成6年度</b>	
11.1	機関紙「翔生」(第11号) 発行	7.22~23	九州ブロック大会 (佐賀県伊万里市)
		27	Y E G セミナー (東京都千代田区)

8.27	四国ブロック大会 (高知県安芸市)	14	四国ブロック大会 (香川県丸亀市)
9.2~3	関東ブロック大会 (栃木県小山市)	21	中国ブロック大会 (鳥取県倉吉市)
9	東海ブロック大会 (三重県伊勢市)	26	東北ブロック大会 (福島県会津若松市)
17~18	北陸信越ブロック大会 (新潟県亀田町)	10.4	北陸信越ブロック大会 (富山県砺波市)
21	北海道ブロック大会 (北海道根室市)	12	東海ブロック大会 (岐阜県関市)
10.1	近畿ブロック大会 (和歌山県田辺市)	17	関東ブロック大会 (群馬県伊勢崎市)
7~8	中国ブロック大会 (山口県柳井市)	18~19	九州ブロック大会 (長崎県佐世保市)
15	東北ブロック大会 (山形県山形市)	22	日商会頭・商青連役員懇談会 (東京都千代田区)
11.1	機関紙「翔生」(第17号) 発行	11.15~16	第16回全国大会 (奈良県奈良市)
25~26	第14回全国大会 (長崎県長崎市)	15	第25回通常会員総会 (奈良県奈良市)
25	第21回通常会員総会 (東京都中央区)	2.3~4	第14回全国会長研修会 (北海道岩見沢市)
12.8	米国大使館との懇親会 (東京都中央区)	4	第26回通常会員総会 (北海道岩見沢市)
1.24	官・民の連携懇談会 (東京都港区)	3.1	機関紙「翔生」(第22号) 発行
2.22~23	第12回中央研修会 (京都府京都市)	<b>●平成9年度</b>	
23	第22回通常会員総会 (京都府京都市)	6.13	第1回YEGヤングリーダー研修 (東京都千代田区)
3.1	機関紙「翔生」(第18号) 発行	7.12	第2回YEGヤングリーダー研修 (大阪府大阪市)
<b>●平成7年度</b>		8.1	機関紙「翔生」(第23号) 発行
6.15~7.2	YEG米国視察研修 (サンフランシスコ・ボストン・ニューヨーク)	8.22~24	翔生塾 (カリアック)
7.14	九州ブロック大会 (宮崎県串間市)	9.4~5	北海道ブロック大会 (北海道登別市)
9.9	近畿ブロック大会 (大阪府高石市)	6	近畿ブロック大会 (兵庫県加西市)
11	第1回「翔生塾」(東京都千代田区)	12~13	北陸信越ブロック大会 (新潟県新発田市)
15	東海ブロック大会 (愛知県瀬戸市)	20	九州ブロック大会 (大分県中津市)
21	四国ブロック大会 (徳島県鴨島町)	26~27	四国ブロック大会 (愛知県伊予三島市)
29	北陸信越ブロック大会 (石川県七尾市)	10.5	東海ブロック大会 (三重県久居市)
10.7	中国ブロック大会 (島根県出雲市)	8	東北ブロック大会 (宮城県古川市)
9	北海道ブロック大会 (北海道美幌町)	17~18	中国ブロック大会 (岡山県岡山市)
13	関東ブロック大会 (静岡県静岡市)	23~24	関東ブロック大会 (埼玉県深谷市)
20	日商会頭・商青連役員懇談会 (東京都千代田区)	11.20	第3回YEGヤングリーダー研修 (徳島県徳島市)
21	東北ブロック大会 (青森県八戸市)	21~22	第17回全国大会 (徳島県徳島市)
26~27	第2回「翔生塾」(カリアック)	21	第27回通常会員総会 (徳島県徳島市)
11.1	機関紙「翔生」(第19号) 発行	2.9~10	第15回全国会長研修会 (静岡県掛川市)
11.16~17	第15回全国大会 (埼玉県大宮市)	10	第28回通常会員総会 (静岡県掛川市)
16	第23回通常会員総会 (埼玉県大宮市)	3.1	機関紙「翔生」(第24号) 発行
22~23	第3回「翔生塾」(カリアック)	<b>●平成10年度</b>	
2.7~8	第13回中央研修会 (和歌山県新宮市)	6.20	第1回YEGヤングリーダー研修 (京都府京都市)
8	第24回通常会員総会 (和歌山県新宮市)	26~27	九州ブロック大会 (沖縄県那覇市)
3.1	機関紙「翔生」(第20号) 発行	7.25	第2回YEGヤングリーダー研修 (千葉県幕張市)
<b>●平成8年度年度</b>		8.1	機関紙「翔生」(第25号) 発行
6.18	YEGセミナー (東京千代田区)	7~9	翔生塾 (カリアック)
7.10	第1回「翔生塾」(東京都千代田区)	8.28~29	中国ブロック大会 (山口県萩市)
8.1	機関紙「翔生」(第21号) 発行	9.4	関東ブロック大会 (茨城県水戸市)
20~22	第2回「翔生塾」(カリアック)	7	北海道ブロック大会 (北海道網走市)
31~9.1	北海道ブロック大会 (北海道滝川市)	11	北陸信越ブロック大会 (長野県須坂市)
9.7	近畿ブロック大会 (滋賀県大津市)	19	東海ブロック大会 (愛知県豊田市)



24~25	四国ブロック大会 (高知県須崎市)	6.6~9	翔生塾 (ソウル)
10.14	東北ブロック大会 (岩手県北上市)	7.13	九州ブロック大会 (佐賀県唐津市)
17	近畿ブロック大会 (福井県鯖江市)	8.25	四国ブロック大会 (愛媛県宇和島市)
11.6~7	第18回全国大会 (青森県青森市)	9.12	北海道ブロック大会 (北海道深川市)
6	第29回通常会員総会 (青森県青森市)	6~7	北陸信越ブロック大会 (新潟県村上市)
2.9~10	第16回全国会長研修会 (愛媛県今治市)	8	関東ブロック大会 (栃木県宇都宮市)
10	第30回通常会員総会 (愛媛県今治市)	13~14	近畿ブロック大会 (和歌山県新宮市)
<b>●平成11年度</b>		21~22	東北ブロック大会 (青森県弘前市)
3.1	機関紙「翔生」(第26号)発行	10.5~6	中国ブロック大会 (岡山県倉敷市)
6.9~14	翔生塾 (アメリカ)	18	YEGヤングリーダー研修 (京都府京都市)
7.10	関東ブロック大会 (千葉県佐原市)	25~26	東海ブロック大会 (愛知県豊橋市)
23	九州ブロック大会 (熊本県熊本市)	11.8~9	第21回全国大会 (神奈川県小田原市)
8.1	機関紙「翔生」第27号発行	8	第35回通常会員総会 (神奈川県小田原市)
7	四国ブロック大会 (徳島県阿南市)	12.1	機関紙「翔生」(第31号)発行
9.4	北海道ブロック大会 (北海道釧路市)	2.8~9	第19回全国会長研修会 (福岡県久留米市)
12	近畿ブロック大会 (奈良県奈良市)	9	第36回通常会員総会 (福岡県久留米市)
18	東海ブロック大会 (岐阜県各務原市)	3.1	機関紙「翔生」(第32号)発行
25~26	北陸信越ブロック大会 (金沢県加賀市)	<b>●平成14年度</b>	
10.13	東北ブロック大会 (秋田県湯沢市)	6.1	機関紙「翔生」(第33号)発行
16	中国ブロック大会 (島根県浜田市)	7.4~6	翔生塾 (比叡山延暦寺)
11.12~13	第19回全国大会 (新潟県新潟市)	13~14	九州ブロック大会 (鹿児島県枕崎市)
12	第31回通常会員総会 (新潟県新潟市)	8.31	四国ブロック大会 (高知県土佐清水市)
2.8~9	第17回全国会長研修会 (岩手県花巻市)	9.7	東海ブロック大会 (岐阜県高山市)
9	第32回通常会員総会 (岩手県花巻市)	13	関東ブロック大会 (静岡県沼津市)
<b>●平成12年度</b>		14~15	北海道ブロック大会 (北海道留萌市)
3.1	機関紙「翔生」第28号発行	27~28	近畿ブロック大会 (滋賀県長浜市)
7.3~8	翔生塾 (アメリカ)	10.3~4	東北ブロック大会 (福島県福島市)
18	第1回YEGヤングリーダー研修 (東京都千代田区)	10~11	北陸信越ブロック大会 (長野県諏訪市)
8.1	機関紙「翔生」(第29号)発行	18~19	中国ブロック大会 (広島県広島市)
9.2	北海道ブロック大会 (北海道砂川市)	11.1	機関紙「翔生」(号外・臨時号)発行
8	近畿ブロック大会 (京都府宮津市)	11.8~9	第22回全国大会 (大阪府守口市・門真市)
20	北陸信越ブロック大会 (富山県魚津市)	8	第37回通常会員総会 (大阪府守口市)
22	東北ブロック大会 (山形県米沢市)	2.7~8	第20回全国会長研修会 (千葉県柏市)
29	東海ブロック大会 (三重県鳥羽市)	8	第38回通常会員総会 (千葉県柏市)
10.13	関東ブロック大会 (神奈川県相模原市)		
14~15	九州ブロック大会 (福岡県柳川市)		
21	中国ブロック大会 (鳥取県鳥取市)		
11.4	四国ブロック大会 (香川県善通寺市)		
16	第2回YEGヤングリーダー研修 (鹿児島県鹿児島市)		
17~18	第20回全国大会 (鹿児島県鹿児島市)		
17	第33回通常会員総会 (鹿児島県鹿児島市)		
2.8~9	第18回全国会長研修会 (愛知県半田市)		
9	第34回通常会員総会 (愛知県半田市)		
<b>●平成13年度</b>			
3.1	機関紙「翔生」(第30号)発行		

## 年度別事業概要

昭和58年度 スローガン 「**広げよう 若い力を全国に**」

初年度の事業計画の基本方針に基づき、(1)組織の拡充・強化活動を図るための「ブロック別運営研究会」「第3回全国大会」の開催、(2)青年部指導者、青年経営者の資質の向上、会員相互の親睦と連携を図るための「第1回中央研修会」の開催、(3)青年部の各種事業活動、親商工会議所との連携、提携の方法等を内容とする「活動事例集」の作成、配布などに重点を置いて事業を展開した。

○「活動事例集」は、各地商工会議所青年部で実施している地域の特性を活かしたユニークな事業の中から、鶴岡青年委員会など10青年部の活動事例を掲載し、青年部活動の運営に役立つよう、また未設置商工会議所の参考に供することを目的に作成し、全国の商工会議所及び青年部に配布した。

(1)組織の拡充・強化活動として、「ブロック別運営研究会」及び「第4回全国大会」「県別青年

昭和59年度 スローガン 「**拓こう若い力 未来への道**」

部連絡会」の開催、(2)研修・研究活動として、青年部指導者、青年経営者の資質向上、会員相互の親睦と連携を図るための「第2回中央研修会」の開催、(3)広報活動として、青年部の各種事業活動、親商工会議所との連携、提携の方法等を内容とする「活動事例集」の作成、各地青年部の運営活動状況調査などに重点を置いて事業を展開した。

○「つくば科学万博」の開催期間中に茨城県水戸市で開催した第4回全国大会を契機に、全国大会を盛り上げるために、青年部の団結のシンボルである「商青連旗」を作成した。同旗は本大会後、全国大会の開催地に持ち回りすることとなった。

○地域の特性を活かしたユニークな事業を活発に展開している青年部を紹介するため、富山商工会議所青年部会など7青年部の活動内容を掲載した「活動事例集」を作成するとともに、各地青年部の運営活動状況についての調査を実施し、その結果を全国の青年部及び商工会議所に配布した。

「活かせ英知 若さで築こう地域の経済」を60年度のスローガンに掲げて各種事業を展開し、

昭和60年度 スローガン 「**活かせ英知 若さで築こう地域の経済**」

機会あるごとに青年部設置の呼びかけを行った。その結果、60年度に新しく青年部を設置した商工会議所は22ヶ所を数え、全体で255青年部（部員数約1万7千人）となった。また、商青連への新規加入青年部は20青年部で、年度末には162会員青年部となった。

○58、59年度は、「活動事例集」を作成し、地域の特性を活かした事業を活発に展開している青年部を紹介してきたが、60年度はこれを取りやめて機関紙を発行することとなり、61年2月に「商青連だより」（タブロイド判・6ページ、発行部数1万4,000部）を発行した。これは、活動事例集の内容を盛り込み、さらに青年部相互と商青連との情報交換を活発にして交流を深めるとともに、社会一般に対して青年部の存在とその活動を広くPRすることを目的として発行したものである。

昭和61年度 スローガン 「商工会議所 若さがつくる新時代」

- (1)組織の拡充・強化を図るために「ブロック別運営研究会」「第6回全国大会」「県別青年部連絡会」を開催し、(2)研修・研究活動として青年部指導者、青年経営者の資質向上、会員相互の親睦と連携を図るため「第4回中央研修会」を開催した。さらに、(3)広報活動として各地青年部間の情報交換を促し、青年部活動の活発化を図るため、機関紙「翔生」の発行、日本商工会議所発行の「会議所ニュース」「石垣」の活用、青年部運営活動状況調査の実施などの事業を展開した。
- 機会あるごとに青年部設置の呼びかけを行った結果、61年度に新しく青年部を設置した商工会議所は23カ所を数え、全体で276青年部（部員数約1万9千人）となった。また、商青連への新規加入青年部は22青年部で、年度末には183会員青年部となった。
- 61年2月に発行された「商青連だより」をきっかけに、青年部相互の情報交換を活発にするとともに商青連活動の浸透を図るため、機関紙「翔生」（タブロイド判・4ページ、発行部数1万5,000部）を9月に創刊、第2号を62年2月に発行した。
- 青年部の部員相互の連帯と意識の高揚を図るとともに青年部活動を広くPRすることを目的に「商工会議所青年部の歌」（伸びゆく大地）を製作した。
- 62年度から商青連役員の呼称変更と増員を行い、また委員会を発足させるため、61年2月の第6回会員総会で58年の商青連設立以来初めて規約を改正した。このうち、商青連役員については、商青連活動が草創期から充実期を迎えたことにより、連合会組織としての運営体制を整備・拡充するため、役員呼称を従来の「代表幹事」「副代表幹事」「幹事」から「会長」「副会長」「理事」に改めるとともに、役員数を「40名以内」に増員したものである。また、委員会については、これまでの商青連役員で構成する3つの担当別会議を発展的に解消し、「委員会細則」に基づいて、「総務」「組織強化」「研修」「広報」の4委員会を新たに発足させ、役員会への上程議案を委員会で事前に検討する仕組みを強化し、役員会の機能を充実させるのが目的である。

昭和62年度 スローガン 「翔こう商青連 創ろう日本の未来」

- (1)組織の拡充・強化を図るために「ブロック別運営研究会・会長会議」「第7回全国大会」「県別青年部連絡会」を開催するとともに、(2)研修・研究活動として青年部指導者、青年経営者の資質向上、会員相互の親睦と連携を図るために「第5回中央研修会」を開催した。さらに、(3)広報活動として各地青年部間の情報交換を促し、青年部活動の活発化を図るために機関紙「翔生」（第3、4号）の発行、日本商工会議所発行の「会議所ニュース」「石垣」を活用してのPR、「青年部広報担当者研修会」の開催、青年部運営活動状況調査の実施などの事業を展開した。また、商青連が設立から5年目を迎えたのを記念してアメリカ・カナダに研修視察団を派遣した。
- 機会あるごとに青年部設置の呼びかけを行った結果、62年度に新しく青年部を設置した商工会議所は25カ所を数え、全体で301青年部（部員数約2万1千人）となった。また、商青連への新規加入青年部は24青年部で、年度末には207会員青年部となった。

- 商青連の組織強化の一環として、各地青年部の呼称を「〇〇商工会議所青年部」、役員呼称を商青連にならって「会長」「副会長」「理事」「監事」に統一化することになった。
- 青年部相互の情報交換を活発にするとともに商青連活動の浸透を図るため、61年度に創刊された機関紙「翔生」（タブロイド判・8ページ、発行部数1万6,000部）の第3号を10月に、第4号を63年3月に発行した。また、青年部の広報活動のあり方と実務を学ぶために「青年部広報担当者研修会」を10月6日から2日間にわたって静岡県熱海市で開催した（参加者：32人）。
- 62年度から商青連の役員呼称を従来の「代表幹事」「副代表幹事」「幹事」から「会長」「副会長」「理事」に改めるとともに、「委員会細則」に基づいて「総務」「組織強化」「研修」「広報」の4委員会を新たに発足させた。また、役員選出方法を明確にするために「役員候補者選出に当たっての申し合わせ」を規定した。
- 商青連設立から5年目を迎えたのを記念して、6月4日から15日までの12日間にわたって、アメリカ、カナダに研修視察団を派遣した。参加者数は総勢60人。製造・建設業グループと流通・サービス業グループの各2班ずつ、計4班の班編成を組み、サンフランシスコ、ニュー

昭和  
63年度

## スローガン 「創ろう ふるさと 21世紀への礎」

ヨーク、ワシントン、ラスベガス、ロサンゼルス各都市を訪問した。

- (1)組織の拡充・強化を図るために「ブロック別運営研究会・会長会議」「第8回全国大会」「県別青年部連絡会」「商青連未加入・青年部未設置商工会議所との懇談会」「組織強化に関するアンケート調査」等を実施するとともに、(2)研修・研究活動としては「優良企業・トレンド企業視察セミナー」「第6回中央研修会」を開催した。また、広報活動として機関紙「翔生」の発行、日本商工会議所発行の「会議所ニュース」「石垣」を活用してのPR、青年部運営活動調査などの事業を展開した。さらに5周年の記念事業として商青連役員・顧問経験者に対する功労者表彰をはじめ懸賞論文の募集、会報コンクール、商工会議所青年部の「綱領」「指針」の策定（「これからの青年部への提言」のとりまとめ）、5周年記念誌「明日への挑戦」の発行などを行った。○機会あるごとに青年部設置の呼びかけを行った結果、63年度に青年部を新設した商工会議所は9ヶ所で、全体で308青年部（部員数約2万2千人）となった。また、商青連に新規加入したのは17青年部（2連合会）で、会員は224青年部、特別会員は14連合会となった。
- 11月に開催した第8回全国大会（山口大会）は、これまでと違って2日間の日程で実施、初日に懇談会（懇親会）を、2日目に式典と記念講演を行った。今回の登録者数は大会史上初の2千人の大台を越え、2,150人となった。
- 8月に、商いの町、大阪で優良企業、トレンド企業視察セミナーを開催。大阪ミナミ地区をはじめ、健康の森アーバンリゾートクラブ等の視察を行った。（参加者46人）また、2月には（財）日本青年館で、商青連役員と会員青年部の代表者等を対象に第6回中央研修会を2日間にわたって開催、214人が参加した。この研修会の席上で、創立5周年を記念して実施した「懸賞論文の募集」及び「会報コンクール」の入賞作（懸賞論文の部：3人、会報コンクールの部：8青年部・1県連）に対する表彰式が行われた。
- 商青連活動の浸透を図るとともに、青年部相互の情報交換を深めることを目的に、機関紙「翔生」（タブロイド判8ページ、発行部数1万7,000部）を11月に5号、元年3月に6号を発行し

た。

- 商青連役員を選出に関し、役員定数を36人から38人に2人増員（東北・関東ブロック各1人）した。さらに会長選出ブロックでは理事の数が少なくなり、各理事にかかる負担が大きくなることから、「会長選出ブロックの役員数は、当該年度に限って1人増員する」ことになった。この結果、役員定数は39人となった。
- 商青連創立5周年を記念し、商青連会員青年部を対象に「これからの青年部を考える」に関するアンケート調査を行い、寄せられた意見、要望を参考にしながら、「これからの青年部への提言」としてとりまとめるとともに、その内容を青年部活動の拠り所ともいえるべき「綱領」と「指針」に集約した。この内容は5周年記念誌「明日への挑戦」（B5判、96ページ）に掲載し、第6回中央研修会の資料として活用するとともに会員、特別会員に配布した。

平成  
元年度

### スローガン 「**広げよう友情の輪 創ろう新時代の日本**」

- (1)組織の拡充・強化を図るために「ブロック別運営研究会・会長会議」「第9回全国大会」「県別青年部連絡会」「商青連未加入・青年部未設置商工会議所との懇談会」等を開催するとともに、
- (2)研修・研究活動としては「企業視察研修セミナー」「第7回中央研修会」を開催した。また、広報活動として機関紙「翔生」の発行、日本商工会議所発行の「会議所ニュース」「石垣」を活用しての青年部活動のPR、青年部運営活動状況調査などの事業を展開した。
- 機会あるごとに青年部設置の呼びかけを行った結果、元年度に青年部を新設した商工会議所は21ヶ所で、全体で329青年部となった。また、商青連に新規加入したのは21青年部（9連合会）で、会員は245青年部・特別会員は23連合会となった。
- 全国9ヶ所で開催したブロック別運営研究会では、ブロック内の青年部が地域の枠を超えた相互交流の輪をさらに広げるとともに「商工会議所活動に果たす青年部の役割」を元年度の統一テーマに掲げ、企業と地域の後継者として何を目標に、どのように互いに研鑽していくかについての意見交換が行われた。また11月には高知市で全国から1,691名の参加を得て第9回全国大会を開催した。
- 研修事業として、横浜及び東京において企業視察研修セミナーを2日間にわたって開催。
- ショッピングセンター・マイカル本牧、日本航空トレーニングセンター等の視察を行った（参加者91人）。また、第7回中央研修会を東京（東京商工会議所ビル）において2日間開催（参加者188人）した。
- 商青連活動の浸透を図るとともに、青年部相互の情報交換を深めることを目的に、機関紙「翔生」（タブロイド判8ページ、1・8面カラー、発行部数4万部）の7号、8号を発行した。

平成  
2年度

### スローガン 「**翔け世界へ 新時代の開拓者**」

- (1)組織の拡充・強化を図るため「ブロック別研究会、会長会議」「第10回全国大会」「県別青年部連絡会」を開催するとともに(2)研修・研究活動として「東南アジア経済視察団の派遣」「第8回中央研修会」を開催した。また、広報活動として機関紙「翔生」の発行、日本商工会議所発行

の「会議所ニュース」「石垣」を活用しての青年部活動のPR、青年部運営活動状況調査などの事業を展開した。

さらに特別事業として、青年部のCI（Corporate Identity）の導入を検討し、シンボルロゴマーク“YEG”（簡略名称）を設定した。

○機会あるごとに青年部設置の呼びかけを行った結果、2年度に青年部を新設した商工会議所は、12ヶ所で、全体で343青年部となった。また商青連に新規加入したのは20青年部（1連合会）で、会員は265青年部、特別会員は24連合会となった。

○ブロック別運営研究会は、「いま一度語ろう青年部」が分科会統一テーマに掲げ、全国9ヶ所で開催した。また、こうしたブロックごとの成果を集大成する場として、11月に静岡県浜松市で全国から2,600名の参加を得て第10回全国大会を開催した。

○7月4日から12日までの9日間、43名の団員からなる「東南アジア経済視察団」を東南アジア4ヶ所（タイ、シンガポール、インドネシア、マレーシア）に派遣した。

○商青連機関紙「翔生」（タブロイド判8ページ、1・8面カラー、発行部数2万部）の9号（11月）、10号（3年3月）を発行し、会員・特別会員に配布するとともに青年部未設置商工会議所にも青年部設立のための資料として配布した。

○青年部のアイデンティティを確立するために青年部のCIの導入を検討した結果、青年部のシンボルロゴマークや略称“YEG”を設立した。



①シンボルロゴマーク

各地商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でシンプルな馴染みやすいデザインとした。

②略称

「YEG」（若き企業家集団）

商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneurs Group）の頭文字をとったもので、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、情熱、広い視野を持った経営者＝Youth, Energy, Generalist）を表している。

③ロゴ英文表示

ア. ○○商工会議所青年部（単会）

Young Entrepreneurs Group of the ○○ Chamber of Commerce and Industry

イ. ○○県〔都道府県〕商工会議所青年部連合会〔連絡協議会〕（県連）

平成  
3年度

スローガン 「時代を先駆ける賢明なるYEGたらん」

若き企業家集団

The Federation of Young Entrepreneurs Groups of the Chambers of Commerce and Industry of ○○ Prefecture

(1)組織の拡充・強化を図るために「ブロック別運営研究会・会長会議」「第11回全国大会」「県別青年部連絡会」を開催するとともに(2)研修・研究活動としては「優良企業・トレンド企業視察セミナー」「第9回中央研修会」を開催した。また広報活動として機関紙「翔生」の発行、日本商

工会議所発行の「会議所ニュース」「石垣」を活用しての青年部活動のPR、青年部運営活動状況調査などの事業を展開した。さらに、特別事業として、平成4年度に設立10周年を迎える商青連の記念事業の企画・立案を行い、国際化をテーマとして在日外国人等の交流会を実施することなどが決定された。

○機会あるごとに青年部設置の呼びかけを行った結果、3年度に青年部を新設した商工会議所は17ヶ所で、全体で359青年部となった。また、商青連に新規加入したのは16青年部3連合会で、会員は281青年部、特別会員は27連合会となった。

○ブロック別運営研究会は「Y E G S P I R I T S」を分科会統一テーマに掲げ、全国9ヶ所で開催した。また11月に島根県松江市で全国から約2,300名の参加を得て第11回全国大会を開催した。

○研修事業として、日本の商いの原点である近江商人の足跡と経営手法を学ぶとともに、先端企業等を視察することを目的に「優良企業・トレンド企業視察セミナー」を京都と滋賀において開催した。(参加者53人)

○商青連活動の浸透を図るとともに、青年部相互の情報交換を深めることを目的に、機関紙「翔生」(タブロイド判8ページ、1・8面カラー、発行部数2万1千部)の11号、12号を発行した。

○平成4年度が商青連設立10年に当たることから、新しい世紀へ向けて、商青連や各地青年部の方向性を定めるための記念事業の企画・立案を行った結果、国際化をメインテーマとして、次のような記念事業を実施することが決定された。

- ①欧州視察研修
- ②全国大会における在日海外経済人等との交流会
- ③設立10年記念誌作成

## 平成4年度 スローガン 「地域におこせ新しい風・熱い風」

- ④青年部会報コンクール
- ⑤設立10年記念功労者表彰

(1)商青連設立10年を記念して、①欧州視察研修、②全国大会に併せての「地球討論会」、③商青連功労者表彰、④青年部会報コンクール、⑤商青連の中長期ビジョン等を盛り込んだ記念誌の発行などの諸事業を実施した。

(2)第12回全国大会(商青連設立10年記念大会)が約2,400人の出席者を得て山形市で開催された。その際、青年部活動のあり方を簡潔に表した山形宣言が発表された。

(3)第10回中央研修会が富山市で開催され、過去最多の約540名の青年部関係者が出席し、分科会討議を中心に研修を実施した。

(4)ブロック別運営研究会は「地域に根ざせY E G」を分科会統一テーマに掲げ、全国9ヶ所で開催された。

(5)広報活動の強化のため、従来の機関紙「翔生」の発行、日本商工会議所発行の「会議所ニュース」「石垣」を活用しての青年部活動のPRに加えて、各地青年部活動事例をFAXで紹介する「商青連情報パック」を新たに発行した。

平成  
5年度

スローガン

「**変革の時 今－Y E Gが未来を築く**」

## 1. 組織の拡充・強化

商青連と各地青年部相互のネットワークの強化や組織の活性化を図るため、機会あるごとに青年部の設置ならびに商青連への加入の呼びかけを行い、ブロック別会長会議等において青年部および商青連の活動状況等について説明、意見交換した。この結果、5年度に青年部を新設した商工会議所は14ヶ所で、全体で388青年部となった。また、商青連に新規加入したのは20青年部・5連合会で、会員は325青年部、特別会員は35県連となった。

## 2. 組織改革の検討

平成4年度に策定した中長期ビジョンに基づく活動の一つとして、商青連組織の見直しを行い、平成7年度からは副会長の定数見直しと役割の明確化、ブロック代表理事の新設と各地青年部への支援体制の強化などが図られることになった。

## 3. 研修会・研究会の開催

「商青連経営者セミナー（Y E Gセミナー）」を7月に東京で開催し、約170名が参加した。また、第11回中央研修会を2月に神奈川県小田原市で開催し、556名が参加した。

さらに、ブロック別運営研究会は「〇〇発 Y E G スピリッツ」を分科会統一テーマに掲げ、全国9ヶ所で開催した。

## 4. 広報活動の推進と情報ネットワークの活用

機関紙「翔生」の年2回発行および翔生の号外として、各地青年部の活動事例をPRする「情報パック」の発行を行った。また、日商発行の「会議所ニュース」「石垣」に投稿し、商青連活動および青年部活動をPRした。さらに、各地青年部の広報活動を支援するため、会報コンクールを実施した。

## 5. 主要会議・交流会の開催

会員総会（年2回、11月・2月）および役員会（年8回）、委員会等定例の主要会議を開催したほか、臨時の委員会等を随時開催した。

また、都道府県内・ブロック内の情報・意見交換や連携強化を図るため、ブロック別商工会議所青年部会長会議等に対する、経費補助制度の利用を勧奨した。

さらに、11月に三重県津市で全国から約3,200名の青年部代表の参加を得て第13回全国大会を開催した。

## 6. その他

7月の北海道南西沖地震の被害に対して、義援金を寄贈するとともに、各地青年部へ義援

平成  
6年度

スローガン

「**明日への創造 地域に挑むY E G**」

金募集への協力要請を行った。また、長引く雲仙普賢岳の噴火により大きな被害を受けている長崎県島原地区の被災地視察を行った。

## 1. 組織の拡充と強化



商青連のネットワークを一層充実させ結束をより強固なものとするよう、機会あるごとに青年部の設置ならびに商青連への加入を呼びかけたほか、県連の設置促進にも努めた。この結果、6年度に青年部を新設した商工会議所は9ヶ所で全体で397青年部、また新設連合会は5ヶ所で全体で43連合会となった。商青連に新規加入したのは15青年部・4連合会で、会員は340青年部、特別会員は39連合会となった。

また、商青連組織の見直しに伴い、7年度からスタートする新組織体制について周知を図るとともに、諸規定の整備を行い「商青連規程集」を作成した。

さらに、各都道府県商工会議所青年部連合会の活動状況調査を実施し、各地における県連活動の一層の充実を図った。

## 2. 研修・研究活動の充実

「ブロック別運営研究会」の名称を「ブロック大会」に改め、各ブロック商工会議所連合会との連携とブロック内青年部同士の結束の一層の強化を図った。ブロック大会の分科会統一テーマは「おこそう行動 Y E G」とした。

「商青連経営者セミナー（Y E Gセミナー）」を7月に東京で開催し、約180名が参加した。また、第12回中央研修会を2月に京都府京都市で開催し、約1,000名が参加した。

## 3. 広報活動と情報交換の推進

機関紙「翔生」の年2回発行および翔生の号外として「情報パック」の発行を行った。また、日商発行の「会議所ニュース」「石垣」に投稿し、商青連活動および青年部活動をPRした。さらに、各地青年部の広報活動を支援するため、会報コンクールを実施した。

## 4. 主要会議・交流会の開催

会員総会（年2回）および役員会（年9回）、委員会等定例の主要会議のほか、臨時の委員会等を随時開催した。

また、11月に長崎県長崎市で全国の青年部員約3,000名の参加を得て第14回全国大会を開催し、Y E Gの全国ネットワークを活用したビジネス交流プラザ等を実施した。

さらに、行政との交流を深めるため、12月に米国大使館との懇親会、1月に国土庁等の担当官との「連携懇談会」をそれぞれ開催した。

## 5. その他

12月の三陸はるか沖地震と、1月の阪神・淡路大震災の被害に対し、日本商工会議所と連

平成  
7年度

## スローガン 「研げ感性、広げよフィールド」 Y E G連携時代

携をとりつつ、各地青年部に呼びかけ義援金の募金活動を行ったほか、日本赤十字社の行っている献血運動に対する積極的な協力を呼びかけた。

### 1. Y E G連携事業の提唱と取り組み

全国に広がる青年部のネットワークを踏まえ、地域の枠を越えた大きな視点からの産業育成あるいは地域活性化を推進するため「Y E G連携事業」を提唱した。ブロック大会、全国大会など機会あるごとに地域連携の必要性を訴えるとともに、各地青年部における地域連携事業を支援するため、各地青年部の概要をまとめた「地域資源表」を作成し配布した。

また、中央研修会において国土庁の「地域連携軸構想」について講話を聴くとともに、各地

青年部の地域連携事業についての事例発表などを行った。

## 2. 組織の拡充と強化

副会長の地区担当制、ブロック代表理事の新設および研修委員会の拡充等新組織体制をスタートさせた。

また、正副会長、専務理事等が各地青年部および県連を訪問し、商青連との緊密化を図るとともに、機会あるごとに青年部の設置ならびに商青連への加入を呼びかけたところ、7年度に青年部を新設した商工会議所は11ヶ所で、全体で408青年部となり、商青連に新規加入したのは13青年部・1連合会で、会員は353青年部、特別会員は40連合会となった。

## 3. 研修会の充実で資質向上を支援

全国9ブロックでブロック大会を開催した。

また、第13回中央研修会を2月に和歌山県新宮市で開催し、約800名の参加者が地域連携等について活発な議論を行った。

海外研修事業（「石垣」創刊15周年記念協賛）として、6月に23名の視察研修団を米国に派遣した。9月～11月には企業後継者研修として稲葉日商会頭の命名による「翔生塾」を東京および商工会議所福利研修センター「カリアック」（浜松）で全3回にわたり実施した。稲葉会頭、塚本京都商工会議所名誉会頭など一流の講師陣を招き小人数（25名）の寺小屋形式により行われた。

## 4. 広報活動の展開と情報交換の推進

機関紙「翔生」の年2回発行および翔生の号外として「情報パック」の発行を行った。また、日商発行の「会議所ニュース」「石垣」に投稿し、商青連活動および青年部活動をPRした。さらに、各地青年部の広報活動を支援するため、会報コンクールを実施した。

## 5. 定例主要会議・全国大会の開催

会員総会（年2回）および役員会（年9回）、委員会等定例の主要会議のほか、臨時の委員会等を随時開催した。

また、11月に埼玉県大宮市で全国の青年部員約3,900名の参加を得て第15回全国大会を開催

平成  
8年度

## スローガン 「人が接点 地域が原点 今、広げようYEG連携」

し、YEGの全国ネットワークを活用したビジネス交流プラザ、全国まちおこし物産展等を実施した。

### 1. YEG連携事業の提唱

7年度に引き続き各地のYEGが地域や単会の枠を越えて連携事業に取り組むよう提唱した。ブロック大会、全国大会など機会あるごとに地域連携の必要性を訴えるとともに、各地青年部における地域連携事業への取り組みを支援した。

特に、特別委員会ではYEG連携を中心テーマとし「YEG連携事業」等に関するアンケートを実施し、報告書を取りまとめるとともに、全国会長研修会において連携事業の事例発表等を行った。また、特別委員会では委員会活動への参加者を各地青年部に公募し、9人の公募委員が活動に参加した。

また、8年7月に関東ブロック商工会議所青年部連合会が設立、ブロック連合会の設立は、昭和61年9月の東北六県商工会議所青年部連合会に続いて2つ目となった。

## 2. 商青連の組織運営の強化

商青連の全国ネットワークを一層充実させ結束をより強固なものとするよう、ブロック会長会議等において青年部および商青連の活動状況等について説明、意見交換したほか、機会を捉えては青年部の設置ならびに商青連への加入を呼びかけるなど組織運営の強化に努めた。この結果、8年度に青年部を設置した商工会議所は8ヶ所で、全体で416青年部となり、商青連に新規加入したのは12青年部1連合会で、会員は365青年部、特別会員は41連合会となった。

## 3. 研修活動の充実と各地青年部活動の支援

全国9ブロックで青年部ブロック大会を開催した。

第14回全国会長研修会（7年度までは中央研修会。8年度より名称変更）が約600名の参加者により2月に北海道岩見沢市で開催され、連携事業の事例発表等を行った。

6月には竹村健一氏等を講師に商青連経営者セミナー（Y E Gセミナー）を開催し、約150名が参加した。

7月～8月には企業後継者研修「翔生塾」を東京および商工会議所福利研修センター「キャリアック」（浜松）において、全2回にわたり開催し、22名が参加した。講師陣には稲葉日商會頭、西川名古屋商工会議所副会頭など9名を招いた。

## 4. 広報活動の展開と情報交換の推進

機関紙「翔生」を年2回発行した。また、日商発行の「会議所ニュース」「石垣」に投稿し、商青連活動および青年部活動をPRした。さらに、各地青年部の広報活動を支援するため、会報コンクールを実施した。

## 5. 定例主要会議・全国大会の開催

会員総会（年2回）および役員会（年9回）、委員会等定例の主要会議のほか、必要に応じて臨時の委員会等を随時開催した。全国大会、全国会長研修会の開催地選定を円滑に行うため、各地区における選考方法の検討並びに関連する諸規程の整備を行った。

また、11月に奈良県奈良市において全国の青年部員約2,800名の参加を得て、第16回全国大会を開催し、ビジネス交流プラザ、インターネットの商用利用、ホームページの開設等を実施した。さらに、全国大会の様子はインターネットを通じて全国に同時中継された。

平成  
9年度スローガン 「直接交流・直接実感」連携そして共生へ YEG新たな<sup>たびだち</sup>出発

## 1. YEG連携事業の促進

商青連では、全国に広がるYEGネットワークを踏まえ、地域の枠を越えた大きな視点からの産業育成あるいは地域活性化を推進するため、7、8年度に続き各地のYEGが地域や単会の枠を越えて連携事業に取り組むよう提唱した。ブロック大会、全国大会など機会あるごとに地域連携の必要性を訴えるとともに、各地青年部における地域連携事業への取り組みを支援した。

特に、9年度は特別委員会のもとに5つの小委員会（商業、製造業、建設・不動産業、情報サービス業、地域連携）を設置し、同業種のアントレプレナーとしての連携に取り組んだ。本小委員会には公募による33名の専門委員が参加し、小委員会ごとに関係所轄官庁の訪問、商店街等現地視察、アンケート調査の実施など、各業界の現状と今後の課題、連携事例等について調査・研究し、その結果を報告書にとりまとめるとともに、全国会長研修会において活動報告を行った。

## 2. 商青連の組織運営の強化

商青連とブロック商工会議所青年部連合会、都道府県商工会議所青年部連合会、各青年部とのネットワークを一層充実させ結束をより強固なものとするよう、ブロック会長会議等において青年部および商青連の活動状況等について説明、意見交換したほか、機会を捉えては青年部の設置ならびに商青連への加入を呼びかけるなど、商青連の組織運営の強化に努めた。

この結果、9年度には青年部を設置した商工会議所は8ヶ所で、全体で424青年部となり、商青連に新規加入したのは9青年部で、会員は374青年部（特別会員41連合会）となった。

## 3. 研修活動の充実と各地青年部活動の支援

9月から10月にかけて全国9ブロックで青年部ブロック大会を開催し、各ブロック商工会議所連合会との連携とブロック内青年部の交流促進、情報交換、結束の一層の強化等を図った。10年2月には静岡県掛川市で、過去最高の237青年部、718名の参加により「第15回全国会長研修会」を開催した。同研修会では、榛村掛川市長の記念講演をはじめ、経営戦略、リーダー論、環境問題、情報化社会、まちづくり等をテーマとする分科会などが行われ、講師を交えた活発な議論を通じて、地域を担うリーダーとしての資質向上、意識の高揚を図った。

また、9年度新たな研修事業として、青年経済人としての資質向上を図るとともに、研修を通じたYEGネットワークの拡大と、商青連活動への一層の理解を深めることを目的に、「YEGヤングリーダー研修」を開催した。本研修会は、稲葉日商会頭、加藤(株)加ト吉会長、政治評論家の森田実氏等による講演、パソコン実習による経営診断、パネルディスカッションなど多彩な内容で、約300名の参加を得て、6月～11月に3回（東京、大阪、徳島）に亘り実施した。

さらに、8月には企業後継者研修「翔生塾」を商工会議所福利研修センター「カリアック」（浜松）において実施した。翔生塾は企業経営者・後継者の育成、資質向上を目的とし、少人数の寺子屋形式を特長とするもので、9年度は岡本(株)丸八真綿会長をはじめとする著名講師陣6名を招いて26名の参加により実施した。

#### 4. 広報活動と情報交換の推進

青年部活動の浸透をはかるとともに、青年部相互の情報交換を深めることを目的に機関紙「翔生」を年2回（8月、3月）発行し、会員・特別会員に配布したほか、青年部未設置商工会議所へも青年部設置のための資料として配布した。また、日本商工会議所で発行している「会議所ニュース」および「石垣」に投稿し、商青連活動および青年部活動について積極的にPRした。

#### 5. 定例主要会議・全国大会の開催

商青連の円滑な運営と各地青年部の交流を促進するため、会員総数（11月・2月）および役員会（7回）、委員会等定例の主要会議を開催したほか、必要に応じて臨時の委員会等を随時開催した。

また、全国9ブロックで開催されたブロック大会の成果を集大成し、さらなる飛躍の場として、11月に徳島市において、全国から310青年部、2,650名の参加を得て、「第17回全国大会」を開催した。今回の全国大会では、地元徳島を代表する企業4社について、その企業経営・戦略をテーマとした講演・セミナーおよび視察会を開催するとともに、同業種の連携を支援する業種別分科会、ビジネスチャンスの場を提供するビジネス交流プラザ等の事業を展開した。

#### 6. その他

9年度は商青連設立15周年に当たることから、記念誌特別委員会を設置し、商青連設立15年記念誌「YEG新たな<sup>たびだち</sup>出発」を刊行した。同誌においては、これまでの商青連活動のあゆみを紹介した他、歴代商青連会長による座談会、今後の青年部のあり方についての中長期ビジョン等を掲載した。

また、6月に自民党商工部会所属の国会議員と商青連役員との懇談会が行われ、税制や労働問題等、多岐にわたり活発な意見交換がなされた。さらに11月には韓国の済州島で開催されたアジア商工会議所連合会理事会に、商青連から会長、副会長、専務理事4名が参加し、日本における商工会議所青年部の活動状況を各国に報告した。



### 商青連20周年に寄せて

平成9年度専務理事 木川 総一郎（松戸YEG）

専務理事在任中は、全国各地のYEG諸氏にお世話になり深く感謝申し上げます。

商青連も設立20年を経過し、様々な組織改革、新事業への取り組みがなされ今日に至っています。これらは、各単会、県連との連絡調整に止まらず、次の可能性を見出そうとする先輩諸氏の努力であったと思います。そしてこの間、経済環境は大きく変わりました。各企業は現状の厳しさの中で、懸命な努力を続けています。各会議所及びYEGも、経営情報、企業経営研究、行政への提言といった企業人としての実質的なメリットをより強く求めるようになってきました。このための例会、講演会が運営の中心となっています。

こうした中、商青連は全国組織として、質の高いセミナー、講演会の企画をより充実すべきでしょう。また日商の主張、政策に沿った形での提言を、青年経済人の立場で訴えるべきです。これらはまた単年度制ではあっても、全国3万人の会員に対し、参加者に戸惑いがないように複数年継続的に行う必要があります。YEG活動がより以上に参加するメンバーにとって価値あるものであることを願ってやみません。

平成  
10年度

スローガン

「果敢に行動 リンクして感動 YEGネットワーク」

## 1. YEG連携事業の促進

各地YEGが地域や単会の枠を超えて連携そして共生し、地域活性化を図るために、平成7年度から続くYEG連携事業の促進に引き続き取り組んだ。

特別委員会のもとに7つの小委員会（地域連携、商業連携、製造業連携、情報連携、サービス連携、菓子製造業連携、建設・不動産）を設置、公募により44名の専門委員が参加した。小委員会ごとに中央官庁訪問、商店街視察、特別委員会ホームページの立ち上げ、ビジネス交流プラザへの出展などの活動を通じて、連携事業の促進に取り組んだ。また「YEG連携大賞」を実施し、地域連携事業のモデルと言うべき事業を表彰した。

## 2. 商青連の組織運営の強化

商青連とブロック商工会議所青年部連合会、都道府県商工会議所青年部連合会、各青年部とのネットワークを一層充実させ、結束をより強固なものにするよう、ブロック会長会議等において青年部および商青連の活動状況等について説明、意見交換したほか、機会を捉えては青年部の設置ならびに商青連への加入を呼びかけるなど、商青連の組織運営に努めた。

この結果、10年度に青年部を設置した商工会議所は7ヶ所で、全体で431青年部となり、商青連に新規加入したのは8青年部で、会員は381青年部（特別会員41連合会）となった。

## 3. 研修活動の充実と各地青年部活動の支援

6月から10月にかけて全国9ブロックで青年部ブロック大会を開催し、各ブロック商工会議所青年部連合会との連携とブロック内青年部の交流促進、情報交換、結束の一層の強化等を行った。

11年2月には愛媛県今治市で、過去最高の240青年部、807名の参加者により「第16回全国会長研修会」を開催した。同研修会では、水野晴男氏と西田和晃氏による記念講演をはじめ、地域活性化、経営戦略、地場産業、地域文化、情報マルチメディアをテーマとする分科会などを行い、講師を交えた活発な議論を通じて、地域を担うリーダーとしての資質向上、意識高揚を図った。

また、青年経済人としての資質向上を図るとともに、研修を通じたYEGネットワークの拡大と、商青連活動への一層の理解を深めることを目的に9年度に引き続き「YEGヤングリーダー研修」を開催した。本研修会は、堀場雅夫（株）堀場製作所取締役会長、高原慶一朗ユニ・チャーム（株）代表取締役社長をはじめ、各界で活躍される方々の講演を中心に、京都（6月）および千葉県幕張（7月）で361名の参加を得て実施した。

さらに、10年8月には、静岡県浜松市で企業後継者研修「翔生塾」を商工会議所福利研修センター（浜松）において開催した。翔生塾は企業経営者・後継者の育成、資質向上を目的とし、少人数の寺小屋形式を特長とするもので、10年度は「勝ち残る経営者の戦略と実践」を中心テーマに野末陳平氏等の講師を迎え、40名の参加を得て実施した。

## 4. 広報活動と情報交換の推進

青年部活動の浸透を図るとともに、青年部相互の情報交換を深めることを目的に機関紙「翔生」を年2回（8月、3月）発行し、会員・特別会員に配布した。また、インターネット普及にあわせ、商青連の事業予定や役員会等議事録、各地青年部ホームページへのリンク、意見交換のための伝言板等を盛り込んだ商青連ホームページを開設した。さらには、日本商工会議所で発行している「会議所ニュース」および「石垣」において、商青連活動および青年部活動について積極的にPRした。

この他、会報誌（紙）の部、ホームページの部からなる広報コンクールを実施し、それぞれ優秀な青年部を表彰した。

## 5. 定例主要会議・全国大会の開催

商青連の円滑な運営と各地青年部の交流を促進するため、会員総会（11月・2月）および役員会（7回）、委員会等定例の主要会議を開催したほか、必要に応じて臨時の委員会等を随時開催した。

また、全国9ブロックで開催されたブロック大会の成果を集大成し、さらなる飛躍の場として、11月に青森市において、全国から317青年部、2,963名の参加を得て、「第18回全国大会・青森大会」を開催した。今回の全国大会では、石原慎太郎氏の記念講演をはじめ、「共生のカタチ、共感の青い森」をテーマとした当地青森の文化・産業を探求する分科会や、ビジネスチャンスの場を提供するビジネス交流プラザやYEG全国まちおこし物産展等の事業を展開した。

## 6. その他

10月にインドのムンバイで開催されたアジア商工会議所連合会総会に、商青連から副会長、専務理事等3名が出席し、日本における商工会議所青年部の活動状況を各国に報告した。



### 知り合った全てのメンバーに感謝

平成10年度専務理事 東浦 右智（半田YEG）

全ては吉本会長から専務理事に指名されたことから始まった。商青連20年の歴史の中で私の存在は、海の中から人を一人探し出すに等しい程だと実感するが、一個人としては実に意義のある1年を過ごしたと確信します。ヤングリーダー研修講師の堀場雅夫会長と北村陽次郎社長との出会い。妻と子供を連れて参加した九州・那覇大会。解禁日に食した絶品の雲丹の中国・萩大会。台風で水没した水戸プラザホテルの復旧作業に頑張った関東・水戸大会。大いに飲み明かした北海道・網走大会。女性会員が貢献してくれた北陸信越・須坂大会。全国大会の誘致を目指し一丸となった東海・豊田大会。分科会に積極的に参加された橋本大二郎県知事を有する四国・須崎大会。個性的な会長が多く活力のある東北・北上大会。旬のYEGの集まりの近畿・鯖江大会。三度訪問しお世話になった全国大会開催地青森。締めくくりの全国会長研修会開催の今治。知り合った全てのメンバーに感謝。

平成  
11年度

## スローガン 「アントレプレナーズスピリッツ 今起こそう、経済維新の風」

## 1. YEG連携事業の促進

各地YEGが地域や単会の枠を超えて連携そして共生し、地域の活性化を図るために、平成7年度から続くYEG連携事業の促進に引き続き取り組んだ。

特別委員会であるアントレプレナーズ委員会のもとに5つの小委員会（地域連携小委員会、ニュービジネス小委員会、環境問題小委員会、中心市街地小委員会、もの作り小委員会）を設置、公募により69名の専門委員が参加した。小委員会ごとに中央官庁訪問、商店街視察、ビジネス交流プラザの企画運営などの活動を通じて、連携事業の促進に取り組んだ。

## 2. 研修活動の充実と各地青年部活動の支援

7月から10月にかけて全国9ブロックで開催した青年部ブロック大会において、各ブロック商工会議所青年部連合会との連携とブロック内青年部の交流促進、情報交換、結束の一層の強化等を図った。加えて各ブロック大会において、青年経済人としての資質向上を図るとともに、研修を通じたYEGネットワークの拡大と、商青連活動への一層の理解を深めることを目的に「YEGヤングリーダー研修」を開催した。またこれらの研修の集大成として、11月に開催した「第19回全国大会・新潟大会」において同研修会を開催し、古泉肇亀田製菓株式会社社長をはじめとし、「即実践こそアントレプレナー」をテーマとしてパネルディスカッションを行い、300名の参加を得た。

12年2月には岩手県花巻市で、256青年部、952名（過去最高）の参加者により「第17回全国会長研修会」を開催した。同研修会では、増田寛也岩手県知事による記念講演をはじめ、地域活性化、経営戦略、地場産業、地域文化、情報マルチメディアをテーマとする分科会などを行い、講師を交えた活発な議論を通じて、地域を担うリーダーとしての資質向上、意識高揚を図った。

さらに、11年6月には、起業家精神、街づくりなどをテーマとして、米国視察研修「翔生塾inアメリカ」を実施した。翔生塾ではシリコンバレーで活躍する起業家の講演・懇談やラスベガスの街づくりについてなどを学び、75名の参加を得た。

## 3. 商青連の組織運営の強化

商青連とブロック商工会議所青年部連合会、都道府県商工会議所青年部連合会、各青年部とのネットワークを一層充実させ、結束をより強固なものにするよう、ブロック会長会議等において青年部および商青連の活動状況等について説明、意見交換したほか、機会を捉えては青年部の設置ならびに商青連への加入を呼びかけるなど、商青連の組織運営に努めた。

この結果、11年度に青年部を設置した商工会議所は2ヶ所で、全体で434青年部となり、商青連に新規加入したのは6青年部で、会員は387青年部（特別会員44連合会）となった。

## 4. 広報活動と情報交換の推進

青年部活動の浸透を図るとともに、青年部相互の情報交換を深めることを目的に機関紙「翔生」を年2回（8月、3月）発行し、会員・特別会員に配布した。

また、10年度に開設した商青連ホームページにおいて、商青連の事業予定や活動状況、役員会等議事録等の情報提供を充実するとともに、各地青年部ホームページへのリンク、意見交換のための伝言板の運営などを実施した。

さらには、日本商工会議所で発行している「会議所ニュース」および「石垣」において、商青連活動および青年部活動について積極的にPRした。

## 5. 定例主要会議・全国大会の開催

商青連の円滑な運営と各地青年部の交流を促進するため、会員総会（11月・2月）および役員会（7回）、委員会等定例の主要会議を開催したほか、必要に応じて臨時の委員会等を随時



開催した。

また、全国9ブロックで開催されたブロック大会の成果を集大成し、さらなる飛躍の場として、11月に新潟市において、全国から388青年部、3,165名の参加を得て、「第19回全国大会・新潟大会」を開催した。今回の全国大会では、田中真紀子氏の記念講演をはじめ、開催地新潟の文化・産業を探求する分科会や、アントレプレナーズ委員会によるビジネスチャンスの場を提供するビジネス交流プラザやYEG全国まちおこし物産展等の事業を展開した。

#### 6. その他

6月に台湾で行われた第4回日台商工団体懇談会に、商青連から会長、理事等12名が出席し、日本における商工会議所青年部の活動状況を報告した。また9月に発生した台湾大地震においては全国YEGから計210万円の義援金を集め、送金した。



#### アントレプレナーズスピリッツ フォーエバー

平成11年度専務理事 野村 忠秀（松山YEG）

私が商青連に関わってまず初めに感じたことは自分の小ささです。全国にはこんなに優秀でこんなに頑張っている人がいるという事実を知り、自分は井の中の蛙で小さな町で緊張感も向上心も無く毎日過ごしていたことに深く反省いたしました。

さらに商青連に深く関わり全国の仲間と交流していくうちに、以前の私と同じ感覚を持った人たちが多くにも気付きました。現状に不満を抱きつつも半ば諦めて平穩に毎日を過ごしている人達です。

そして私の結論は、みんな同じであるということです。前者の優秀な人たちと後者の平凡な人達との間に能力の差はありませんでした。何かのきっかけで歩き出した人と、きっかけ無く毎日を過ごしているだけの差しかそこにはありませんでした。

全国組織である商青連の最大の役目はここにあると思います。一人でも多くの人達が一步を踏み出すためのきっかけを作っていく。全国3万人の会員が現状から一步進みだすことが出来たら、日本が大きく変わる時でもあります。

平成  
12年度

スローガン

## 「地域をむすぶ、時代をつなぐY E G新未来創造宣言!!」

## 1. 研修活動の充実と各地青年部活動の支援

9月から11月にかけて全国9ブロックで開催した青年部ブロック大会において、各ブロック商工会議所青年部連合会との連携とブロック内青年部の交流促進、情報交換、結束の一層の強化等を図った。

青年経済人としての資質向上を図るとともに、研修を通じたY E Gネットワークの拡大と、商青連活動への一層の理解を深めることを目的に「Y E Gヤングリーダー研修」を7月（東京）、11月（鹿児島）に開催、13年2月には愛知県半田市で、272青年部、1,059名（過去最高）の参加者により「第19回全国会長研修会」を開催した。同研修会では、「新未来を担う青年部リーダーの条件」をテーマとした分科会や「21世紀の青年がなすべき役割と情熱をテーマとしたパネルディスカッションなどを行い、講師を交えた活発な議論を通じて、地域を担うリーダーとしての資質向上、意識高揚を図った。

また、7月には、街づくり、流通、環境、福祉などをテーマとして、アメリカ東海岸に視察研修「翔生塾 inアメリカPartⅡ」を実施した。

さらに、各地青年部において行われている特徴的な事業を広く周知し、各単会の活動の参考に資するため「Y E G大賞」を設置し、Y E G大賞7事業ほかを表彰した。

## 2. Y E G連携事業の促進

各地Y E Gが地域や単会の枠を超えて連携そして共生し、地域の活性化を図るために、平成7年度から実施のY E G連携事業の促進に引き続き取り組んだ。

特別委員会であるアントレプレナーズ委員会のもとに4部会（環境部会・地域振興部会・情報化部会・ベンチャービジネス部会）を設置、公募により104名の専門委員が参加した。部会ごとに中央官庁訪問、商店街視察、ビジネス交流プラザの企画運営などの活動を通じて、連携事業の促進に取り組んだ。

## 3. 商青連の組織運営の強化

商青連とブロック商工会議所青年部連合会、都道府県商工会議所青年部連合会、各青年部とのネットワークを一層充実させ、結束をより強固なものにするよう、ブロック会長会議等において青年部および商青連の活動状況等について説明、意見交換したほか、機会を捉えては青年部の設置ならびに商青連への加入を呼びかけるなど、商青連の組織運営に努めた。この結果、12年度に青年部を設置した商工会議所は7ヶ所で、全体で441青年部となり、商青連に新規加入したのは3青年部で、会員は390青年部（特別会員44連合会）となった。

また、商青連が日本商工会議所の内部組織として位置付けられるよう検討を重ねた。（平成13年5月24日、日商定款に内部組織としての位置付けが経済産業大臣より承認された。）

## 4. 広報活動と情報交換の推進

青年部活動の浸透を図るとともに、青年部相互の情報交換を深めることを目的に機関紙「翔生」を年2回（8月、3月）発行した。第30号記念号である3月号は、会員・特別会員のほか、各地商工会議所の議員等にも配布し、商青連活動の普及につとめた。

また、商青連ホームページにおいて、商青連の事業予定や活動状況、役員会等議事録等の情報提供を充実するとともに、各地青年部ホームページへのリンク、意見交換のための伝言板運営などを実施した。

さらには、日本商工会議所で発行している「会議所ニュース」および「石垣」において、商青連活動および青年部活動について積極的にPRした。

## 5. 定例主要会議・全国大会の開催

商青連の円滑な運営と各地青年部の交流を促進するため、会員総会（11月・2月）および役

員会（7回）、委員会等定例の主要会議を開催したほか、必要に応じて臨時の委員会等を随時開催した。

また、全国9ブロックで開催されたブロック大会の成果を集大成し、さらなる飛躍の場として、11月に鹿児島市において、全国から333青年部、3,078名の参加を得て、「第20回全国大会・新潟大会」を開催した。今回の全国大会では、法務大臣 保岡 興治氏の記念講演をはじめ、評論家 田原 総一郎氏による講演会、開催地鹿児島の文化・産業を探求する分科会や、アントレプレナーズ委員会によるビジネスチャンスの場を提供するビジネス交流プラザやYEG全国まちおこし物産展等の事業を展開した。

#### 6. その他

全国大会第20回大会を記念して、青年部会員間のビジネスチャンスの拡大に役立つ全国の青年部会員データ、24,213件を集めたCD-ROMを作成した。



#### さらなる進化に期待

平成12年度専務理事 千葉 富士夫（古川YEG）

本年度、大協会長のもとに商青連設立20周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。早いもので、12年度に専務理事をさせていただいてからもう2年の月日が経ってしまいました。当時を振り返ってみますと、全国各地のYEG会員からの要望により商青連を日商の定款に位置付けようと多くの検討会を開催。さらには、設立以後の商青連活動に対する多大なる日商の評価のもと、日商の定款に位置付けられたこと、歴代会長を始め諸先輩方、さらに会員皆様方のご努力の賜物と感謝致しております。

商青連としての基盤は整いました。21世紀私たちは、わかりやすいYEG活動、魅力あるYEG活動、力強いYEG活動をどんどん外に向けてアピールし、一人一人が、常に目的意識をもって、新たな発想と行動で、私たち商青連が時代に必要とされ、時代をリードできるようにすることを期待しています。

平成  
13年度

スローガン

## 「連携Y E G 実践展開 バーチャルからリアルへ」

## 1. Y E G連携事業の促進

特別委員会としてアントレプレナーズ委員会を設置し、同委員会の中に、ベンチャービジネス、環境ビジネス、IT・インターネット情報ビジネス、ニュービジネス交流、中心市街地活性化、地域振興NPO推進の6つの部会を設け、各テーマの現状と今後の課題について調査・研究し、報告書を取りまとめた。

また、全国の単会から収集した「若手後継者等育成事業」の実績データを提供するなど、各地Y E Gが地域や単会の枠を超えて連携そして共生し、地域の活性化を図るためのY E G連携事業の支援に取り組んだ。

## 2. 研修活動の充実と各地青年部活動の支援

企業経営者・後継者としての資質向上を目的とする研修事業として、10月に京都において、「Y E Gヤングリーダー研修」を実施するとともに、6月には昨年度に引き続き、企業後継者研修「翔生塾 in 韓国」を開催し、ソウル市およびその近郊において、産業視察、日韓青年経済人交流会、経済セミナー、世界商工会議所ソウル大会への参加等を行った。

また、各地単会の会員事業所の活性化に資するため、会員事業所の経営革新に向けた取り組み等を表彰する「Y E Gセレクション」を実施し、8事業所を表彰した。

## 3. 商青連の組織運営の強化

商青連の円滑な運営と各地青年部の交流を促進するため、会員総会（11月・2月）および役員会（7回）、委員会等定例の主要会議を開催したほか、必要に応じて臨時の委員会等を随時開催した。

また、商青連とブロック商工会議所青年部連合会、道府県商工会議所青年部連合会、各青年部とのネットワークを一層充実させ、結束をより強固なものにするよう、ブロック会長会議等において青年部および商青連の活動状況等について説明、意見交換したほか、機会を捉えては青年部の設置ならび商青連への加入を呼びかけるなど、商青連の組織運営強化に努めた。この結果、13年度に青年部を設置した商工会議所は2ヶ所で、全体で443青年部となり、商青連に新規加入したのは5青年部で、会員は394青年部（特別会員44連合会）となった。

なお、商青連を日本商工会議所の内部組織として位置付ける日商定款変更が平成13年5月24日、経済産業大臣より承認され、同年7月以降、商青連会長が日商常議員会等にオブザーバーとして出席することとなった。

## 4. 主催している大会、研修会の決定・指導・助言

7月から10月にかけて全国9ブロックで開催した青年部ブロック大会において、各ブロック商工会議所青年部連合会との連携とブロック内青年部の交流促進、情報交換、結束の一層の強化等を図った。

また、全国9ブロックで開催されたブロック大会の成果を集大成し、さらなる飛躍の場として、11月に小田原市・箱根町において、全国から357青年部、3,568名の参加を得て、「第21回全国大会小田原・箱根大会」を開催した。今回の全国大会では、『ご縁満開』を開催地キャッチフレーズとして、参議院議員 近藤 剛氏の記念講演をはじめ、Y E Gビジネスフォーラム21、商い塾、Y E G全国まちおこし物産展などの事業を展開した。なお、同全国大会記念式典には、内閣総理大臣 小泉純一郎氏からメッセージが寄せられた。

14年2月には、福岡県久留米市で、293青年部、1,133名（過去最高）の参加者により「第19回全国会長研修会」を開催した。同研修会では、『こころの発信 Switch on』を開催地キャッチフレーズとして、「アナライザーシステム」を利用した全体会議を行い、全国の単会が抱える課題等について全員で向き合いながら、リアルな視点で意見交換を行った。

## 5. 広報活動と情報交換の推進

青年部活動の浸透を図るとともに、青年部相互の情報交換を深めることを目的に機関紙「翔生」を年2回発行した。

また、商青連ホームページにおいて、商青連の事業予定や活動状況、役員会等議事録等の情報提供を充実するとともに、各地青年部ホームページへのリンク、意見交換のための伝言板運営などを実施した。

さらには、日本商工会議所で発行している「会議所ニュース」および「石垣」において、商青連活動および青年部活動について積極的にPRした。



### 次へのステップは実績造り

平成13年度専務理事 鈴木 肇（藤沢YEG）

20周年を迎えるにあたって、今までの諸先輩方の努力により全国3万社という一大組織に育て上げて頂いたことに厚く御礼申し上げます。さて、組織は強固となりましたが、青年部として外部に対して示すことのできる実績が無いように感じます。毎年、外部への提言などの目標を掲げますが、実際に我々が研鑽したことが社会貢献できたかと言うと疑問に思えてなりません。実際に昨年全国を回らせて頂いて全国の中には有能な人材が埋もれていると思いましたが、その人材を生かし切れなかったことは非常に残念と思います。全国紙やテレビで堂々と青年部のビジョンを提言できる時代はもう来ていると思います。先輩たちが築き上げてくれた土台を基にこれからの商青連は社会貢献と言う実績をつくらなければならないと感じます。イベント主体の親睦と交流から一歩踏み込んだ産業創造や地域経済活性化を推し進めて行く必要があると考えます。会員相互の事業所の発展のお手伝いをしつつ、商工会議所青年部に入っていて良かったと思って頂けるような組織に発展してくれることをせつに望みます。

平成  
14年度

スローガン

「立ち止まるな！そして胸を張れ！YEGs, be ambitious!」

#### 1. 研修活動の充実と各地青年部活動の支援

青年経済人としての資質の向上を図るための各種研修会の開催及び各地青年部間の全国的な情報交換や交流の促進を図るための事業として、20周年記念事業と冠した「YEGヤングリーダー研修会」を全国9ブロック大会および全国大会に併せて実施した。また、6月には、比叡山延暦寺において「翔生塾」を開催した。

#### 2. YEG連携事業の促進

13年度に引き続き、連携の切り口を多様な角度に変えて取り組み、連携事業活動を研究・実践した。特にコミュニティビジネス委員会では、メンバー自らが地域に根ざしたコミュニティビジネスを立ち上げるための研究活動を行うとともに、全国の青年部メンバーによるコミュニティビジネスへの取り組みを支援した。

#### 3. 広報活動と情報収集・発信

青年部活動の活性化を図るため、機関誌「翔生」の発行、商青連ホームページの充実などとともに、日商発行の「石垣（月刊誌）」「会議所ニュース（旬刊紙）」によりタイムリーな情報を発信し、商青連活動を様々なメディアを用いて内外へ積極的にPRした。

#### 4. 20周年記念事業の実施と記念誌の作成

商青連発足20年を記念して各事業を実施するとともに、「20周年記念誌」を発行した。

#### 5. 全国大会の実施

第22回全国大会を4,502名の参加を得て、大阪府門真市・守口市で開催した。

## 全国大会のあゆみ

### 第1回全国大会〈前橋大会〉

1981年

- ・開催地 群馬県前橋市（群馬県民会館・前橋商工会議所会館）
- ・開催日 昭和56年11月11日（水）
- ・主 管 前橋商工会議所青年部
- ・参加者 145商工会議所青年部 695名

「行動する商工会議所に若い力を」をスローガンに、全国で初めての商工会議所青年部の全国大会である本大会で、「商工会議所青年部の全国組織化を図れ」との提案があり、参加者全員の総意で採択された。これを受けて、全国9ブロックの青年部の代表25人で構成する「全国組織化推進委員会」を日商内に設置し、全国組織化の必要性、連合会が行う事業等について検討することになった。また、本大会では同時に「中小企業事業承継税制」についての要望を決議し、関係機関に要望した。

### 第2回全国大会〈高岡大会〉

1982年

- ・開催地 富山県高岡市（高岡商工会議所・高岡問屋センターホール）
- ・開催日 昭和57年10月29日（金）
- ・主 管 高岡商工会議所青年部会
- ・参加者 138商工会議所青年部 782名

「若い力を結集し、商工会議所に新たな飛躍を」をスローガンとした第2回の本大会に併せて全国商工会議所青年部連合会の結成大会が開催され、「全国組織化推進委員会」で検討してきた連合会の規約、事業計画、収支予算等が承認された。この結果、商青連が58年4月1日に正式に発足することになった。また、「これを契機に全国青年経済人の連絡、連携を一層緊密にし、次代の地域経済の担い手として、また新しい時代のまちづくりのリーダーとなるよう、研鑽を積むとともに、われわれ青年部の活動を通じて商工会議所の組織・運営の強化に寄与する」との大会宣言を採択した。

### 第3回全国大会〈大分大会〉

1983年

- ・開催地 大分県大分市（大分県立総合体育館）
- ・開催日 昭和58年11月11日（金）
- ・主 管 大分県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 114商工会議所青年部 757名

全国商工会議所青年部連合会が58年4月に発足して初の全国大会となった本大会は、「拡げよう 若い力を全国に」のスローガンのもと、「青年部活動と企業の発展」「商工会議所活動と青年部」などをテーマに全国9ブロックで開催された運営研究会の集大成として、企業とその存立基盤である地域の発展のために何をなすべきか等について研究した。また、本大会に先立ち、当日は第1回の会員総会も開催された。

### 第4回全国大会〈水戸大会〉

1984年

- ・開催地 茨城県水戸市（茨城県立県民文化センター）
- ・開催日 昭和60年3月18日（月）
- ・主管 茨城県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 160商工会議所青年部 1,335名

「つくば科学万博」を通して青年が担う21世紀を展望したいとの考えから、開催日程を通常10月あるいは11月頃であったものを、科学万博に合わせて3月とし、さらに当日は会員総会を開かず、全国大会のみに絞って内容を充実させた。また本大会を契機に、全国大会を盛り上げるため、青年部の団結のシンボルである「商青連旗」を作成した。

### 第5回全国大会〈福井大会〉

1985年

- ・開催地 福井県福井市（フェニックス・プラザ）
- ・開催日 昭和60年11月9日（土）
- ・主管 福井商工会議所青年部
- ・参加者 160商工会議所青年部 1,190名

大会会場となったフェニックス・プラザは、福井県の文化・情報施設として新設されたもので、本大会は、そのこけらおとしとして開催された。商青連では福井市での第5回大会を記念し、全国各地の青年部に県木、市木等の寄贈を仰ぎ、これら89本を敷地内に植樹して、これを「商青連の森」と命名するとともに福井市へ寄贈した。これに対し、福井市長から商青連に感謝状が贈られた。

### 第6回全国大会〈福島大会〉

1986年

- ・開催地 福島県福島市（福島県文化センター）
- ・開催日 昭和61年10月18日（土）
- ・主管 福島県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 162商工会議所青年部 1,408名

本大会の席上で、青年部の部員相互の連帯と意識の高揚を図り、青年部活動を広くPRすることを目的に製作した「商工会議所青年部の歌（伸びゆく大地）」が披露された。歌詞は一般公募により、全国各地から寄せられた44点の作品の中から選ばれたもので、福山商工会議所（広島県）の事務局員・石井耕二氏の作品。また、これと併せ、商青連が62年度に設立から5年目を迎えることから、その記念事業（アメリカ、カナダへの研修視察団の派遣）も発表された。



### 第7回全国大会〈沖縄大会〉

1987年

- ・開催地 沖縄県沖縄市（沖縄市民会館）
- ・開催日 昭和62年11月7日（土）
- ・主管 沖縄県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 197商工会議所青年部 1,538名

沖縄県の祖国復帰15周年という節目の年に開かれた本大会では、新しい試みとして大会前日に「同業種交流会」を、また当日は、「世界経済の中で日本の果たせる役割」をテーマとしたパネルディスカッションを開催した。さらに、大会後にはその記念事業として商青連の組織拡充と会員相互の交流と連帯を深めることを目的に、商取引の手引書ともいえる「全国商工会議所青年部名簿」（B5判、393ページ）が作成された。

### 第8回全国大会〈山口大会〉

1988年

- ・開催地 山口県山口市（山口県スポーツ文化センター）
- ・開催日 昭和63年11月17日（木）～18日（金）
- ・主管 山口県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 215商工会議所青年部 2,150名

商青連が昭和58年4月の設立から満5年を迎えた記念すべき年に、明治維新の地・山口で開催された本大会は、これまでとは違って、2日間にわたって開催され、初日に懇談会（懇親会）を、2日目に式典と記念講演会が行われた。特に今回の登録者数は、大会史上初の2千人の大台を越え、2,150人となった。また記念講演会には一般市民にも参加枠を広げたため、地元の高校生も参加した。

### 第9回全国大会〈高知大会〉

1989年

- ・開催地 高知県高知市（高知ちばさんセンター）
- ・開催日 平成元年11月16日（木）～17日（金）
- ・主管 高知県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 209商工会議所青年部 1,691名

前夜祭として開催した分科会はいずれも好評であった。特に坂本龍馬Ⅱ分科会は100名を越える参加者があった。「拓げよう友情の輪、創ろう新時代の日本」のスローガンのもとに開催され、「綱領」「指針」を掲げた初めての大会でもあった。式典の中で、参加いただいた青年部紹介を県単位でスライド利用により時間を短縮化し、また本県出身で三菱電機㈱相談役進藤貞和氏より特別講話をお願いした。

## 第10回全国大会〈浜松大会〉

1990年

- ・開催地 静岡県浜松市（グランドホテル浜松）
- ・開催日 平成2年11月16日（金）～17日（土）
- ・主管 静岡県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 247商工会議所青年部 2,513名

全国大会も今回で10回目という節目の年。世紀末の10年（1990年）に向かい、経済・産業の発展にける決意を新たにした。

特に今大会の目玉は、米国の未来学者アルビン・トフラー氏を迎えての国際講演会。権力構造において軍事力や資本力から、知性や感性がリードしていく時代に移行することについて熱弁を振った。くしくもこの年8月、イラクがクウェートに侵攻するという国際的大事件が起きており、約70分に及ぶ講演内容は2,600人の聴衆に強い衝撃を与えた。

## 第11回全国大会〈松江大会〉

1991年

- ・開催地 島根県松江市（島根県民会館・松江市総合体育館）
- ・開催日 平成3年11月15日（金）～16日（土）
- ・主管 島根県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 238商工会議所青年部 2,234名

「次代を先駆ける賢明なるY E G（若き企業家集団）たらん」のスローガンのもと、11月15日、16日の2日間にわたり開催された本大会は、来るべき21世紀への「新世紀ネットワーク」結成の出発点とするべく、「神在月（かみありづき）ネットワーク・イン松江」を基本コンセプトとし、ヒューマンネットワークづくりを目指した。また、神話のふる里、神々の国出雲を全面に打ち出した本大会は、「地方の時代」を象徴する大会となった。

## 第12回全国大会〈山形大会〉

1992年

- ・開催地 山形県山形市（山形市総合スポーツセンター）
- ・開催日 平成4年11月6日（金）～7日（土）
- ・主管 山形県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 243商工会議所青年部 2,402名

商青連設立10年目の記念大会となった大会は、「地域におこせ新しい風・<sup>トレンド</sup>熱い風<sup>トレンド</sup>」のスローガンのもと、山形弁研究者であるダニエル・カール氏を特別ゲストに10年記念の地球討論会（基調講演～4分科会）で開幕した。翌7日には、評論家・佐高信氏による「いま企業に求められるもの」と題した記念講演と式典が行われた。式典では、Y E Gの今後の指針となるべき山形宣言が発表されて記念大会に花を添え、式典終了後、山形県連メンバーの手による「山形名物大芋煮パーティー」で閉幕した。

### 第13回全国大会〈津大会〉

1993年

- ・開催地 三重県津市（メッセウイングみえ）
- ・開催日 平成5年11月12日（金）～13（土）
- ・主 管 三重県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 290商工会議所青年部 3,152名

本大会は「変革の時 今-Y E Gが未来を築く」のスローガンのもと、はじめて3,000人を超える参加となった。南米等に農場を経営する赤塚植物園や肉まん、あんまんでおなじみの井村屋製菓への視察研修をはじめ、O Bサロン等による交流促進、吉本興業社長の中邨秀雄氏による記念講演「笑いの原点・商いの原点」等を実施した。この中で中邨社長は人材育成の重要性とY E Gネットワークの可能性を指摘し、今後の青年部活動に期待を示した。

### 第14回全国大会〈長崎大会〉

1994年

- ・開催地 長崎県長崎市（長崎県立総合体育館）
- ・開催日 平成6年11月25日（金）～26日（土）
- ・主 管 長崎県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 285商工会議所青年部 2,943名

「明日への創造 地域に挑むY E G」のスローガンのもと、本大会ではY E Gの全国的ネットワークを活かしたカタログや見本品の配布、商談会等を展開するビジネス交流プラザを開催し、青年部会員企業のビジネス情報の交換を支援した。また、最新鋭の造船設備を誇る三菱重工業長崎造船所の企業視察や日本を代表するテーマパークであるハウステンボス社長の神近義邦氏による記念講演「ハウステンボスのアジア戦略」を実施した。

### 第15回全国大会〈大宮大会〉

1995年

- ・開催地 埼玉県大宮市（大宮ソニックシティ）
- ・開催日 平成7年11月16日（木）～17日（金）
- ・主 管 埼玉県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 316商工会議所青年部 3,895名

本大会は商青連の「Y E G連携事業」の提唱並びに「研げ感性、拡げよフィールド Y E G連携時代」のスローガンのもと、Y E Gの全国的なネットワークを活用して「Y E Gビジネス交流プラザ」「Y E G全国まちおこし物産展」「米国ペンシルベニア州国際交流展示会」等を展開した。また、冒険家の風間深志氏、アライヘルメット社長の新井理夫氏、音楽家の宇崎竜童氏、俳優の根津甚八氏など多彩な講師による記念講演等を行った。

## 第16回全国大会〈奈良大会〉

1996年

- ・開催地 奈良県奈良市（奈良市中央体育館）
- ・開催日 平成8年11月15日（金）～16日（土）
- ・主 管 奈良県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 315商工会議所青年部 2,821名

本大会は商青連の「Y E G 連携事業」の提唱並びに「人が接点 地域が原点 今、広げよう Y E G 連携」のスローガンのもと、青年部の全国ネットワークを活かしたビジネス交流プラザや全国まちおこし物産展等を実施した。また、インターネットの商用利用、ホームページの開設等を展開し、全国大会の模様をインターネットを通じて全国に同時中継した。

## 第17回全国大会〈徳島大会〉

1997年

- ・開催地 徳島県徳島市（アスティとくしま）
- ・開催日 平成9年11月21日（金）～22日（土）
- ・主 管 徳島県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 310商工会議所青年部 2,650名

本大会は商青連の「Y E G 連携事業」の促進並びに「『直接交流・直接実感』 連携そして共生へ Y E G 新たなる出発」のスローガンのもと、青年部の全国ネットワークを活かしたビジネス交流プラザや全国まちおこし物産展等を実施した。また、徳島の地元企業4社（ジャストシステム、大塚製薬工場、日亜化学工業、河野メリクロン）を訪問し、世界戦略をテーマとした講演や視察を行った。

## 第18回全国大会〈青森大会〉

1998年

- ・開催地 青森県青森市（青森市文化会館）
- ・開催日 平成10年11月6日（金）～7日（土）
- ・主 管 青森県商工会議所青年部連合会
- ・参加者 318商工会議所青年部 2,963名

本大会は「果敢に行動 リンクして感動 Y E G ネットワーク」のスローガンのもと、「日本の鼓動が響きあう、縄文の森 Y E G」を開催地キャッチフレーズに、石原慎太郎氏の記念講演をはじめ、「共生のカタチ、共感の青い森」をテーマとした当地青森の文化・産業を探求する分科会やビジネスチャンスを提供するビジネス交流プラザや Y E G 全国まちおこし物産展等を実施した。

## 第19回全国大会〈新潟大会〉

1999年

- ・ 開催地 新潟県新潟市（新潟市産業振興センター）
- ・ 開催日 平成11年11月12日（金）～13日（土）
- ・ 主 管 新潟県商工会議所青年部連合会
- ・ 参加者 388商工会議所青年部 3,165名

本大会は「アントレプレナーズスピリッツ 今起こそう、経済維新の風」のスローガンのもと、「万感の思いをこめて、いま、純白の里から」を開催地キャッチフレーズに、田中眞紀子氏の記念講演をはじめ、開催地新潟の文化・産業を探求する分科会や、アントレプレナーズ委員会によるビジネスチャンスの場を提供するビジネス交流プラザやY E G全国まちおこし物産展等を実施した。

## 第20回全国大会〈鹿児島大会〉

2000年

- ・ 開催地 鹿児島県鹿児島市（鹿児島市民文化ホール）
- ・ 開催日 平成12年11月17日（金）～18日（土）
- ・ 主 管 鹿児島県商工会議所青年部連合会
- ・ 参加者 333商工会議所青年部 3,078名

本大会は「地域をむすぶ、時代をつなぐY E G 新未来創造宣言！」のスローガンのもと、「まんまる鹿児島」を開催地キャッチフレーズに、法務大臣（当時）保岡興治氏の記念講演をはじめ、評論家田原総一郎氏による講演会、開催地鹿児島の文化・産業を探求する分科会や、アントレプレナーズ委員会によるビジネスチャンスの場を提供するビジネス交流プラザやY E G全国まちおこし物産展等を実施した。

## 第21回全国大会〈小田原・箱根大会〉

2001年

- ・ 開催地 神奈川県小田原市・箱根町（小田原市総合文化体育館 小田原アリーナ）
- ・ 開催日 平成13年11月8日（木）～9日（金）
- ・ 主 管 神奈川県商工会議所青年部連合会
- ・ 参加者 357商工会議所青年部 3,568名

本大会は「連携Y E G 実践展開 バーチャルからリアルへ」のスローガンのもと、「ご縁満開」を開催地キャッチフレーズに、参議院議員近藤剛氏の記念講演をはじめ、Y E Gビジネスフォーラム21、商い塾、Y E G全国まちおこし物産展等を実施した。また、記念式典に際して、内閣総理大臣小泉純一郎氏からメッセージが寄せられた。

第22回全国大会〈大阪大会〉

2002年

- ・ 開催地 大阪府守口市・門真市（なみはやドーム）
- ・ 開催日 平成14年11月8日（金）～9日（土）
- ・ 主 管 大阪府商工会議所青年部連合会
- ・ 参加者 375商工会議所青年部 4,502名

商青連設立20周年の記念大会となった本大会は、「立ち止まるな！そして胸を張れ！YEGs,be ambitious！」のローガンのもと、「なにわ楽あり」を開催地キャッチフレーズに、読売巨人軍終身名誉監督長島茂雄氏の記念講演をはじめ、開催地大阪ならではの多種多様な分科会、ビジネス交流プラザ「大阪ビジ楽フェスタ」、YEG全国まちおこし物産展等を実施した。

# ブロック別商工会議所青年部運営研究会・ブロック大会のあゆみ

ブロック名 年度	北海道	東北	北陸・信越	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	分科会 統一テーマ
昭和 58		① 9月17日(土) ② 鶴岡(山形) ③ 169(28)	① 10月25日(火) ② 新湊(富山) ③ 133(46)	① 9月9日(金) ② 沼津(静岡) ③ 241(46)		① 10月17日(月) ② 武生(福井) ③ 169(26)	① 10月18日(火) ② 山口(山口) ③ 196(37)		① 7月22日(金) ② 大村(長崎) ③ 361(41)	商工会議所活動 と青年部
59		① 9月15日(土) ② 塩釜(宮城) ③ 250(30)	① 10月20日(土) ② 五泉(新潟) ③ 207(23)	① 10月27日(土) ② 柏(千葉) ③ 327(45)	① 9月18日(火) ② 関(岐阜) ③ 330(33)		① 9月28日(金) ② 津山(岡山) ③ 288(38)	① 11月11日(日) ② 八幡浜(愛媛) ③ 170(21)	① 10月12日(金) ② 甘木(福岡) ③ 612(54)	これからの 商工会議所と 青年部の役割
60		① 9月14日(土) ② 一関(岩手) ③ 182(29)	① 10月5日(土) ② 富山(富山) ③ 167(20)	① 10月2日(水) ② 鎌倉(神奈川) ③ 418(56)		① 10月8日(火) ② 紀州南田(和歌山) ③ 244(32)	① 9月29日(日) ② 米子(鳥取) ③ 310(30)	① 9月8日(日) ② 高松(香川) ③ 145(21)	① 8月23日(金) ② 指宿(鹿児島) ③ 463(45)	地域経済の 活性化と 青年部の役割
61		① 9月27日(土) ② 大館(秋田) ③ 250(32)	① 9月28日(日) ② 輪高(石川) ③ 195(17)	① 9月19日(金) ② 上尾(埼玉) ③ 619(44)	① 8月26日(火) ② 春日井(愛知) ③ 387(40)		① 9月21日(日) ② 松江(高根) ③ 336(25)	① 8月23日(土) ② 高知(高知) ③ 176(22)	① 5月22日(木) ② 鹿島(佐賀) ③ 547(39)	わがまちの 新時代と 青年部の役割
62	① 9月19日(土) ② 登別(北海道) ③ 199(36)		① 9月23日(水) ② 村上(新潟) ③ 185(23)	① 8月22日(土) ② 足利(栃木) ③ 605(51)		① 9月14日(月) ② 北大阪(大阪) ③ 343(39)	① 9月6日(日) ② 長門(山口) ③ 224(28)	① 9月13日(日) ② 阿波池田(徳島) ③ 175(23)	① 5月24日(日) ② 日向(宮崎) ③ 592(51)	原点を見直し 21世紀へ翔く 青年部
63	① 9月24日(土) ② 浦河(北海道) ③ 135(13)	① 9月10日(土) ② 長井(山形) ③ 197(34)	① 9月17日(土) ② 中野(長野) ③ 258(28)	① 9月16日(金) ② 浜松(静岡) ③ 721(61)	① 9月13日(火) ② 津(三重) ③ 297(23)	① 9月2日(金) ② 奈良(奈良) ③ 301(27)	① 9月4日(日) ② 鳥取(鳥取) ③ 300(24)	① 6月4日(土) ② 坂出(香川) ③ 206(22)	① 8月26日(金) ② 平戸(長崎) ③ 720(47)	今我々は 何を…
平成 元	① 8月11日(金) ② 美唄(北海道) ③ 185(15)	① 10月1日(日) ② 青森(青森) ③ 527(37)	① 9月22日(金) ② 高岡(富山) ③ 479(25)	① 9月8日(金) ② 桐生(群馬) ③ 701(53)	① 9月13日(火) ② 関(岐阜) ③ 274(19)	① 8月2日(水) ② 洲本(兵庫) ③ 315(28)	① 9月11日(日) ② 益田(高根) ③ 333(23)	① 9月3日(日) ② 西条(愛媛) ③ 289(26)	① 8月27日(日) ② 別府(大分) ③ 823(52)	商工会議所活動 に果たす青年部 の役割

注)①=開催日 ②=主管青年部(都道府県名) ③=参加者数(商工会議所青年部数)

ブロック別商工会議所青年部運営研究会・ブロック大会のあゆみ

ブロック名 年度	北海道	東北	北陸・信越	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	分科会 統一テーマ
平成 2	①9月5日(水) ②遠軽(北海道) ③163(18)	①9月1日(土) ②郡山(福島) ③470(33)	①9月23日(日) ②燕(新潟) ③355(26)	①9月7日(金) ②大宮(埼玉) ③734(57)	①8月23日(木) ②春日井(愛知) ③344(22)	①9月12日(水) ②彦根(滋賀) ③303(30)	①9月8日(土) ②津山(岡山) ③316(30)	①9月15日(土) ②中村(高知) ③308(28)	①6月22日(金) ②沖繩宮古(沖縄) ③502(52)	いま一度語ろう 青年部
3	①9月11日(水) ②岩見沢(北海道) ③210(23)	①9月14日(土) ②石巻(宮城) ③411(45)	①9月7日(土) ②下諏訪(長野) ③410(37)	①10月11日(金) ②勝田(茨城) ③900(66)	①8月27日(火) ②鈴鹿(三重) ③593(29)	①9月3日(火) ②高砂(兵庫) ③329(33)	①9月28日(土) ②下関(山口) ③432(36)	①8月23日(金) ②徳島(徳島) ③373(33)	①10月2日(水) ②山鹿(熊本) ③768(62)	YEG SPIRITS
4	①9月9日(水) ②帯広(北海道) ③219(30)	①7月18日(土) ②花巻(岩手) ③513(47)	①10月3日(土) ②松代(長野) ③333(42)	①10月9日(金) ②千葉(千葉) ③1,028(81)	①8月23日(日) ②岡崎(愛知) ③679(38)	①9月4日(金) ②福井(福井) ③466(44)	①9月25日(金) ②米子(鳥取) ③447(45)	①9月12日(土) ②多度津(香川) ③386(32)	①9月19日(土) ②行橋(福岡) ③918(64)	地域に根ざせ YEG
5	①10月7日(木) ②恵庭(北海道) ③239(34)	①9月4日(土) ②秋田(秋田) ③560(54)	①9月18日(土) ②黒部(富山) ③378(33)	①10月3日(日) ②横須賀(神奈川県) ③952(82)	①10月8日(金) ②恵那(岐阜) ③600(40)	①8月28日(土) ②山城(京都) ③308(39)	①9月25日(土) ②玉島(岡山) ③609(58)	①9月10日(金) ②今治(愛媛) ③405(36)	①7月10日(土) ②奄美大島(鹿児島) ③655(65)	「〇〇発YEG スピリッツ」
6	①9月21日(水) ②根室(北海道) ③196(39)	①10月15日(土) ②山形(山形) ③526(48)	①9月17日(土) ②亀田(新潟) ③443(43)	①9月2日(金) ②小山(栃木) ③1,035(93)	①9月9日(金) ②伊勢(三重) ③769(44)	①10月1日(土) ②田辺(和歌山) ③416(40)	①10月7日(金) ②柳井(山口) ③490(54)	①8月27日(土) ②安芸(高知) ③470(51)	①7月22日(金) ②伊万里(佐賀) ③1,017(77)	「おこそう行動 YEG」
7	①10月9日(月) ②美幌(北海道) ③287(36)	①10月21日(土) ②八戸(青森) ③740(56)	①9月29日(金) ②七尾(金沢) ③533(46)	①10月13日(金) ②静岡(静岡) ③1,228(98)	①9月15日(金) ②瀬戸(愛知) ③761(32)	①9月9日(土) ②高石(大阪) ③690(65)	①10月7日(土) ②出雲(島根) ③600(41)	①9月21日(木) ②鴨島(徳島) ③354(27)	①7月14日(金) ②串間(宮崎) ③792(72)	
8	①8月31日(土) ②滝川(北海道) ③350(37)	①9月26日(木) ②会津若松(福島) ③776(65)	①10月4日(金) ②砺波(富山) ③501(40)	①10月17日(木) ②伊勢崎(群馬) ③1,056(95)	①10月12日(土) ②関(岐阜) ③795(35)	①9月7日(土) ②大津(滋賀) ③720(52)	①9月21日(土) ②倉吉(鳥取) ③542(49)	①9月14日(土) ②丸亀(香川) ③459(56)	①10月18日(金) ②佐世保(長崎) ③1,093(77)	

注 ①＝開催日 ②＝主管青年部(都道府県名) ③＝参加者数(商工会議所青年部数)



ブロック名 年度	北海道	東北	北陸・信越	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	分科会 統一テーマ
平成 9	① 9月4日(水) ～5日(金) ② 登別(北海道) ③ 270(42)	① 10月8日(水) ② 古川(宮城) ③ 670(42)	① 9月12日(金) ② 新発田(新潟) ③ 400(26)	① 10月24日(金) ② 深谷(埼玉) ③ 1,229(98)	① 10月5日(日) ② 久居(三重) ③ 813(33)	① 9月6日(土) ② 加西(兵庫) ③ 670(54)	① 10月18日(土) ② 岡山(岡山) ③ 600(65)	① 9月27日(土) ② 伊予三島(愛媛) ③ 591(45)	① 9月20日(土) ② 中津(大分) ③ 1,089(81)	
10	① 9月7日(月) ② 網走(北海道) ③ 278(38)	① 10月14日(水) ② 北上(岩手) ③ 681(58)	① 9月11日(金) ② 須坂(長野) ③ 459(55)	① 9月4日(金) ② 水戸(茨城) ③ 1,153(102)	① 9月19日(土) ② 豊田(愛知) ③ 1,083(66)	① 10月17日(土) ② 鯖江(福井) ③ 932(71)	① 8月28日(金) ～29日(土) ② 萩(山口) ③ 668(67)	① 9月24日(木) ～25日(金) ② 須崎(高知) ③ 408(51)	① 6月26日(金) ～27日(土) ② 那覇(沖縄) ③ 845(81)	
11	① 9月4日(土) ② 釧路(北海道) ③ 321(41)	① 10月13日(水) ② 湯沢(秋田) ③ 632(36)	① 9月25日(土) ～26日(日) ② 加賀(石川) ③ 702(51)	① 7月10日(土) ② 佐原(千葉) ③ 1,109(110)	① 9月18日(土) ② 各務原(岐阜) ③ 1,088(72)	① 9月12日(日) ② 奈良(奈良) ③ 745(69)	① 10月16日(土) ② 浜田(高根) ③ 890(44)	① 8月7日(土) ② 阿南(徳島) ③ 410(52)	① 7月23日(金) ② 熊本(熊本) ③ 969(78)	
12	① 9月2日(土) ② 砂川(北海道) ③ 327(36)	① 9月22日(水) ② 米沢(山形) ③ 854(65)	① 9月20日(水) ～21日(木) ② 魚津(富山) ③ 727(29)	① 10月13日(金) ② 相模原(神奈川) ③ 1,261(108)	① 9月29日(金) ② 鳥羽(三重) ③ 991(60)	① 9月8日(金) ② 宮津(京都) ③ 939(67)	① 10月21日(金) ② 鳥取(鳥取) ③ 696(57)	① 11月4日(土) ② 善通寺(香川) ③ 431(49)	① 10月14日(金) ～15日(土) ② 柳川(福岡) ③ 929(69)	
13	① 9月1日(金) ② 深川(北海道) ③ 355(36)	① 9月21日(水) ～22日(金) ② 弘前(青森) ③ 785(60)	① 9月6日(水) ～7日(木) ② 村上(新潟) ③ 674(63)	① 9月8日(金) ② 栃木(栃木) ③ 1,271(91)	① 10月25日(水) ～26日(木) ② 豊橋(愛知) ③ 1,166(67)	① 9月13日(水) ～14日(木) ② 新宮(和歌山) ③ 772(44)	① 10月5日(水) ～6日(木) ② 児島(岡山) ③ 898(67)	① 8月25日(金) ② 宇和島(愛媛) ③ 586(50)	① 7月13日(水) ～14日(金) ② 唐津(佐賀) ③ 969(76)	
14	① 9月14日(土) ～15日(日) ② 留萌(北海道) ③ 338(57)	① 10月3日(水) ～4日(金) ② 福島(福島) ③ 893(82)	① 10月10日(水) ～11日(金) ② 諏訪(長野) ③ 491(66)	① 9月13日(金) ② 沼津(静岡) ③ 1,317(106)	① 9月7日(土) ② 高山(岐阜) ③ 1,229(69)	① 9月27日(金) ～28日(土) ② 長浜(滋賀) ③ 1,061(76)	① 10月18日(金) ～19日(土) ② 広島(広島) ③ 1,132(72)	① 8月31日(土) ② 土佐清水(高知) ③ 502(60)	① 7月13日(土) ～14日(日) ② 枕崎(鹿児島) ③ 1,061(63)	

注)①=開催期日 ②=主催青年部(都道府県名) ③=参加者数(商工会議所青年部数)

## 中央研修会・全国会長研修会のあゆみ

回数	開催日・場所等	概要
第1回	昭和59年2月6日(月)～7日(火) 東京農林年金会館(東京) (参加者:商青連役員・会員青年部代表75人)	井上富雄氏(株)ジャパンマネジメントアドバイス社長)の「激変する経営環境に幹部としてどう対処するか」と題する講演のほか、曾我隆一代表幹事の進行で、出席者全員による「青年部活動におけるリーダーの役割」「青年部研修会のあり方」をテーマとしたディスカッション、室谷文司氏(日本商工会議所参与)による「商工会議所の歴史と役割」、清水秀雄氏(前橋商工会議所参与)による「各種事業を展開するうえで青年部に期待したいこと」と題する講話などが行われた。
第2回	昭和59年11月25日(日) ～26日(月) サテライトホテル後楽園 (東京) (参加者:商青連役員・会員青年部代表69人)	岩村譲一氏(中央大学経理研究所講師)の「事業用資産の承継における税務手続、また高木禮二氏(株)明光商会社長)の「激変する経営環境に幹部として如何に対処するか」と題した講演のほか、日本商工会議所専務理事・井川博氏の「青年部に期待する」と題した講話が行われるとともに、「これからの商工会議所と青年部の役割」「青年部研修会のあり方」の2つをテーマに、参加者全員によるディスカッションが行われた。
第3回	昭和61年2月25日(火) ～26日(水) 東商国際会議場(東京) (参加者:商青連役員・会員青年部代表・青年部担当職員155人)	今回の中央研修には、これまでの参加対象者(商青連役員と商青連会員青年部の代表)に、新たに商工会議所青年部担当職員が加えられた。研修は、「企業と街の活性化ーキーボードをにぎるのは若者ー」(株)リクルート情報出版「とらばーゆ」編集長・江上節子氏)、「日本の将来とそれを担う皆様へ」(日本商工会議所特別顧問・瀬島龍三氏)、「これからの商工会議所と青年部の役割」(日本商工会議所専務理事・井川博氏)と題した講演のほか、参加者が3つの分科会に分かれ、「青年部の組織強化ならびに運営上の問題点」「ブロック別運営研究会について」「商青連の広報体制について」をテーマとしたディスカッションが行われた。
第4回	昭和62年2月9日(月) ～10日(火) 東商国際会議場(東京) (参加者:商青連役員・会員青年部代表134人)	京都商工会議所会頭・塚本幸一氏の「私の歩んだ道」、日本商工会議所専務理事・守屋一彦氏の「これからの商工会議所の課題と青年部への期待」と題した講演・講話のほか、「全国商工会議所青年部連合会のこれから…」と題して歴代の商青連代表幹事をパネラーにしたパネルディスカッション、参加青年部員が都市規模別に4つに分かれての分科会形式のディスカッションが行われた。
第5回	昭和62年2月8日(月)～9日(火) 東商国際会議場(東京) (参加者:商青連役員・会員青年部代表168人)	日本商工会議所特別顧問・真藤恒氏の「私の経営体験から」と題した講演のほか、日本商工会議所専務理事・守屋一彦氏の「商工会議所青年部への期待」と題した講話、土浦、津、津山の各青年部からの事例発表、「青年部、その誇りと悩み」をテーマに参加青年部員が4つの分科会に分かれての討論が行われた。
第6回	平成元年2月9日(金) ～10日(土) 日本青年館(東京) (参加者:商青連役員・会員青年部代表214人)	日本商工会議所特別顧問・岡田卓也氏(株式会社ジャスコ代表取締役会長・東京商工会議所副会頭)が「私の経営体験」をテーマに特別講演、同氏の経営理念をはじめ、これまでの体験談が披露された。また、日本商工会議所専務理事・守屋一彦氏から「商工会議所青年部への期待」と題した講話が行われた。さらに、「自社の体験談から」と題し、商青連役員3人から事例発表が行われるとともに、特別委員会で策定した商工会議所青年部の「綱領」「指針」についての趣旨説明が行われた。また、この研修会の席上で、創立5周年を記念して実施した「懸賞論文の募集」および「会報コンクール」の入賞作(懸賞論文の部:3人、会報コンクールの部8青年部・1県連)に対する表彰式が行われた。

回数	開催日・場所等	概要
第7回	平成2年2月6日(火)～7日(水) 東商国際会議場（東京） （参加者：商青連役員・会員青年部代表188人）	全体リーダー研修に続き、佐藤善三郎商青連会長から基調講演があった。続いて、地域交流センター・田中栄治氏より「地域連携軸とYEG活動」をテーマとした講演があった。また、「次年度会長研修」、「会長役員研修」、「事務局研修」、「女性会員研修」の分科会が行われた。交流会の後、座禅会があり、最後に任天堂(株)取締役社長・山内博氏より「任天堂ソフト化路線というテーマで記念講演が行われた。
第8回	平成3年2月7日(木)～8日(金) 東商国際会議場（東京） （参加者：商青連役員・会員青年部代表230人）	(株)八百半デパート代表取締役社長／国際流通グループヤオハン副代表・和田晃昌氏から「流通業界における世界戦略について」、(財)松下政経塾理事／塾頭・上甲晃氏から「企業の経営ビジョンについて」、法政大学教授・川喜多喬氏から「若手後継者にみる経営者像について」それぞれ特別講演があった。また、日本商工会議所専務理事・谷村昭一氏から「商工会議所青年部への期待」と題した講話が行われた。さらに、参加者が4グループに分かれて、青年部にかかる諸問題等について活発なフリートキングが行われた。
第9回	平成4年2月6日(木)～7日(金) 東商国際会議場（東京） （参加者：商青連役員・会員青年部代表297人）	和田均商青連会長から「YEG スピリッツ」について基調講演があるとともに、静岡県立大学教授／地域産業経済研究所長・山崎充氏から「地域経済の活性化について」、ヒロボー(株)社長・松坂敬太郎氏から「企業家精神について」特別講演があった。また、日本商工会議所常務理事・西川禎一氏から「商工会議所青年部への期待」と題した講話が行われた。さらに、堀江眞・小田原青年部長から「おも城OASISについて」、後藤俊夫・山形青年部会長から「日本一の芋煮会フェスティバルについて」、川端康夫・黒部青年部直前会長から「ホットフィールドライブ・インKUROBE（ゴミゼロコンサート）」について、内田荘一郎・高知青年部副会長から「坂本龍馬記念館について」、それぞれ事例発表が行われた後、これらの発表者をパネラーに、堺克由商青連研修委員長がコーディネーター、山崎充教授が助言者となって、青年部活動のあり方について、パネルディスカッションが行われた。
第10回	平成5年2月9日(火)～10日(水) 富山県民会館 （富山県富山市） （参加者：563人）	神谷竹彦商青連会長から基調講演があった。また、研究分科会において「私達の都市において商工会議所青年部活動はどうあるべきか」、「私達の青年部活動において、そのリーダーとしてふさわしい役割はどうあるべきか」、「青年部活動と事務局の関わり方」の3点について活発なフリートキングが行われた。
第11回	平成6年2月8日(火)～9日(水) 小田原市民会館 （神奈川県小田原市） 箱根小湧園 （神奈川県箱根町） （参加者：187商工会議所青年部556人）	櫻井誠己商青連会長から基調講演があった。続いて、高橋潤一郎慶応大学教授より導入講演があった。また、「大宮ハロウィーン祭」（大宮）、「産業としての鹿児島島の観光」（鹿児島）、「よさこい祭り」（高知）、「沼田市天狗みこし招聘について」（新発田）、「ベルマーレ平塚のJリーグ入りへの応援についての諸活動」（平塚）の事例発表があった。パネルディスカッションの後、最後に橋田寿賀子氏による特別講演が行われた。
第12回	平成7年2月22日(水) ～23日(木) 京都パークホテル （京都府京都市） （参加者：225商工会議所青年部1,064人）	全体リーダー研修に続き、佐藤善三郎商青連会長から基調講演があった。続いて、地域交流センター・田中栄治氏より「地域連携軸とYEG活動」をテーマとした講演があった。また、「次年度会長研修」、「会長役員研修」、「事務局研修」、「女性会員研修」の分科会が行われた。交流会の後、座禅会があり、最後に任天堂(株)取締役社長・山内博氏より「任天堂ソフト化路線というテーマで記念講演が行われた。

回数	開催日・場所等	概要
第13回	平成8年2月7日(水)～8日(木)新宮市民会館 (和歌山県新宮市) (参加者：231商工会議所青年部803人)	辻正敏商青連会長、松田祥吾次期商青連会長から基調講演があった。続いて、国土庁計画・調整局総合交通課長・三浦真紀氏より「地域連携軸構想について」をテーマとした講演があった。その後、Y E G連携事業例発表が行われた。また、「Y E G連携事業が地域を変える」をテーマにパネルディスカッションが行われた。翌日は、伊藤忠商事(株)顧問・森岡正憲氏による「混迷の時代における諸情勢」をテーマとした記念講演が行われた。
第14回	平成9年2月3日(月)～4日(火)岩見沢市民会館 (北海道岩見沢市) (参加者：220商工会議所青年部680人)	松田祥吾商青連会長、大村晴利次期商青連会長から基調講演があった。続いて、連携事業事例発表会が行われた。さらに、日本電気ホームエレクトロニクス(株)代表取締役社長・宮脇知生氏より「高度情報化社会と地域経済」をテーマとした記念講演が行われた後、分科会、交流会を実施した。
第15回	平成10年2月9日(月)～10日(火)掛川生涯学習センター (静岡県掛川市) (参加者：237商工会議所青年部718名)	大村晴利商青連会長、吉本博次次期商青連会長から基調講演があった。続いて、掛川市長榛村純一氏より「地方分権、虚像と実像、今我々は何をすべきか」をテーマとした記念講演が行われた後、分科会、交流会を実施した。
第16回	平成11年2月9日(火)～10日(水)今治市公会堂、今治国際ホテル(愛媛県今治市) (参加者：240商工会議所青年部807名)	吉本博次商青連会長、北島重利次期商青連会長から基調講演があった。続いて、水野晴郎氏・西田和晃氏より「地域活性化の手法を探る。～映画で地域活性化は可能か?～」をテーマとした記念講演が行われた後、分科会、交流会を実施した。
第17回	平成12年2月8日(火)～9日(水)志戸平温泉、花巻温泉 (岩手県花巻市) (参加者：256商工会議所青年部952名)	岩手県知事増田寛也氏より「21世紀の青年がなすべき役割と情熱」をテーマとした記念講演が行われた。 続いて、増田寛也岩手県知事、本木正幸花巻温泉(株)副社長、北島重利商青連会長、倉橋純造次期商青連会長をパネリストに同テーマでパネルディスカッションが行われた後、分科会、交流会を実施した。
第18回	平成13年2月8日(木)～9日(金)半田市福祉文化会館「雁宿ホール」 (愛知県半田市) (参加者：272商工会議所青年部1059名)	各テーマによる分科会、続いて交流会を実施した。 翌日は、倉橋純造商青連会長、古泉幸一次期商青連会長をパネリストに、麻木久仁子氏のコーディネーターにより「新未来リーダーの条件」をテーマにパネルディスカッションが行われた後、分科会、交流会を実施した。
第19回	平成14年2月8日(金)～9日(土)久留米市民会館 (福岡県久留米市) (参加者：293商工会議所青年部1133名)	「商青連を理解する」というテーマで、古泉幸一商青連会長、大脇唯真次期商青連会長の講話があった。 続いて、全国の単会の活動事例発表、「Y E Gを取り巻く諸問題」についての意見交換が行われた。

# 歴代役員名簿

年 度	昭 和 58 年 度			年 度	昭 和 59 年 度		
役職名	氏 名	青 年 部 名	青年部の役職	役職名	氏 名	青 年 部 名	青年部の役職
代表幹事	曾我 隆一	前橋商工会議所青年部(群馬県)	直前代表幹事	代表幹事	竹中 勝治	高岡商工会議所青年部会(富山県)	直前部会長
副代表幹事	久保 徹直	登別商工会議所青年部(北海道)	部 長	副代表幹事	大塚 義弘	登別商工会議所青年部(北海道)	副 部 長
〃	萩原 幸昭	原町商工会議所青年経営懇談会(福島県)	会 長	〃	萩原 幸昭	原町商工会議所青年経営懇談会(福島県)	直前会長
〃	竹中 勝治	高岡商工会議所青年部会(富山県)	会 長	〃	谷口 貞夫	魚津商工会議所青年部会(富山県)	理 事
〃	桑原 克彦	春日井商工会議所青年部(愛知県)	部 長	〃	深谷 邦夫	水戸商工会議所青年部(茨城県)	会 長
〃	清水 慶造	福井商工会議所青年部会(福井県)	会 長	〃	山中 隆治	関商工会議所青年部会(岐阜県)	副部会長
〃	加藤 功	米子商工会議所青年部(鳥取県)	代表理事	〃	清水 慶造	福井商工会議所青年部会(福井県)	直前会長
〃	竹口 博之	阿南商工会議所富岡商店経営研究会(徳島県)	会 長	〃	井上 茂雄	山口商工会議所青年部(山口県)	理 事
〃	菅 謹一郎	大分県商工会議所青年部連合会(大分県)	顧 問	〃	平田 悦三	八幡浜商工会議所青年部(愛媛県)	理 事
幹 事	佐々木孝雄	浦河商工会議所青年部(北海道)	会 長	〃	安部谷次郎	大分県商工会議所青年部連合会(大分県)	顧 問
〃	菊池 徳芳	江刺商工会議所青年部(岩手県)	部 長	幹 事	金岩 武吉	浦河商工会議所青年部(北海道)	会 計 監 事
〃	小田 順一	五泉商工会議所青年部(新潟県)	会 長	〃	菅原 寛	鶴岡商工会議所青年委員会(山形県)	委 員 長
〃	深谷 邦夫	水戸商工会議所青年部(茨城県)	会 長	〃	松木 和昭	中野商工青年会議(長野県)	部 会 長
〃	大古田一郎	沼津青年工業会(静岡県)	会 長	〃	池下 洋一	前橋商工会議所青年部(群馬県)	代表幹事
〃	渡辺 正敏	関商工会議所青年部会(岐阜県)	部 会 長	〃	畔高 敦司	柏商工会議所青年部(千葉県)	会 長
〃	木下 紘一	洲本商工会議所青年部(兵庫県)	会 長	〃	林 勝正	鈴鹿商工会議所商業青年部(三重県)	部 長
〃	辻本 真市	紀州有田商工会議所青年部会(和歌山県)	監 事	〃	木下 紘一	洲本商工会議所青年部(兵庫県)	会 長
〃	井上 茂雄	山口商工会議所青年部(山口県)	理 事	〃	辻本 真市	紀州有田商工会議所青年部会(和歌山県)	監 事
〃	富永 健一	大洲商工会議所青年部会(愛媛県)	部 会 長	〃	児嶋 祥悟	鳥取商工会議所青年部(鳥取県)	代表理事
〃	赤坂 善弘	大村商工会議所青年部(長崎県)	部 長	〃	平木 克典	高松商工会議所青年会(香川県)	会 長
〃	徳富 清次	沖繩商工会議所青年部(沖繩県)	部 長	〃	平澤 勝昭	大村商工会議所青年部(長崎県)	会 長
監 事	山本 喜惟	中野青年商工会議(長野県)	元 議 長	〃	比嘉 秀雄	沖繩商工会議所青年部(沖繩県)	部 長
〃	山下 裕国	松江商工会議所青年部(島根県)	代表理事	監 事	宮腰 一博	五泉商工会議所青年部会(新潟県)	会 長
				〃	池 弘之	津山商工会議所青年部(岡山県)	元 部 長
				相 談 役	中田 高運	富山商工会議所青年部会(富山県)	O B
				〃	曾我 隆一	前橋商工会議所青年部(群馬県)	特別理事
				〃	菅 謹一郎	竹田商工会議所青年部会(大分県)	O B

年 度	昭 和 60 年 度			年 度	昭 和 61 年 度		
役職名	氏 名	青 年 部 名	青年部の役職	役職名	氏 名	青 年 部 名	青年部の役職
代表幹事	安部谷次郎	豊後高田商工会議所青年部会(大分県)	顧問	代表幹事	中山 昌男	土浦商工会議所青年部(茨城県)	会長
副代表幹事	金岩 武吉	浦河商工会議所青年部(北海道)	直前会長	副代表幹事	奥田 利明	浦河商工会議所青年部(北海道)	会長
〃	萩原 幸昭	原町商工会議所青年部(福島県)	顧問	〃	萩原 幸明	原町商工会議所青年部(福島県)	顧問
〃	上田 博	高岡商工会議所青年部会(富山県)	直前会長	〃	渋谷 征雄	富山商工会議所青年部会(富山県)	相談役
〃	中山 昌男	土浦商工会議所青年部(茨城県)	会長	〃	中島 宣夫	鎌倉商工会議所青年部(神奈川県)	代表理事
〃	水野 直樹	春日井商工会議所青年部(愛知県)	部長	〃	河上 宗勝	関商工会議所青年部会(岐阜県)	副部長
〃	清水 慶造	福井商工会議所青年部会(福井県)	顧問	〃	古川 伸二	福井商工会議所青年部会(福井県)	直前会長
〃	加藤 功	米子商工会議所青年部(鳥取県)	代表理事	〃	池淵 功二	松江商工会議所青年部(島根県)	直前代表理事
〃	平木 克典	高松商工会議所青年部(香川県)	会長	〃	宮地 弥典	高知商工会議所青年部(高知県)	会長
〃	島田 朝秀	沖繩商工会議所青年部(沖繩県)	直前会長	〃	黒田 勝昭	大村商工会議所青年部(長崎県)	直前会長
幹 事	大塚 義弘	登別商工会議所青年部(北海道)	部長	幹 事	横尾 逸郎	登別商工会議所青年部(北海道)	特別委員長
〃	菅原 周二	塩釜商工会議所青年部(宮城県)	部長	〃	千葉 幸七	一関商工会議所青年部(岩手県)	部長
〃	河野 良雄	五泉商工会議所青年部会(新潟県)	直前会長	〃	菅原 周二	塩釜商工会議所青年部(宮城県)	直前部長
〃	倉田 博憲	松代商工会議所青年部(長野県)	相談役	〃	野澤 良一	燕商工会議所青年部(新潟県)	会長
〃	池田 稔	前橋商工会議所青年部(群馬県)	副代表幹事	〃	下平 憲一	塩尻青年商工会(長野県)	会長
〃	中島 宣夫	鎌倉商工会議所青年部(神奈川県)	代表理事	〃	神田 博一	上尾商工会議所青年部(埼玉県)	直前会長
〃	林 勝正	鈴鹿商工会議所商業青年部(三重県)	直前会長	〃	木内 修二	市川商工会議所青年部(千葉県)	直前会長
〃	後藤 忠毅	洲本商工会議所青年部(兵庫県)	会長	〃	竹林 武一	津商工会議所青年部(三重県)	会長
〃	辻本 真市	紀州有田商工会議所青年部会(和歌山県)	会計	〃	村田 清司	北大阪商工会議所青年部(大阪府)	初代会長
〃	池淵 功二	松江商工会議所青年部(島根県)	直前代表理事	〃	岡本 敏孝	奈良商工会議所青年部(奈良県)	顧問
〃	津江 政孝	下関商工会議所青年部会(山口県)	元会長	〃	今井 陸雄	鳥取商工会議所青年部(鳥取県)	直前代表理事
〃	宮地 弥典	高知商工会議所青年部(高知県)	理事	〃	蒔苗 聖一	光商工会議所青年部(山口県)	会長
〃	大楠 隆	甘木商工会議所青年部(福岡県)	理事	〃	馬宮 功	阿波池田商工会議所青年部(徳島県)	直前会長
〃	辻崎 徹郎	大村商工会議所青年部(長崎県)	直前会長	〃	池増 徹	指宿商工会議所青年部(鹿児島県)	代表幹事
監 事	上野 英明	鶴岡商工会議所青年委員会(山形県)	直前委員長	〃	花城 清友	沖繩商工会議所青年部(沖繩県)	直前部長
〃	畔高 敦司	柏商工会議所青年部(千葉県)	理事	監 事	日野 茂	桐生商工会議所青年部会(群馬県)	直前部長
相 談 役	中田 高運	富山商工会議所青年部会(富山県)	O B	〃	大楠 隆	甘木商工会議所青年部(福岡県)	常任理事
〃	竹中 勝治	高岡商工会議所青年部会(富山県)	O B	相 談 役	中田 高運	富山商工会議所青年部会(富山県)	O B
〃	深谷 邦夫	水戸商工会議所青年部(茨城県)	O B	〃	竹中 勝治	高岡商工会議所青年部会(富山県)	O B
〃	曾我 隆一	前橋商工会議所青年部(群馬県)	特別理事	〃	深谷 邦夫	水戸商工会議所青年部(茨城県)	O B
〃	菅 謹一郎	竹田商工会議所青年部会(大分県)	O B	〃	曾我 隆一	前橋商工会議所青年部(群馬県)	特別理事
顧 問	馬島 伸介 (谷岡 博)	日本商工会議所中小企業振興部長 (日本商工会議所理事・中小企業振興部長)		〃	清水 慶造	福井商工会議所青年部会(福井県)	相談役
				〃	菅 謹一郎	竹田商工会議所青年部会(大分県)	O B
				〃	安部谷次郎	豊後高田商工会議所青年部会(大分県)	幹 事
				顧 問	馬島 伸介	日本商工会議所中小企業振興部長	

年度	昭和 62 年度			年度	昭和 63 年度		
役職名	氏名	青年部名	青年部の役職	役職名	氏名	青年部名	青年部の役職
会長	古川 伸二	福井商工会議所青年部会(福井県)	元会長	会長	萩原 幸昭	原町商工会議所青年部(福島県)	顧問
副会長	奥田 利明	浦河商工会議所青年部(北海道)	会長	副会長	奥田 利明	浦河商工会議所青年部(北海道)	直前会長
〃	萩原 幸昭	原町商工会議所青年部(福島県)	顧問	〃	菅原 周二	塩釜商工会議所青年部(宮城県)	参与
〃	長谷部 誠	亀田商工会議所青年部(新潟県)	会長	〃	谷川 晴久	輪島商工会議所青年部(石川県)	元会長
〃	神田 博一	上尾商工会議所青年部(埼玉県)	監事	〃	西田 晴夫	足利商工会議所青年部(栃木県)	直前会長
〃	竹林 武一	津商工会議所青年部(三重県)	会長	〃	水野 直樹	春日井商工会議所青年部(愛知県)	副会長
〃	岡本 敏孝	奈良商工会議所青年部(奈良県)	顧問	〃	綿谷 正之	奈良商工会議所青年部(奈良県)	直前会長
〃	蒔苗 聖一	光商工会議所青年部(山口県)	顧問	〃	蒔苗 聖一	光商工会議所青年部(山口県)	顧問
〃	馬宮 功	阿波池田商工会議所青年部(徳島県)	監事	〃	伊藤 剛吉	西条商工会議所青年部(愛媛県)	幹事
〃	池宮 徹	指宿商工会議所青年部(鹿児島県)	監事	〃	石川 正一	那覇商工会議所青年部(沖縄県)	会長
理事	横尾 逸郎	登別商工会議所青年部(北海道)	特別委員長	理事	横尾 逸郎	登別商工会議所青年部(北海道)	特別委員長
〃	千葉 幸七	一関商工会議所青年部(岩手県)	部長	〃	伊藤 健	大館商工会議所青年部(秋田県)	会長
〃	菅原 周二	塩釜商工会議所青年部(宮城県)	参与	〃	鈴木 隆則	長井商工会議所青年部会(山形県)	会長
〃	伊藤 健	大館商工会議所青年部会(秋田県)	部長	〃	中島 英一	村上商工会議所青年部(新潟県)	常任理事
〃	松永 彰	高岡商工会議所青年部会(富山県)	監事	〃	河口 清隆	富山商工会議所青年部会(富山県)	相談役
〃	南 勝	中野商工会議所青年部(長野県)	直前議長	〃	平松 克章	水戸商工会議所青年部(茨城県)	理事
〃	西田 晴夫	足利商工会議所青年部(栃木県)	部長	〃	松本 耕誌	館林商工会議所青年部(群馬県)	部長
〃	古賀 友二	伊勢崎商工会議所青年部(群馬県)	副代表幹事	〃	鈴木 衛	市川商工会議所青年部(千葉県)	直前会長
〃	木内 修二	市川商工会議所青年部(千葉県)	監事	〃	伊藤 雅章	浜松商工会議所青年部(静岡県)	部長
〃	山本陽一郎	浜松商工会議所青年部(静岡県)	副部長	〃	深川 寛治	関商工会議所青年部(岐阜県)	直前会長
〃	水野健一郎	関商工会議所青年部会(岐阜県)	直前部長	〃	広森 重孝	鈴鹿商工会議所青年部会(三重県)	会長
〃	川村 陽一	春日井商工会議所青年部(愛知県)	副部長	〃	南谷 郁夫	武生商工会議所青年部(福井県)	副会長
〃	瀬出井 剛	武生商工会議所青年部会(福井県)	会長	〃	恩地 稔留	北大阪商工会議所青年部(大阪府)	元会長
〃	村田 清司	北大阪商工会議所青年部(大阪府)	元会長	〃	地村耕一良	洲本商工会議所青年部(兵庫県)	直前会長
〃	志方 正昭	高砂商工会議所青年部会(兵庫県)	直前会長	〃	黒埼 功	紀州有田商工会議所青年部(和歌山県)	直前会長
〃	遠藤 栄	平田商工会議所青年部(鳥根県)	直前代表理事	〃	縫谷 昌生	鳥取商工会議所青年部(鳥取県)	直前会長
〃	津本 憲一	津山商工会議所青年部(岡山県)	直前部長	〃	原 光	松江商工会議所青年部(鳥根県)	専務理事
〃	水尾 一二	坂出商工会議所青年部(香川県)	部長	〃	津本 憲一	津山商工会議所青年部(岡山県)	直前部長
〃	伊藤 剛吉	西条商工会議所青年部(愛媛県)	幹事	〃	田澤 義昭	鳴門商工会議所青年部(徳島県)	直前部長
〃	野田 佳男	須崎商工会議所青年部(高知県)	会長	〃	堅田清十郎	高知商工会議所青年部(高知県)	副会長
〃	滝本 竜也	鹿島商工会議所青年部(佐賀県)	直前会長	〃	永石 政利	鹿島商工会議所青年部(佐賀県)	顧問
〃	高瀬 嘉博	大村商工会議所青年部(長崎県)	直前会長	〃	町田 雅之	平戸商工会議所青年部(長崎県)	直前会長
〃	原田 和明	日向商工会議所青年部(宮崎県)	会長	〃	原田 和明	日向商工会議所青年部会(宮崎県)	直前会長
〃	石川 正一	那覇商工会議所青年部(沖縄県)	会長	〃	地増 徹	指宿商工会議所青年部(鹿児島県)	監事
監事	中島 宣夫	鎌倉商工会議所青年部(神奈川県)	直前代表理事	監事	近藤 博昭	上尾商工会議所青年部(埼玉県)	直前会長
〃	高橋 敬一	米子商工会議所青年部(鳥取県)	副会長	〃	水尾 一二	坂出商工会議所青年部(香川県)	直前会長
相談役	中田 高運	富山商工会議所青年部会(富山県)	O B	相談役	中山 昌男	土浦商工会議所青年部(茨城県)	会長
〃	竹中 勝治	高岡商工会議所青年部会(富山県)	O B	〃	曾我 隆一	前橋商工会議所青年部(群馬県)	O B
〃	深谷 邦夫	水戸商工会議所青年部(茨城県)	O B	〃	古川 伸二	福井商工会議所青年部(福井県)	元会長
〃	中山 昌男	土浦商工会議所青年部(茨城県)	会長	顧問	波多野 敦	日本商工会議所理事・中小企業振興部長	
〃	曾我 隆一	前橋商工会議所青年部(群馬県)	監事				
〃	清水 慶造	福井商工会議所青年部会(福井県)	相談役				
〃	菅 謹一郎	竹田商工会議所青年部会(大分県)	O B				
〃	安部谷次郎	豊後高田商工会議所青年部会(大分県)	相談役				
顧問	馬島 伸介	日本商工会議所中小企業振興部長					

年度	平成元年度			年度	平成2年度		
役職名	氏名	青年部名	青年部の役職	役職名	氏名	青年部名	青年部の役職
会長	石川 正一	那覇商工会議所青年部(沖縄県)	直前会長	会長	小林 幹生	岩国商工会議所青年部会(山口県)	顧問
副会長	奥田 利明	浦河商工会議所青年部(北海道)	直前会長	副会長	長岡 正勝	美唄商工会議所青年部(北海道)	監事
〃	鈴木 隆則	長井商工会議所青年部会(山形県)	直前会長	〃	中村 公英	青森商工会議所青年部(青森県)	部長
〃	中島 英一	村上商工会議所青年部(新潟県)	常任理事	〃	大愛 恒雄	富山商工会議所青年部会(富山県)	顧問
〃	山本 晃正	浜松商工会議所青年部(静岡県)	部長	〃	能澤 孝博	桐生商工会議所青年部(群馬県)	直前会長
〃	深川 寛治	関商工会議所青年部(岐阜県)	副会長	〃	市原 成章	名張商工会議所青年部会(三重県)	副会長
〃	後藤 忠毅	洲本商工会議所青年部(兵庫県)	元会長	〃	石原 将宏	彦根商工会議所青年部(滋賀県)	幹事
〃	小林 幹生	岩国商工会議所青年部(山口県)	直前部長	〃	津本 憲一	津山商工会議所青年部(岡山県)	監事
〃	水尾 一二	坂出商工会議所青年部(香川県)	直前会長	〃	和田 均	高知商工会議所青年部(高知県)	直前会長
〃	町田 雅之	平戸商工会議所青年部(長崎県)	顧問	〃	首藤 始	別府商工会議所青年部(大分県)	理事
理事	前田豊太郎	美幌商工会議所青年部(北海道)	部長	理事	荒井 範明	遠軽商工会議所青年部(北海道)	直前会長
〃	柳谷 萬	青森商工会議所青年部(青森県)	直前部長	〃	宮城 達男	仙台商店会青年部連合会(宮城県)	会長
〃	宮城 達男	仙台商店会青年部連合会(宮城県)	会長	〃	伊藤 健	大館商工会議所青年部(秋田県)	監事
〃	石森 成彦	福島商工会議所青年部(福島県)	商担青連理事	〃	高木 広文	山形商工会議所青年部(山形県)	常任理事
〃	友田 幸雄	魚津商工会議所青年部会(富山県)	直前会長	〃	野地 純一	郡山商工会議所青年部(福島県)	会長
〃	小松 正実	下諏訪商工会議所青年部(長野県)	副会長	〃	酒井 健一	燕商工会議所青年部(新潟県)	常任理事
〃	平松 克章	水戸商工会議所青年部(茨城県)	元会長	〃	倉島 信夫	松代商工会議所青年部(長野県)	元会長
〃	能澤 孝博	桐生商工会議所青年部(群馬県)	会長	〃	中川 清	土浦商工会議所青年部(茨城県)	会長
〃	渡辺 隆一	本庄商工会議所青年部(埼玉県)	直前会長	〃	加藤 敏夫	真岡商工会議所青年部(栃木県)	顧問
〃	宮田 克己	市川商工会議所青年部(千葉県)	監事	〃	新井 正男	大宮商工会議所青年部(埼玉県)	会長
〃	石原 新一	鎌倉商工会議所青年部(神奈川県)	直前代表理事	〃	溜川 良則	柏商工会議所青年部(千葉県)	監事
〃	前田 龍生	春日井商工会議所青年部(愛知県)	理事	〃	竹内 英明	横須賀商工会議所青年部(神奈川県)	監事
〃	広森 重孝	鈴鹿商工会議所青年部会(三重県)	直前会長	〃	松井 茂	関商工会議所青年部(岐阜県)	直前会長
〃	南谷 郁夫	武生商工会議所青年部(福井県)	監事	〃	前田 龍生	春日井商工会議所青年部(愛知県)	理事
〃	田中 伸治	彦根商工会議所青年部(滋賀県)	監事	〃	河瀬 一治	敦賀商工会議所青年部(福井県)	直前会長
〃	小西 真明	北大阪商工会議所青年部(大阪府)	元会長	〃	大西 信駿	北大阪商工会議所青年部(大阪府)	元会長
〃	原田 義之	高砂商工会議所青年部(兵庫県)	直前会長	〃	三好 啓介	高砂商工会議所青年部(兵庫県)	会計
〃	縫谷 昌生	鳥取商工会議所青年部(鳥取県)	直前会長	〃	沢井 啓祐	奈良商工会議所青年部(奈良県)	監事
〃	永通 烈志	松江商工会議所青年部(島根県)	専務理事	〃	長谷川泰二	米子商工会議所青年部(鳥取県)	副会長
〃	津本 憲一	津山商工会議所青年部(岡山県)	直前部長	〃	永通 烈志	松江商工会議所青年部(島根県)	専務理事
〃	堺 克由	徳島商工会議所青年部(徳島県)	会長	〃	堺 克由	徳島商工会議所青年部(徳島県)	直前会長
〃	宮本茂太郎	八幡浜商工会議所青年部(愛媛県)	監事	〃	大西 治	観音寺商工会議所青年部(香川県)	監事
〃	和田 均	高知商工会議所青年部(高知県)	会長	〃	曾根 健	大洲商工会議所青年部会(愛媛県)	直前副会長
〃	福井 正	鹿島商工会議所青年部(佐賀県)	理事	〃	鈴木 和幸	鹿島商工会議所青年部(佐賀県)	直前会長
〃	首藤 始	別府商工会議所青年部(大分県)	理事	〃	牧山 暢茂	平戸商工会議所青年部(長崎県)	直前会長
〃	三輪 征司	日向商工会議所青年部会(宮崎県)	直前会長	〃	富田 正水	高鍋商工会議所青年部(宮崎県)	直前会長
〃	池増 徹	指宿商工会議所青年部(鹿児島県)	監事	〃	与那嶺智雄	沖縄宮古商工会議所青年部(沖縄県)	監事
監事	伊藤 健	大館商工会議所青年部(秋田県)	監事	監事	上條 紀英	清水商工会議所青年部(静岡県)	直前会長
〃	津布久正明	小山商工会議所青年部(栃木県)	部長	〃	光廣 雅治	岩国商工会議所青年部会(山口県)	理事
相談役	萩原 幸昭	原町商工会議所青年部(福島県)	O B	相談役	古川 伸二	福井商工会議所青年部(福井県)	顧問
〃	中山 昌男	土浦商工会議所青年部(茨城県)	元会長	〃	萩原 幸昭	原町商工会議所青年部(福島県)	O B
〃	古川 伸二	福井商工会議所青年部(福井県)	相談役	〃	石川 正一	那覇商工会議所青年部(沖縄県)	監事
顧問	波多野 敦	日本商工会議所理事・中小企業振興部長	顧問	顧問	馬島 伸介	日本商工会議所理事・中小企業振興部長	顧問



年度	平成3年度			年度	平成4年度		
役職名	氏名	青年部名	青年部の役職	役職名	氏名	青年部名	青年部の役職
会長	和田 均	高知商工会議所青年部(高知県)	相談役理事	会長	神谷 竹彦	浜松商工会議所青年部(静岡県)	監事
副会長	荒井 範明	遠軽商工会議所青年部(北海道)	直前会長	副会長	奥野 賢一	岩見沢商工会議所青年部(北海道)	出向理事
〃	野地 純一	郡山商工会議所青年部(福島県)	直前会長	〃	徳増 良平	石巻商工会議所青年部(宮城県)	副会長
〃	伊藤 光雄	新湊商工会議所青年部(富山県)	顧問	〃	相川 隆二	滑川商工会議所青年部(富山県)	相談役
〃	神谷 竹彦	浜松商工会議所青年部(静岡県)	監事	〃	友部 英一	日立商工会議所青年部(茨城県)	監事
〃	辻 正敏	津商工会議所青年部(三重県)	会長	〃	辻 正敏	津商工会議所青年部(三重県)	会長
〃	民輪 正秀	加西商工会議所青年部(兵庫県)	直前会長	〃	永井 弘明	福井商工会議所青年部(福井県)	理事
〃	長谷川泰二	米子商工会議所青年部(鳥取県)	会長	〃	櫻井 誠己	松江商工会議所青年部(島根県)	直前会長
〃	堺 克由	徳島商工会議所青年部(徳島県)	直前会長	〃	芳 敬規	高松商工会議所青年部(香川県)	相談役
〃	与那嶺誓雄	沖繩宮古商工会議所青年部(沖繩県)	理事	〃	高武 幸一	山鹿商工会議所青年部(熊本県)	直前会長
理事	奥野 賢一	岩見沢商工会議所青年部(北海道)	監事	理事	大山 隆	帯広商工会議所青年部(北海道)	会長
〃	吉田 健彦	北上商工会議所青年部(岩手県)	部長	〃	對馬 忠雄	青森商工会議所青年部(青森県)	会長
〃	大槻 勝男	石巻商工会議所青年部(宮城県)	直前会長	〃	藤本 純一	花巻商工会議所青年部(岩手県)	会長
〃	賢木 新悦	秋田青年経営者協会(秋田県)	代表幹事	〃	賢木 新悦	秋田商工会議所青年部(秋田県)	会長
〃	三澤 啓治	山形商工会議所青年部(山形県)	直前会長	〃	佐藤善三郎	山形商工会議所青年部(山形県)	副会長
〃	高橋 哲男	亀田商工会議所青年部(新潟県)	直前会長	〃	加藤 利夫	福島商工会議所青年部(福島県)	直前会長
〃	藤沢 純一	中野商工青年会議(長野県)	直前議長	〃	山田 真嗣	新発田商工会議所青年部(新潟県)	直前会長
〃	中川 清	土浦商工会議所青年部(茨城県)	直前会長	〃	柳澤 正七	諏訪商工会議所青年部(長野県)	副会長
〃	大津 輝男	足利商工会議所青年部(栃木県)	副会長	〃	野口 起生	小山商工会議所青年部(栃木県)	直前会長
〃	浅倉 文義	川口商工会議所青年部(埼玉県)	会長	〃	都丸 武雄	沼田商工会議所青年部(群馬県)	理事
〃	溜川 良則	柏商工会議所青年部(千葉県)	理事	〃	小林 満	与野商工会議所青年部(埼玉県)	会長
〃	井上 敦久	小田原商工会議所青年部(神奈川県)	相談役	〃	竝木 晴生	千葉商工会議所青年部(千葉県)	監事
〃	小瀬木 敏	関商工会議所青年部(岐阜県)	直前会長	〃	田口 優一	恵那商工会議所青年部(岐阜県)	直前部長
〃	大橋 義正	瀬戸商工会議所青年部(愛知県)	副会長	〃	加藤 元彦	瀬戸商工会議所青年部(愛知県)	直前会長
〃	永井 弘明	福井商工会議所青年部(福井県)	理事	〃	大洞 共一	八日市商工会議所青年部(滋賀県)	副会長
〃	石原 将宏	彦根商工会議所青年部(滋賀県)	副会長	〃	田和 良範	宇治商工会議所青年部(京都府)	直前会長
〃	田和 良範	宇治商工会議所青年部(京都府)	部長	〃	土居 正明	守口門真商工会議所青年部(大阪府)	直前会長
〃	土居 正明	守口門真商工会議所青年部(大阪府)	直前部長	〃	迫田 茂夫	豊岡商工会議所青年部(兵庫県)	出向理事
〃	櫻井 誠己	松江商工会議所青年部(島根県)	会長	〃	岡本正一郎	奈良商工会議所青年部(奈良県)	直前会長
〃	光廣 雅治	岩国商工会議所青年部(山口県)	理事	〃	寛	鳥取商工会議所青年部(鳥取県)	出向理事
〃	芳 敬規	高松商工会議所青年部(香川県)	会長	〃	高越 哲彦	玉島商工会議所青年部(岡山県)	会長
〃	曾根 健	大洲商工会議所青年部(愛媛県)	理事	〃	片野 静次	下関商工会議所青年部(山口県)	顧問
〃	永野 正展	高知商工会議所青年部(高知県)	副会長	〃	喜多 修司	鴨島商工会議所青年部(徳島県)	直前会長
〃	牧山 暢茂	平戸商工会議所青年部(長崎県)	顧問	〃	曾根 健	大洲商工会議所青年部(愛媛県)	理事
〃	高武 幸一	山鹿商工会議所青年部(熊本県)	九州ブロック大会実行委員長	〃	渡辺 孝夫	安芸商工会議所青年部(高知県)	会長
〃	首藤 始	別府商工会議所青年部(大分県)	理事	〃	河部 順吉	山田商工会議所青年部(福岡県)	県連会長
〃	三輪 治夫	日向商工会議所青年部(宮崎県)	理事	〃	北古賀恒介	平戸商工会議所青年部(長崎県)	直前会長
監事	岡田 和夫	太田商工会議所青年部(群馬県)	直前会長	〃	佐藤 成一	津久見商工会議所青年部(大分県)	経営研修委員
〃	難波 務	津山商工会議所青年部(岡山県)	直前会長	〃	上原 誠	日向商工会議所青年部(宮崎県)	専務理事
相談役	萩原 幸昭	原町商工会議所青年部(福島県)	O B	〃	長谷部 廣	沖繩商工会議所青年部(沖繩県)	監事
〃	石川 正一	那覇商工会議所青年部(沖縄県)	監事	監事	浦上 裕史	相模原商工会議所青年部(神奈川県)	相談役
〃	小林 幹生	岩国商工会議所青年部(山口県)	顧問	〃	久野 富男	浜松商工会議所青年部(静岡県)	会長
顧問	藤波 洋	日本商工会議所中小企業振興部長		相談役	石川 正一	那覇商工会議所青年部(沖縄県)	相談役
				〃	小林 幹生	岩国商工会議所青年部(山口県)	顧問
				〃	和田 均	高知県商工会議所青年部(高知県)	相談役理事
				顧問	藤波 洋	日本商工会議所中小企業振興部長	

年度	平成5年度			年度	平成6年度		
役職名	氏名	青年部名	青年部の役職	役職名	氏名	青年部名	青年部の役職
会長	櫻井 誠己	松江商工会議所青年部(鳥根県)	監事	会長	佐藤善三郎	山形商工会議所青年部(山形県)	直前会長
副会長	佐藤善三郎	山形商工会議所青年部(山形県)	会長	副会長	辻 正敏	津商工会議所青年部(三重県)	直前会長
〃	大山 隆	帯広商工会議所青年部(北海道)	会長	〃	宮 正弘	恵庭商工会議所青年部(北海道)	直前会長
〃	藤木 純一	花巻商工会議所青年部(岩手県)	顧問	〃	賢木 新悦	秋田商工会議所青年部(秋田県)	直前会長
〃	中島 善夫	村上商工会議所青年部(新潟県)	常任理事	〃	古旗 明	塩尻商工会議所青年部(長野県)	会長
〃	土屋 雅義	千葉商工会議所青年部(千葉県)	会長	〃	小泉光一郎	平塚商工会議所青年部(神奈川県)	理事
〃	竹内 光伸	津商工会議所青年部(三重県)	理事	〃	長谷川義信	関商工会議所青年部(岐阜県)	直前会長
〃	田和 良範	宇治商工会議所青年部(京都府)	直前会長	〃	角口 賀敏	新宮商工会議所青年部(和歌山県)	会長
〃	高越 哲彦	玉島商工会議所青年部(岡山県)	直前会長	〃	小谷 寛	鳥取商工会議所青年部(鳥取県)	商出青連 出向役員
〃	矢野 精一	今治商工会議所青年部(愛媛県)	副会長	〃	竹内 豊	高知商工会議所青年部(高知県)	相談役理事
〃	倉田 正平	久留米商工会議所青年部(福岡県)	理事	〃	向井 俊夫	奄美大島商工会議所青年部(鹿児島県)	直前会長
専務理事	辻 正敏	津商工会議所青年部(三重県)	会長	専務理事	徳増 良平	石巻商工会議所青年部(宮城県)	副会長
理事	宮 正弘	恵庭商工会議所青年部(北海道)	直前会長	理事	河原 勝治	根室商工会議所青年部(北海道)	会長
〃	島守 賢	八戸商工会議所青年部(青森県)	会長	〃	斎藤 謙一	弘前商工会議所青年部(青森県)	会長
〃	中村 真	石巻商工会議所青年部(宮城県)	専務理事	〃	箱崎 俊介	花巻商工会議所青年部(岩手県)	会長
〃	賢木 新悦	秋田商工会議所青年部(秋田県)	会長	〃	吉田 順一	古川商工会議所青年部(宮城県)	監事
〃	松本 秀一	郡山商工会議所青年部(福島県)	直前会長	〃	新関 芳則	山形商工会議所青年部(山形県)	副会長
〃	三国 憲一	氷見商工会議所青年部(富山県)	特別理事	〃	阿部 清一	五泉商工会議所青年部(新潟県)	常任理事
〃	大箱 知治	輪島商工会議所青年部(石川県)	特別理事	〃	川端 康夫	黒部商工会議所青年部(富山県)	常任理事
〃	高木 常吉	下諏訪商工会議所青年部(長野県)	会長	〃	森山外志夫	七尾商工会議所青年部(石川県)	直前会長
〃	小松 義昭	勝田商工会議所青年部(茨城県)	直前会長	〃	大津 輝男	足利商工会議所青年部(栃木県)	会長
〃	鶴見 真	真岡商工会議所青年部(栃木県)	副会長	〃	西場 伸一	桐生商工会議所青年部(群馬県)	会長
〃	金井 良和	前橋商工会議所青年部(群馬県)	直前代表幹事	〃	矢野 元久	熊谷商工会議所青年部(埼玉県)	会長
〃	小泉光一郎	平塚商工会議所青年部(神奈川県)	監事	〃	市村日出夫	柏商工会議所青年部(千葉県)	商出青連 出向役員
〃	市川 照	静岡商工会議所青年部(静岡県)	副会長	〃	山口 憲三	沼津商工会議所青年部(静岡県)	特別幹事
〃	樋田 芳久	恵那商工会議所青年部(岐阜県)	常任理事	〃	三浦 一夫	豊田商工会議所青年部(愛知県)	特別理事
〃	樋口 隆	岡崎商工会議所青年部(愛知県)	副会長	〃	永杉 宏之	鯖江商工会議所青年部(福井県)	直前会長
〃	加藤 団秀	鯖江商工会議所青年部(福井県)	理事	〃	岸本 登	大津商工会議所青年部(滋賀県)	直前会長
〃	大洞 共一	八日市商工会議所青年部(滋賀県)	副会長	〃	津田 純一	京都商工会議所青年部(京都府)	理事
〃	小川 裕吉	八尾商工会議所青年部(大阪府)	特別顧問	〃	大西 信駿	北大阪商工会議所青年部(大阪府)	理事
〃	中西 修二	洲本商工会議所青年部(兵庫県)	直前会長	〃	小林 泰造	加古川商工会議所青年部(兵庫県)	会長
〃	角口 賀敏	新宮商工会議所青年部(和歌山県)	会長	〃	本出 良一	奈良商工会議所青年部(奈良県)	顧問
〃	本出 良一	奈良商工会議所青年部(奈良県)	直前会長	〃	佐貫 公一	出雲商工会議所青年部(鳥根県)	直前会長
〃	桐田 哲	益田商工会議所青年部(鳥根県)	副会長	〃	宇治郷 亘	岡山商工会議所青年部(岡山県)	副会長
〃	岡本 憲治	徳山商工会議所青年部(山口県)	顧問	〃	児玉 英治	宇部商工会議所青年部(山口県)	顧問
〃	西野賢太郎	阿南商工会議所青年部(徳島県)	会長	〃	佐藤 允男	徳島商工会議所青年部(徳島県)	直前会長
〃	林 康清	善通寺商工会議所青年部(香川県)	会長	〃	藤田 耕平	観音寺商工会議所青年部(香川県)	直前会長
〃	竹内 豊	高知商工会議所青年部(高知県)	相談役	〃	近藤 晴雄	西条商工会議所青年部(愛媛県)	顧問
〃	宮本 成治	伊万里商工会議所青年部(佐賀県)	アドバイザー	〃	山田 良治	柳川商工会議所青年部(福岡県)	監事
〃	林田 正剛	鳥原商工会議所青年部(長崎県)	直前会長	〃	宮本 成治	伊万里商工会議所青年部(佐賀県)	アドバイザー
〃	中原 幹雄	山鹿商工会議所青年部(熊本県)	会長	〃	松田 祥吾	長崎商工会議所青年部(長崎県)	副会長
〃	都 信親	佐賀関商工会議所青年部(大分県)	県連会長	〃	本田 幸嗣	山鹿商工会議所青年部(熊本県)	会長
〃	中村 省吾	串間商工会議所青年部(宮崎県)	常任理事	〃	束納 英一	中津商工会議所青年部(大分県)	県連出向役員
〃	向井 俊夫	奄美大島商工会議所青年部(鹿児島県)	直前会長	〃	中村 省吾	串間商工会議所青年部(宮崎県)	副会長
〃	寄川 孝勇	那覇商工会議所青年部(沖縄県)	会長	〃	佐和田玄勇	沖繩宮古商工会議所青年部(沖縄県)	理事
監事	池上 東二	蕨商工会議所青年部(埼玉県)	会長	監事	小林 良行	会津若松商工会議所青年部(福島県)	会長
〃	小谷 寛	鳥取商工会議所青年部(鳥取県)	理事	〃	小松 義昭	勝田商工会議所青年部(茨城県)	監事
直前会長	神谷 竹彦	浜松商工会議所青年部(静岡県)	顧問	直前会長	櫻井 誠己	松江商工会議所青年部(鳥根県)	監事
相談役	小林 幹生	岩国商工会議所青年部(山口県)	顧問	相談役	和田 均	高知商工会議所青年部(高知県)	特別会員
〃	和田 均	高知商工会議所青年部(高知県)	相談役理事	〃	神谷 竹彦	浜松商工会議所青年部(静岡県)	顧問
顧問	山本 宣尚	日本商工会議所中小企業振興部長	顧問	顧問	山本 宣尚	日本商工会議所中小企業振興部長	顧問

年度	平成7年度				年度	平成8年度			
役職名	氏名	青年部名	青年部の役職		役職名	氏名	青年部名	青年部の役職	
会長	辻 正敏	津商工会議所青年部(三重県)	直前会長	会長	松田 祥吾	長崎商工会議所青年部(長崎県)	相談役		
副会長	松田 祥吾	長崎商工会議所青年部(長崎県)	直前会長	副会長	大村 晴利	大宮商工会議所青年部(埼玉県)	直前会長		
〃	賢木 新悦	秋田商工会議所青年部(秋田県)	直前会長	〃	笹垣 正弘	八戸商工会議所青年部(青森県)	会長		
〃	角口 賀敏	新宮商工会議所青年部(和歌山県)	顧問	〃	古泉 幸一	亀田商工会議所青年部(新潟県)	会長		
〃	向井 俊夫	奄美大島商工会議所青年部(鹿児島県)	顧問	〃	竹内 豊	高知商工会議所青年部(高知県)	副会長		
専務理事	石原 将宏	彦根商工会議所青年部(滋賀県)	監事	専務理事	河井 達志	鹿児島商工会議所青年部(鹿児島県)	直前会長		
ブロック代表理事	仁志 方紀	岩見沢商工会議所青年部(北海道)	相談役	ブロック代表理事	入倉 伸一	岩見沢商工会議所青年部(北海道)	出向理事		
〃	新関 芳則	山形商工会議所青年部(山形県)	商出青連理事	〃	稲田 稔	八戸商工会議所青年部(青森県)	副会長		
〃	河原 誠	砺波商工会議所青年部(富山県)	理事	〃	松井 正二	掛川商工会議所青年部(静岡県)	直前会長		
〃	青柳 政和	鹿沼商工会議所青年部(栃木県)	会長	〃	伏江 努	高岡商工会議所青年部(富山県)	商出青連役員		
〃	板垣 清志	豊田商工会議所青年部(愛知県)	直前会長	〃	田中 健児	関商工会議所青年部(岐阜県)	副会長		
〃	保田 勝弘	高石商工会議所青年部(大阪府)	会長	〃	川瀬 雅人	彦根商工会議所青年部(滋賀県)	会長		
〃	徳田 俊夫	柳井商工会議所青年部(山口県)	直前会長	〃	里見 泰男	倉吉商工会議所青年部(鳥取県)	理事		
〃	佐藤 充男	徳島商工会議所青年部(徳島県)	直前会長	〃	溝淵 裕司	丸亀商工会議所青年部(香川県)	特別顧問		
〃	香田 和彦	伊万里商工会議所青年部(佐賀県)	アドバイザー	〃	松川 茂	佐世保商工会議所青年部(長崎県)	特別理事		
総務委員長	市村日出夫	柏商工会議所青年部(千葉県)	商出青連理事	総務委員長	木川総一郎	松戸商工会議所青年部(千葉県)	出向理事		
研修第1委員長	長谷川義信	関商工会議所青年部(岐阜県)	相談役	研修第1(企長)委員長(研修)委員長	足立 善信	吹田商工会議所青年部(大阪府)	特別顧問		
研修第2委員長	津田 純一	京都商工会議所青年部(京都府)	監事	〃	兄玉龍之介	小林商工会議所青年部(宮崎県)	直前会長		
広報委員長	古泉 幸一	亀田商工会議所青年部(新潟県)	会長	広報委員長	鈴木 肇	藤沢商工会議所青年部(神奈川県)	副会長		
特別委員長	河井 達志	鹿児島商工会議所青年部(鹿児島県)	会長	特別委員長	鈴木 禎夫	郡山商工会議所青年部(福島県)	直前会長		
理事	大西 栄	美幌商工会議所青年部(北海道)	副会長	理事	小林 一磨	滝川商工会議所青年部(北海道)	商出青連理事		
〃	笹垣 正弘	八戸商工会議所青年部(青森県)	会長	〃	花坂康太郎	宮古商工会議所青年部(岩手県)	会長		
〃	澤田 政男	釜石商工会議所青年部(岩手県)	会長	〃	相原 功	塩釜商工会議所青年部(宮城県)	副会長		
〃	佐藤 英一	石巻商工会議所青年部(宮城県)	直前会長	〃	佐々木正光	秋田商工会議所青年部(秋田県)	副会長		
〃	阿部 和夫	湯沢商工会議所青年部(秋田県)	会長	〃	小泉 雅行	米沢商工会議所青年部(山形県)	直前会長		
〃	三浦 光博	いわき商工会議所青年部(福島県)	直前会長	〃	溝口 光幸	石岡商工会議所青年部(茨城県)	直前会長		
〃	野沢 豊輔	古河商工会議所青年部(茨城県)	理事	〃	若菜 秀夫	栃木商工会議所青年経営者会(栃木県)	会長		
〃	伊能 富雄	伊勢崎商工会議所青年部(群馬県)	直前会長	〃	小暮 高史	館林商工会議所青年部(群馬県)	会長		
〃	大村 晴利	大宮商工会議所青年部(埼玉県)	会長	〃	江藤 雅治	狭山商工会議所青年部(埼玉県)	会長		
〃	大川 隆	厚木商工会議所青年部(神奈川県)	特別理事	〃	萬谷 正幸	加賀商工会議所青年部(石川県)	直前会長		
〃	平田 利久	松任商工会議所青年部(石川県)	直前会長	〃	市村 清二	中野商工会議所青年会議(長野県)	理事		
〃	山崎 宗夫	松代商工会議所青年部(長野県)	理事	〃	東浦 右智	半田商工会議所青年部(愛知県)	県連・商青連出向役員		
〃	小形 善信	武生商工会議所青年部(福井県)	商出青連理事	〃	奥村 完司	伊勢商工会議所青年部(三重県)	副会長		
〃	北川 恭司	守山商工会議所青年部(滋賀県)	直前会長	〃	酒井 義博	勝山商工会議所青年部(福井県)	県連会長		
〃	小木曾 優	赤穂商工会議所青年部(兵庫県)	商出青連理事	〃	松山 茂	亀岡商工会議所青年部(京都府)	直前会長		
〃	岡井 孝憲	奈良商工会議所青年部(奈良県)	顧問	〃	岩本 学	相生商工会議所青年部(兵庫県)	理事		
〃	門 靖夫	新宮商工会議所青年部(和歌山県)	会長代行	〃	吉本 博次	奈良商工会議所青年部(奈良県)	会長		
〃	里見 泰男	倉吉商工会議所青年部(鳥取県)	企画室長	〃	黒埼 功	紀州有田商工会議所青年部(和歌山県)			
〃	阿郷 一日	浜田商工会議所青年部(鳥根県)	理事	〃	園 裕	平田商工会議所青年部(鳥根県)	直前会長		
〃	津国 昭夫	玉野商工会議所青年部(岡山県)	特別理事	〃	難波 圭吾	総社商工会議所青年部(岡山県)	直前会長		
〃	溝淵 祐司	丸亀商工会議所青年部(香川県)	特別顧問	〃	北島 重利	徳島商工会議所青年部(徳島県)	会長		
〃	野村 忠秀	松山商工会議所青年部(愛媛県)	理事	〃	森川 元明	伊予三島商工会議所青年部(愛媛県)	顧問		
〃	福田 充	中村商工会議所青年部(高知県)	会長	〃	海地 雅弘	須崎商工会議所青年部(高知県)	会長		
〃	橋本 安彦	久留米商工会議所青年部(福岡県)	常任理事	〃	井上 康憲	豊前商工会議所青年部(福岡県)			
〃	松尾 正洋	長崎商工会議所青年部(長崎県)	特別理事	〃	西村 博	小城商工会議所青年部(佐賀県)	監事		
〃	井口 圭祐	山鹿商工会議所青年部(熊本県)	直前会長	〃	宮川 卓久	山鹿商工会議所青年部(熊本県)	直前会長		
〃	川北 祐司	大分商工会議所青年部(大分県)	直前会長	〃	樋口 良一	別府商工会議所青年部(大分県)	直前会長		
〃	兄玉龍之介	小林商工会議所青年部(宮崎県)	直前会長	〃	武田 晶子	鹿児島商工会議所青年部(鹿児島県)	県連出向理事		
〃	高良 直宏	沖繩商工会議所青年部(沖繩県)	理事	〃	佐久本 稔	那覇商工会議所青年部(沖繩県)	理事		
監事	中山 幹雄	清水商工会議所青年部(静岡県)	副会長	監事	捧 和雄	燕商工会議所青年部(新潟県)	理事		
〃	伊藤 整	尾鷲商工会議所青年部(三重県)	副会長	〃	安本 政人	岩国商工会議所青年部(山口県)	直前会長		
直前会長	佐藤善三郎	山形商工会議所青年部(山形県)	直前会長	直前会長	辻 正敏	津商工会議所青年部(三重県)	特別顧問		
相談役	神谷 竹彦	浜松商工会議所青年部(静岡県)	顧問	相談役	櫻井 誠己	松江商工会議所青年部(鳥根県)			
〃	櫻井 誠己	松江商工会議所青年部(鳥根県)	監事	〃	佐藤善三郎	山形商工会議所青年部(山形県)	顧問		
顧問	畔上 弘	日本商工会議所中小企業振興部長		顧問	近藤 英明	日本商工会議所中小企業振興部長			

年度	平成9年度			年度	平成10年度		
役職名	氏名	青年部名	青年部の役職	役職名	氏名	青年部名	青年部の役職
会長	大村 晴利	大宮商工会議所青年部(埼玉県)	直前会長	会長	吉本 博次	奈良商工会議所青年部(奈良県)	監事
直前会長	松田 祥吾	長崎商工会議所青年部(長崎県)	特別会長	直前会長	大村 晴利	大宮商工会議所青年部(埼玉県)	相談役
副会長	吉本 博次	奈良商工会議所青年部(奈良県)	直前会長	副会長	北島 重利	徳島商工会議所青年部(徳島県)	直前会長
〃	鈴木 禎夫	郡山商工会議所青年部(福島県)	出向理事	〃	六本木信幸	伊勢崎商工会議所青年部(群馬県)	商出青理事
〃	足立 善信	吹田商工会議所青年部(大阪府)	相談役	〃	田口 元美	各務原商工会議所青年部(岐阜県)	監事
〃	河井 達志	鹿児島商工会議所青年部(鹿児島県)	直前会長	〃	松本 晴之	米子商工会議所青年部(鳥取県)	理事
専務理事	木川総一郎	松戸商工会議所青年部(千葉県)	出向理事	専務理事	東浦 右智	半田商工会議所青年部(愛知県)	商出青理事
ブロック代表理事	菊地 崇之	滝川商工会議所青年部(北海道)	直前会長	ブロック代表理事	羽澤 純男	登別商工会議所青年部(北海道)	直前会長
〃	伊藤 裕康	会津若松商工会議所青年部(福島県)	相談役	〃	千葉富士夫	古川商工会議所青年部(宮城県)	直前会長
〃	六本木信幸	伊勢崎商工会議所青年部(群馬県)	直前会長	〃	新 精一	深谷商工会議所青年部(埼玉県)	直前会長
〃	神保 義雄	加茂商工会議所青年部(新潟県)	直前会長	〃	霜田 剛	須坂商工会議所青年部(長野県)	直前会長
〃	菅内 章夫	久居商工会議所青年部(三重県)	専務理事	〃	伊藤 正幸	豊川商工会議所青年部(愛知県)	県連会長
〃	富岡 正幸	龍野商工会議所青年部(兵庫県)	副会長	〃	加藤 団秀	鯖江商工会議所青年部(福井県)	直前会長
〃	石井 秀明	岡山商工会議所青年部(岡山県)	特別理事	〃	河村 雅伸	小野田商工会議所青年部(山口県)	直前会長
〃	野村 忠秀	松山商工会議所青年部(愛媛県)	県出青理事	〃	野村 裕	高知商工会議所青年部(高知県)	副会長
〃	武内 義典	中津商工会議所青年部(大分県)	特別理事	〃	又吉 正信	浦添商工会議所青年部(沖縄県)	県連会長
総務委員長	織田 喜詳	豊橋商工会議所青年部(愛知県)	県連会長	総務委員長	福田 有史	久留米商工会議所青年部(福岡県)	商出青理事
企画委員長	後藤 薫	青森商工会議所青年部(青森県)	副会長	企画委員長	山本 吉己	袋井商工会議所青年部(静岡県)	監事
研修委員長	宮川 卓久	山鹿商工会議所青年部(熊本県)	出向理事	研修委員長	伊藤 幸一	松江商工会議所青年部(島根県)	監事
広報委員長	浜田 秀志	魚津商工会議所青年部(富山県)	常任理事	広報委員長	河波忠兵衛	京都商工会議所青年部(京都府)	監事
特別委員長	八木 季和	亀岡商工会議所青年部(京都府)	直前会長	特別委員長	佐々木正光	秋田商工会議所青年部(秋田県)	商出青理事
記念誌特別委員長	松本 晴之	米子商工会議所青年部(鳥取県)	直前会長	理事	加城 祐史	網走商工会議所青年部(北海道)	副会長
理事	猪股 啓介	登別商工会議所青年部(北海道)	副会長	〃	倉橋 純造	青森商工会議所青年部(青森県)	会長
〃	鈴木 明	一関商工会議所青年部(岩手県)	会長	〃	高橋 弘司	花巻商工会議所青年部(岩手県)	顧問
〃	千葉 基	古川商工会議所青年部(宮城県)	商出青理事	〃	石澤 聡	天童商工会議所青年部(山形県)	商出青理事
〃	明間 重遠	大館商工会議所青年部(秋田県)	直前会長	〃	大平 均	いわき商工会議所青年部(福島県)	直前会長
〃	齋藤 明彦	米沢商工会議所青年部(山形県)	副会長	〃	永井 隆	水戸商工会議所青年部(茨城県)	直前会長
〃	五来 敬一	日立商工会議所青年部(茨城県)	理事	〃	日下野 隆	足利商工会議所青年部(栃木県)	直前会長
〃	辻 博明	宇都宮商工会議所青年部(栃木県)	会長	〃	村田 茂行	藤岡商工会議所青年部(群馬県)	直前会長
〃	宇井 成一	佐原商工会議所青年部(千葉県)	県出青理事	〃	宇井 成一	佐原商工会議所青年部(千葉県)	顧問理事
〃	秋山 純夫	秦野商工会議所青年部(神奈川県)	副会長	〃	数田 亨	茅ヶ崎商工会議所青年部(神奈川県)	特別理事
〃	志田 眞澄	富士商工会議所青年部(静岡県)	理事	〃	原山 博臣	新津商工会議所青年部(新潟県)	副会長
〃	中根 邦信	掛川商工会議所青年部(静岡県)	直前会長	〃	米田 隆彦	新湊商工会議所青年部(富山県)	顧問
〃	木下 伸一	輪島商工会議所青年部(石川県)	直前会長	〃	篠田 好充	各務原商工会議所青年部(岐阜県)	相談役
〃	倉科 誠	大町商工会議所青年部(長野県)	理事	〃	世古 貢	鳥羽商工会議所青年部(三重県)	副会長
〃	田口 元美	各務原商工会議所青年部(岐阜県)	相談役	〃	服部 起久央	大津商工会議所青年部(滋賀県)	副会長
〃	南部 隆保	大野商工会議所青年部(福井県)	理事	〃	西岡 照晃	八尾商工会議所青年部(大阪府)	特別顧問
〃	林寺 篤	八日市商工会議所青年部(滋賀県)	幹事	〃	秋元 吉晴	高砂商工会議所青年部(兵庫県)	副会長
〃	久保田嘉孝	奈良商工会議所青年部(奈良県)	商出青理事	〃	今西 泰宏	奈良商工会議所青年部(奈良県)	監事
〃	玉置 貴彦	田辺商工会議所青年部(和歌山県)	理事	〃	森下 祐治	橋本商工会議所青年部(和歌山県)	
〃	斎藤 宣夫	大田商工会議所青年部(鳥根県)	監事	〃	石破 達己	鳥取商工会議所青年部(鳥取県)	直前会長
〃	西本 聡士	光商工会議所青年部(山口県)	直前会長	〃	西下 裕平	岡山商工会議所青年部(岡山県)	直前会長
〃	北島 重利	徳島商工会議所青年部(徳島県)	直前会長	〃	廣瀬 習	坂出商工会議所青年部(香川県)	直前会長
〃	江見 壽建	高松商工会議所青年部(香川県)	会長	〃	村上 幸司	今治商工会議所青年部(愛媛県)	
〃	野村 裕	高知商工会議所青年部(高知県)	相談役理事	〃	井手 親良	伊万里商工会議所青年部(佐賀県)	アドバイザー
〃	安徳 政司	筑後商工会議所青年部(福岡県)	直前会長	〃	三戸 雅彦	長崎商工会議所青年部(長崎県)	理事
〃	前田 恭宏	唐津商工会議所青年部(佐賀県)	県連会長	〃	吉富 健一	熊本商工会議所青年部(熊本県)	
〃	川西 弘二	長崎商工会議所青年部(長崎県)	直前会長	〃	富沢 裕史	佐伯商工会議所青年部(大分県)	
〃	黒木 敏之	高鍋商工会議所青年部(宮崎県)	副会長	〃	宮下繁一郎	宮崎商工会議所青年部(宮崎県)	
〃	大西 儀朋	鹿児島商工会議所青年部(鹿児島県)	出向理事	〃	牧野啓一郎	鹿児島商工会議所青年部(鹿児島県)	商出青理事
〃	平江 俊和	沖縄商工会議所青年部(沖縄県)	県連会長	監事	白井 修	七尾商工会議所青年部会(石川県)	直前会長
監事	新 精一	深谷商工会議所青年部(埼玉県)	埼玉ブロック長	〃	古川 博	阿南商工会議所青年部(徳島県)	直前会長
〃	紙浦 肇	泉佐野商工会議所青年部(大阪府)	直前会長	相談役	辻 正敏	津商工会議所青年部(三重県)	
相談役	辻 正敏	津商工会議所青年部(三重県)	特別顧問	〃	松田 祥吾	長崎商工会議所青年部(長崎県)	
〃	佐藤善三郎	山形商工会議所青年部(山形県)	顧問	顧問	近藤 英明	日本商工会議所中小企業振興部長	
顧問	近藤 英明	日本商工会議所中小企業振興部長					

年度	平成 11 年度			年度	平成 12 年度		
役職名	氏名	青年部名	青年部の役職	役職名	氏名	青年部名	青年部の役職
会長	北島 重利	徳島商工会議所青年部 (徳島県)	相談役	会長	倉橋 純造	青森商工会議所青年部 (青森県)	直前会長
直前会長	吉本 博次	奈良商工会議所青年部 (奈良県)	相談役	直前会長	北島 重利	徳島商工会議所青年部 (徳島県)	顧問
副会長	倉橋 純造	青森商工会議所青年部 (青森県)	直前会長	副会長	古泉 幸一	亀田商工会議所青年部 (新潟県)	常任理事
〃	永井 隆	水戸商工会議所青年部 (茨城県)	理事	〃	宇井 成一	佐原商工会議所青年部 (千葉県)	顧問
〃	加藤 団秀	鯖江商工会議所青年部 (福井県)	出向理事	〃	服部起久央	大津商工会議所青年部 (滋賀県)	直前会長
〃	福田 有史	久留米商工会議所青年部 (福岡県)	出向理事	〃	矢口 伸二	浜田商工会議所青年部 (鳥根県)	
専務理事	野村 忠秀	松山商工会議所青年部 (愛媛県)	理事	専務理事	千葉富士夫	古川商工会議所青年部 (宮城県)	監事
ブロック代表理事	加城 祐史	網走商工会議所青年部 (北海道)		ブロック代表理事	村井 順一	釧路商工会議所青年部 (北海道)	
〃	関根 敏伸	北上商工会議所青年部 (岩手県)	直前会長	〃	高橋 弘隆	湯沢商工会議所青年部 (秋田県)	顧問
〃	宇井 成一	佐原商工会議所青年部 (千葉県)	顧問	〃	嶋田 純夫	秦野商工会議所青年部 (神奈川県)	直前会長
〃	里谷 光弘	輪島商工会議所青年部 (石川県)		〃	嶋田 茂	水見商工会議所青年部 (富山県)	
〃	前田 勘次	各務原商工会議所青年部 (岐阜県)	相談役	〃	中西 勇	松阪商工会議所青年部 (三重県)	出向理事
〃	虎杖 徳明	奈良商工会議所青年部 (奈良県)	監事	〃	大村 利和	宮津商工会議所青年部 (京都府)	
〃	矢口 伸二	浜田商工会議所青年部 (鳥根県)		〃	澤 健一	鳥取商工会議所青年部 (鳥取県)	直前会長
〃	古川 博	阿南商工会議所青年部 (徳島県)		〃	平田 実	善通寺商工会議所青年部 (徳島県)	
〃	吉富 健一	熊本商工会議所青年部 (熊本県)	出向理事	〃	福田 義麿	柳川商工会議所青年部 (福岡県)	直前会長
総務委員長	高橋 弘司	花巻商工会議所青年部 (岩手県)	顧問	総務委員長	高橋 宏平	新発田商工会議所青年部 (新潟県)	理事
企画委員長	落合 伸介	米子商工会議所青年部 (鳥取県)	直前会長	企画委員長	鈴木 悌介	小田原商工会議所青年部 (神奈川県)	会長
研修委員長	桶谷 満	武生商工会議所青年部 (福井県)		研修委員長	藤田 晋市	大曲商工会議所青年部 (秋田県)	
広報委員長	栗原 正直	下館商工会議所青年部 (茨城県)	監事	広報委員長	田中 拓朗	徳山商工会議所青年部 (山口県)	直前会長
アドバイザー	角南 平治	児島商工会議所青年部 (岡山県)		アドバイザー	竹川 博子	松阪商工会議所青年部 (三重県)	出向理事
理事	村井 順一	釧路商工会議所青年部 (北海道)		理事	永桶 裕明	美唄商工会議所青年部 (北海道)	
〃	大黒 裕明	八戸商工会議所青年部 (青森県)	会長	〃	中渡 博	十和田商工会議所青年部 (青森県)	会長
〃	中村 真	石巻商工会議所青年部 (宮城県)		〃	門脇 秀朗	江刺商工会議所青年部 (岩手県)	相談役
〃	藤田 晋市	大曲商工会議所青年部 (秋田県)	商出青運 商出青運	〃	坂井 政行	気仙沼商工会議所青年部 (宮城県)	会長
〃	佐藤 秀司	米沢商工会議所青年部 (山形県)	副会長	〃	山田 浩樹	米沢商工会議所青年部 (山形県)	副会長
〃	林 克重	福島商工会議所青年部 (福島県)		〃	八巻 稔	原町商工会議所青年部 (福島県)	
〃	高橋 昇	真岡商工会議所青年部 (栃木県)	会長	〃	湯浅 清二	那珂湊商工会議所青年部 (茨城県)	
〃	柳田 秀男	太田商工会議所青年部 (群馬県)	会長	〃	篠崎 利和	小山商工会議所青年部 (栃木県)	会長
〃	河野 功	所沢商工会議所青年部 (埼玉県)	会長	〃	藤野 伸夫	沼田商工会議所青年部 (群馬県)	直前会長
〃	角谷 信一	大和商工会議所青年部 (神奈川県)	相談役	〃	田代 正人	行田商工会議所青年部 (埼玉県)	理事
〃	山本 章	藤枝商工会議所青年部 (静岡県)		〃	鈴木 統	館山商工会議所青年部 (千葉県)	県連出向
〃	古泉 幸一	亀田商工会議所青年部 (新潟県)	県連会長	〃	高部 三司	浜松商工会議所青年部 (静岡県)	監事
〃	橋本 光司	滑川商工会議所青年部 (富山県)		〃	高野 善誠	加賀商工会議所青年部 (石川県)	県連会長
〃	奥原 賢一	諏訪商工会議所青年部 (長野県)		〃	御子柴安正	下諏訪商工会議所青年部 (長野県)	直前会長
〃	八木 勇達	春日井商工会議所青年部 (愛知県)	監事	〃	鎌田 真悟	恵那商工会議所青年部 (岐阜県)	
〃	田中愛一郎	上野商工会議所青年部 (三重県)	出向理事	〃	榊原 康雄	半田商工会議所青年部 (愛知県)	理事
〃	堀井 直晃	守山商工会議所青年部 (滋賀県)	副会長	〃	鈴木 豊	刈谷商工会議所青年部 (愛知県)	監事
〃	辻川 祐司	京都商工会議所青年部 (京都府)	副会長	〃	松葉 幸子	敦賀商工会議所青年部 (福井県)	参与
〃	北野 勝彦	岸和田商工会議所青年部 (大阪府)	会長	〃	杉本 定幸	彦根商工会議所青年部 (滋賀県)	副会長
〃	菅野 恵市	加西商工会議所青年部 (兵庫県)	出向理事	〃	首藤俊一郎	北大阪商工会議所青年部 (大阪府)	理事
〃	平林 幹生	海南商工会議所青年部 (和歌山県)	会長	〃	福井 秀治	洲本商工会議所青年部 (兵庫県)	県連出向理事
〃	大野 徹	広島商工会議所青年部 (広島県)	顧問	〃	岡本 吉良	樫原商工会議所青年部 (奈良県)	
〃	河上 隆司	山口商工会議所青年部 (山口県)		〃	御前 紀朗	紀州有田商工会議所青年部 (和歌山県)	
〃	平田 実	善通寺商工会議所青年部 (香川県)	顧問	〃	能美 憲二	江津商工会議所青年部 (鳥根県)	
〃	石村 浩	川之江商工会議所青年部 (愛媛県)	県連会長	〃	岡田 伸政	西大寺商工会議所青年部 (岡山県)	県連会長
〃	辻 伸吾	中村商工会議所青年部 (高知県)	直前会長	〃	田村 満則	広島商工会議所青年部 (広島県)	
〃	石橋 昭二	八女商工会議所青年部 (福岡県)	県連会長	〃	中村 盛彦	阿波池田商工会議所青年部 (徳島県)	会長
〃	山崎 好行	武雄商工会議所青年部 (佐賀県)	顧問	〃	水野 幸茂	新居浜商工会議所青年部 (愛媛県)	県連会長
〃	古賀 勝	佐世保商工会議所青年部 (長崎県)	商青連出向	〃	安芸 商工	安芸商工会議所青年部 (高知県)	副会長
〃	下瀬 隆行	豊後高田商工会議所青年部 (大分県)		〃	吉武 高史	鹿島商工会議所青年部 (佐賀県)	商青連出向
〃	田崎 辰郎	日向商工会議所青年部 (宮崎県)	特別理事	〃	池田 信二	大村商工会議所青年部 (長崎県)	直前会長
〃	妹尾 隆哉	鹿児島商工会議所青年部 (鹿児島県)	副会長	〃	森 一弘	山鹿商工会議所青年部 (熊本県)	直前会長
〃	上原 守	那覇商工会議所青年部 (沖縄県)		〃	山南 晋	竹田商工会議所青年部 (大分県)	理事
監事	板垣 清志	豊田商工会議所青年部 (愛知県)	相談役	〃	林 靖浩	串間商工会議所青年部 (宮崎県)	理事
〃	足立 善信	吹田商工会議所青年部 (大阪府)	顧問	〃	大脇 唯真	鹿児島商工会議所青年部 (鹿児島県)	県連会長
相談役	松田 祥吾	長崎商工会議所青年部 (長崎県)	相談役	〃	堀川 政憲	沖繩宮古商工会議所青年部 (沖繩県)	理事
〃	大村 晴利	大宮商工会議所青年部 (埼玉県)	相談役	監事	前田 勘次	各務原商工会議所青年部 (岐阜県)	理事
顧問	近藤 英明	日本商工会議所中小企業振興部長		〃	福田 有史	久留米商工会議所青年部 (福岡県)	顧問
				相談役	大村 晴利	大宮商工会議所青年部 (埼玉県)	相談役
				〃	吉本 博次	奈良商工会議所青年部 (奈良県)	相談役
				顧問	新井 豊吉	日本商工会議所中小企業振興部長	

年度	平成 13 年度			年度	平成 14 年度		
役職名	氏名	青年部名	青年部の役職	役職名	氏名	青年部名	青年部の役職
会長	古泉 幸一	亀田商工会議所青年部（新潟県）	常任理事	会長	大脇 唯真	鹿児島商工会議所青年部（鹿児島県）	特別相談役
直前会長	倉橋 純造	青森商工会議所青年部（青森県）	顧問	直前会長	古泉 幸一	亀田商工会議所青年部（新潟県）	常任理事
副会長	大脇 唯真	鹿児島商工会議所青年部（鹿児島県）	県連・専会 直前会長	副会長	鈴木 倭介	小田原商工会議所青年部（神奈川県）	相談役
	関根 敏伸	北上商工会議所青年部（岩手県）	相談役	〃	永桶 裕明	美唄商工会議所青年部（北海道）	会長
	首藤俊一郎	北大阪商工会議所青年部（大阪府）	理事	〃	大村 利和	宮津商工会議所青年部（京都府）	出向理事
	辻 伸吾	中村商工会議所青年部（高知県）	理事	〃	中塚総一郎	児島商工会議所青年部（岡山県）	相談役
専務理事	鈴木 肇	藤沢商工会議所青年部（神奈川県）	相談役	専務理事	宗野 和博	久留米商工会議所青年部（福岡県）	理事
プロック代表理事	永桶 裕明	美唄商工会議所青年部（北海道）	副会長	プロック代表理事	国枝 恭二	帯広商工会議所青年部（北海道）	顧問
〃	斎藤 明彦	米沢商工会議所青年部（山形県）	理事	〃	鈴木 順三	弘前商工会議所青年部（青森県）	会長
〃	辻 博明	宇都宮商工会議所青年部（栃木県）	直前会長	〃	山田 雄道	諏訪商工会議所青年部（長野県）	直前会長
〃	鈴木 信嘉	村上商工会議所青年部（新潟県）	直前会長	〃	遠藤 真弘	沼津商工会議所青年部（静岡県）	特別理事
〃	原田 隆司	豊田商工会議所青年部（愛知県）	出向理事	〃	牛丸 圭五	高山商工会議所青年部（岐阜県）	直前会長
〃	杉本 登	新宮商工会議所青年部（和歌山県）		〃	中村 寿志	長浜商工会議所青年部（滋賀県）	直前会長
〃	中塚総一郎	児島商工会議所青年部（岡山県）	県連会長	〃	仁田 一郎	広島商工会議所青年部（広島県）	顧問
〃	中畑 利介	宇和島商工会議所青年部（愛媛県）	理事	〃	味本 隆	高知商工会議所青年部（高知県）	副会長
〃	峰 達郎	唐津商工会議所青年部（佐賀県）		〃	松下一郎	枕崎商工会議所青年部（鹿児島県）	県連会長 出向理事
総務委員長	西村 修	酒田商工会議所青年部（山形県）	商青連 出向理事	総務委員長	阿部 幹郎	福島商工会議所青年部（福島県）	商青連 出向理事
企画委員長	宗野 和博	久留米商工会議所青年部（福岡県）	副会長	企画委員長	清水 雅文	倉吉商工会議所青年部（鳥取県）	理事
研修委員長	西居 基晴	大津商工会議所青年部（滋賀県）		研修委員長	杉本 定幸	彦根商工会議所青年部（滋賀県）	会長
広報委員長	山本 和正	各務原商工会議所青年部（岐阜県）	直前会長	広報委員長	東口由美子	加賀商工会議所青年部（石川県）	出向理事
フットボール部長	越智 英俊	東予市商工会議所青年部（愛媛県）	県連出向理事	フットボール部長	石原 一夫	伊勢崎商工会議所青年部（群馬県）	相談役
理事	国枝 恭二	帯広商工会議所青年部（北海道）		20周年記念事業委員長	伴田 宏	村上商工会議所青年部（新潟県）	常任理事
〃	鈴木 順三	弘前商工会議所青年部（青森県）	県連会長	理事	齋藤 雅	深川商工会議所青年部（北海道）	直前会長
〃	嵯峨 老朗	久慈商工会議所青年部（岩手県）	理事	〃	中山 俊一	青森商工会議所青年部（青森県）	会長
〃	佐藤 利明	古川商工会議所青年部（宮城県）	専務理事	〃	小鯖 利弘	釜石商工会議所青年部（岩手県）	直前会長
〃	高橋 茂	横手商工会議所青年部（秋田県）	理事	〃	西村 裕行	塩釜商工会議所青年部（宮城県）	広報副委員長
〃	阿部 幹郎	福島商工会議所青年部（福島県）	商青連 出向理事	〃	鳥潟 功	大館商工会議所青年部（秋田県）	
〃	宮田 豊和	結城商工会議所青年部（茨城県）	直前会長	〃	鈴木 吉彦	山形商工会議所青年部（山形県）	副会長
〃	富川 吉昭	渋川商工会議所青年部（群馬県）	会長	〃	安田 喜好	須賀川商工会議所青年部（福島県）	
〃	安藤 秀男	草加商工会議所青年部（埼玉県）	会長	〃	島岡 宏明	土浦商工会議所青年部（茨城県）	
〃	関 学	柏商工会議所青年部（千葉県）	商青連 出向理事	〃	西岡 一明	日光地区商工会議所青年部（栃木県）	会長
〃	鈴木 倭介	小田原商工会議所青年部（神奈川県）	会長	〃	田中 一幸	前橋商工会議所青年部（群馬県）	特別理事
〃	遠藤 真弘	沼津商工会議所青年部（静岡県）	監事	〃	町田 啓介	秩父商工会議所青年部（埼玉県）	監事
〃	山ノ下武志	黒部商工会議所青年部（富山県）	県連会長	〃	関 学	柏商工会議所青年部（千葉県）	商青連 出向理事
〃	松本 仁	輪島商工会議所青年部（石川県）	直前会長	〃	福西 定敏	横須賀商工会議所青年部（神奈川県）	相談役
〃	野澤 真人	塩尻商工会議所青年部（長野県）		〃	松浦 富雄	島田商工会議所青年部（静岡県）	監事
〃	大西 一司	高山商工会議所青年部（岐阜県）	理事	〃	川口 裕	五泉商工会議所青年部（新潟県）	常任理事
〃	笠間 清	亀山商工会議所青年部（三重県）	監事	〃	福井 智一	砺波商工会議所青年部（富山県）	監事
〃	山岸 寛士	福井商工会議所青年部（福井県）	参与	〃	飯田 伸一	七尾商工会議所青年部（石川県）	参与
〃	金山 英信	八日市商工会議所青年部（滋賀県）	副会長	〃	藤田 英則	松代商工会議所青年部（長野県）	副会長
〃	竹原 繁明	宮津商工会議所青年部（京都府）	理事	〃	田中政明喜	津島商工会議所青年部（愛知県）	理事
〃	岩崎 道彦	和泉商工会議所青年部（大阪府）	県連出向理事	〃	佐藤 正信	桑名商工会議所青年部（三重県）	県連出向理事
〃	木下 一成	加古川商工会議所青年部（兵庫県）		〃	林 洋三	福井商工会議所青年部（福井県）	
〃	水本 和良	大和高田商工会議所青年部（奈良県）		〃	山本 博美	綾部商工会議所青年部（京都府）	副会長
〃	清水 雅文	倉吉商工会議所青年部（鳥取県）		〃	森田 展旦	守口門真商工会議所青年部（大阪府）	直前会長
〃	渡部 哲也	安来商工会議所青年部（鳥根県）	県連会長	〃	守岡 正彦	赤穂商工会議所青年部（兵庫県）	県連会長
〃	仁田 一郎	広島商工会議所青年部（広島県）		〃	岡崎 育史	奈良商工会議所青年部（奈良県）	
〃	光永 武	山陽商工会議所青年部（山口県）	会長	〃	丸山 信仁	御坊商工会議所青年部（和歌山県）	会長
〃	原田 和典	鴨島商工会議所青年部（徳島県）	県連会長	〃	足立耕太郎	米子商工会議所青年部（鳥取県）	県連会長
〃	山下 仁規	多度津商工会議所青年部（香川県）	副会長	〃	塚本 功治	出雲商工会議所青年部（鳥根県）	副会長
〃	味本 隆	高知商工会議所青年部（高知県）	商青連出向	〃	梶谷 俊介	岡山商工会議所青年部（岡山県）	商青連出向
〃	上田 崇仁	北松商工会議所青年部（長崎県）	直前会長	〃	高田 秀穂	広島商工会議所青年部（広島県）	直前会長
〃	木村 寿宏	熊本商工会議所青年部（熊本県）	直前会長	〃	河野 隆文	防府商工会議所青年部（山口県）	直前会長
〃	河野 巧	臼杵商工会議所青年部（大分県）	理事	〃	松内 雅博	徳島商工会議所青年部（徳島県）	理事
〃	水溜 真樹	小林商工会議所青年部（宮崎県）	理事	〃	秋山 浩志	丸亀商工会議所青年部（香川県）	理事
〃	松下一郎	枕崎商工会議所青年部（鹿児島県）	県連会長 直前会長	〃	越智 英俊	東予市商工会議所青年部（愛媛県）	県連会長
〃	新里 建二	沖繩商工会議所青年部（沖繩県）	理事	〃	定石 光治	行橋商工会議所青年部（福岡県）	理事
監事	加城 祐史	網走商工会議所青年部（北海道）	理事	〃	服巻 芳史	小城商工会議所青年部（佐賀県）	理事
〃	千葉富士夫	古川商工会議所青年部（宮城県）	顧問	〃	川西 嘉則	長崎商工会議所青年部（長崎県）	顧問
相談役	吉本 博次	奈良商工会議所青年部（奈良県）	相談役	〃	平田 雄二	玉名商工会議所青年部（熊本県）	相談役
〃	北島 重利	徳島商工会議所青年部（徳島県）	相談役	〃	鳥越 繁一	津久見商工会議所青年部（大分県）	商青連 出向理事
顧問	新井 豊吉	日本商工会議所中小企業振興部長		〃	岩切 正司	高鍋商工会議所青年部（宮崎県）	副会長
				〃	屋良 学	浦添商工会議所青年部（沖繩県）	
				監事	加城 祐史	網走商工会議所青年部（北海道）	監事
				〃	上田 崇仁	北松商工会議所青年部（長崎県）	
				相談役	北島重利	徳島商工会議所青年部（徳島県）	相談役
				〃	倉橋純造	青森商工会議所青年部（青森県）	顧問
				顧問	土橋 和則	日本商工会議所中小企業振興部長	

年度	平成15年度予定者		
役職名	氏名	青年部名	14年度役職名
会長	鈴木 倂介	小田原商工会議所青年部（神奈川県）	相談役
副会長	森田 展且	守口門真商工会議所青年部（大阪府）	直前会長
〃	齋藤 明彦	米沢商工会議所青年部（山形県）	理事
〃	竹川 博子	松阪商工会議所青年部（三重県）	会長
〃	清水 雅文	倉吉商工会議所青年部（鳥取県）	理事
専務理事	関 学	柏商工会議所青年部（千葉県）	商派青運理事
ブロック代表理事	江戸 雅夫	留萌商工会議所青年部（北海道）	特別理事
〃	坪井 大雄	福島商工会議所青年部（福島県）	出向理事
〃	小暮 達也	館林商工会議所青年部（群馬県）	会長
〃	宮島 隆幸	松任商工会議所青年部（石川県）	会長
〃	伊藤 素近	鈴鹿商工会議所青年部（三重県）	直前会長
〃	木下 一成	加古川商工会議所青年部（兵庫県）	県連出向理事
〃	富永 洋一	下関商工会議所青年部（山口県）	直前会長
〃	芝野 光	鳴門商工会議所青年部（徳島県）	会長
〃	岩切 正司	高鍋商工会議所青年部（宮崎県）	副会長
総務委員長	妹尾 隆哉	鹿児島商工会議所青年部（鹿児島県）	会長
企画委員長	後藤 健市	帯広商工会議所青年部（北海道）	副会長
研修委員長	浅井 秀明	浜松商工会議所青年部（静岡県）	特別委員長
広報委員長	丸山 信仁	御坊商工会議所青年部（和歌山県）	会長
ポシエビシキ委員長	梶谷 俊介	岡山商工会議所青年部（岡山県）	直前会長
ビシキカクシキ委員長	高橋 茂	横手商工会議所青年部（秋田県）	理事
理事	川田 弘教	登別商工会議所青年部（北海道）	会長
〃	嶋口 裕康	五所川原商工会議所青年部（青森県）	会長
〃	小鯖 利弘	釜石商工会議所青年部（岩手県）	直前会長
〃	坂井 政行	気仙沼商工会議所青年部（宮城県）	理事
〃	佐藤 俊行	秋田商工会議所青年部（秋田県）	事務局長
〃	松田 善信	山形商工会議所青年部（山形県）	理事
〃	福地 雅人	福島商工会議所青年部（福島県）	委員
〃	清水 俊智	勝田商工会議所青年部（茨城県）	直前会長
〃	東郷 隆浩	大田原商工会議所青年部（栃木県）	会計
〃	茂木 直久	館林商工会議所青年部（群馬県）	直前会長
〃	細井 道栄	春日部商工会議所青年部（埼玉県）	相談役
〃	阿部 博志	千葉商工会議所青年部（千葉県）	会長
〃	山中 仁	相模原商工会議所青年部（神奈川県）	直前会長
〃	山田 信博	三島商工会議所青年部（静岡県）	会長
〃	保坂 裕一	加茂商工会議所青年部（新潟県）	直前会長
〃	平田 一彌	高岡商工会議所青年部（富山県）	会長
〃	吉田 守伸	小松商工会議所青年部（石川県）	副会長
〃	花石 真一	中野商工会議所青年部（長野県）	
〃	亀山 健壽	関商工会議所青年部（岐阜県）	経営委員長
〃	森岡 厚	東海商工会議所青年部（愛知県）	顧問
〃	吉岡 正修	福井商工会議所青年部（福井県）	監事
〃	山田 英樹	大津商工会議所青年部（滋賀県）	理事・委員長 研修委員長
〃	勝山 茂樹	宇治商工会議所青年部（京都府）	監事
〃	小園 浩幸	高石商工会議所青年部（大阪府）	会長
〃	山本 朝孝	大和高田商工会議所青年部（奈良県）	特別事業委員会 副委員長
〃	佐井川義晃	田辺商工会議所青年部（和歌山県）	理事
〃	荒濱健太郎	米子商工会議所青年部（鳥取県）	会長
〃	犬塚 勉	益田商工会議所青年部（鳥根県）	理事・総務 委員長
〃	室賀 康史	岡山商工会議所青年部（岡山県）	副会長
〃	櫻井 文晶	広島商工会議所青年部（広島県）	会長
〃	菊池 健次	鳴門商工会議所青年部（徳島県）	理事
〃	藤田 典生	観音寺商工会議所青年部（香川県）	理事
〃	村上 幸司	今治商工会議所青年部（愛媛県）	会長
〃	谷脇 和幸	須崎商工会議所青年部（高知県）	会長
〃	津村 弘毅	大川商工会議所青年部（福岡県）	会長
〃	川井真太郎	伊万里商工会議所青年部（佐賀県）	副会長
〃	津崎 幸三	松浦商工会議所青年部（長崎県）	会長
〃	高木 洋一	荒尾商工会議所青年部（熊本県）	理事
〃	高橋 幹雄	佐賀関商工会議所青年部（大分県）	監事
〃	名嘉 義明	那覇商工会議所青年部（沖縄県）	副会長
監事	永桶 裕明	美唄商工会議所青年部（北海道）	会長
〃	大村 利和	宮津商工会議所青年部（京都府）	出向理事

※直前会長、相談役、顧問は会長が役員会の承認を得て委嘱するものであるため、予定者段階ではないこととなる。

# あ と が き

今年度は、昭和58年4月1日の商青連発足から20年目を迎え、そして日本商工会議所の定款にその名が刻まれ名実ともに商青連が新しい時代に入ってきた事を感じます。この20周年記念誌<sup>\*</sup>を発刊するに当たり、我々は今を大きな節目の時として、改めて全国の青年部に今どうあるのか、そこからどうしていけば良いのかを問うことにしました。

具体的には、全国の各単会会長を対象とした商青連についてのアンケートを行い、今後の活動に対し様々なご意見・提言をいただき、紙面の許す限り掲載いたしました。ご協力をいただきました全国のYEGの仲間に改めて御礼を申し上げます。

また日本商工会議所 山口会頭と商青連 大協会長との対談を実現し、今後の商青連に対しご指導・ご鞭撻を賜りました。また親会として青年部に寄せる期待をひしひしと感じ、ますます商青連の責任の重さを感じました。大変貴重なお時間をいただいた山口会頭をはじめ、ご協力いただいた関係各位に心から感謝を申し上げます。

そして皆様の商青連に対する思いを反映させた「中長期ビジョン」をこの記念誌に盛り込むことが出来ました。鈴木担当副会長を中心に当委員会で時間をかけてまとめたものです。今後のYEG活動の一助となれば幸いです。

今こうして成人式を迎えた商青連が進もうとしている道を、大協会長の年度始めの所信表明に見つけました。この言葉を紹介し、明日からの青年部活動にエールを送りたいと思います。

「…YEGが全員スクラムで、一人がみんなの為に、みんなが一人の為に！

one for all ,all for one! のスピリッツを持ち、既成にとらわれず、

連帯の証である“夢に挑む！”を合言葉に突き進もうではありませんか！…」

一年間に渡り、当委員会は全体テーマでもある「3万人の為の商青連」に一步でも近づくことを目標に、そのための一助となることを願い記念誌の作成を進めてまいりました。そして無事ここに発刊出来ましたことは、全国の皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。最後に、この記念誌の作成にあたり、日本商工会議所、前橋商工会議所の阿部さん、金井さん、滝沢さん、村上商工会議所の相馬さんには、大変お世話になり誠に有難うございました。心から感謝を申し上げます。

\* 商青連では設立後○年目を迎えた年度を○周年の年度とする。

日 本 商 工 会 議 所  
全国商工会議所青年部連合会

平成14年度 20周年記念事業委員会



商青連設立20周年記念誌

商工会議所青年部「立ち止まるな!そして胸を張れ!」

平成15年2月発行

編集・発行 日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2 日本商工会議所内  
会長 大脇 唯真 (鹿児島商工会議所青年部)

平成14年度 20周年記念事業委員会

担当副会長 鈴木 悌介 (小田原商工会議所青年部)  
委員長 伴田 宏 (村上商工会議所青年部)  
副委員長 山本 博美 (綾部商工会議所青年部)  
副委員長 鳥越 繁一 (津久見商工会議所青年部)  
委員 西村 裕行 (塩釜商工会議所青年部)  
委員 鈴木 吉彦 (山形商工会議所青年部)  
委員 田中 一幸 (前橋商工会議所青年部)  
委員 町田 啓介 (秩父商工会議所青年部)

印 刷 株式会社 フォト・スタンプ新潟  
〒958-0803 新潟県村上市天神岡381